

令和6年度
(2024年度)
選択科目シラバス

新潟県立佐渡総合高等学校

シラバス目次

教科	科目	ページ
国語	論理国語	1
	国語表現	5
	古典探究	8
地理・歴史	地理探究	12
	日本史探究	18
	世界史探究	21
公民	倫理	25
	政治・経済	29
数学	数学Ⅱ	33
	数学総合	35
理科	物理基礎	37
	物理	40
	化学	42
	生物基礎	45
	生物	48
	地学基礎	51
外国語	コミュニケーション英語Ⅲ	54
	論理表現Ⅰ	56
	論理表現Ⅱ	59
農業	農業と環境	62
	課題研究	65
	総合実習	67
	作物	69
	野菜	72
	果樹	75
	草花	78
	農業経営	81
	食品製造(2年次)	83
	食品製造(3年次)	86
	生物活用	89
	地域資源活用	91
	工業	工業技術基礎
実習		97
製図		100
工業情報数理		104
工業材料技術		108

教科	科目	ページ
工業	工業環境技術	111
	生産技術	114
	電気回路	118
	プログラミング技術	122
	ハードウェア技術	126
	測量	130
商業	ビジネス基礎	133
	ビジネスコミュニケーション	136
	マーケティング	139
	観光ビジネス	141
	ビジネス法規	144
	簿記	146
	財務会計Ⅰ	151
	原価計算	154
	情報処理	158
	ソフトウェア活用	161
	消費生活	164
	保育基礎	167
	住生活デザイン	169
	ファッション造形基礎	172
家庭	ファッション造形	175
	服飾手芸	177
	フードデザイン	179
	調理	181
	福祉	183
地域学	社会福祉基礎	183
	生活支援技術	186
	地域学A	189
	地域学B	191
	音楽総合A	193
	音楽総合B	196
書道講座	198	
書道探究	201	
令和6年度入学生の教育課程		

教科(科目)	国語(論理国語)	単位数	4単位	学年(系列)	3年次(選択)
教科書	第一学習社『高等学校 論理国語』				
副教材等	第一学習社『論理国語 準拠ワーク』、浜島書店『漢字ボックス』、 浜島書店『新訂版 最新国語便覧』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切に指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2)深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いやりや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから以下を重点とする。</p> <p>① 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の確実な習得を目指す。</p> <p>② 文章を的確に理解した上で、自分の考え方を確立させることを目指し、更にそれらを的確に表現し、積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てる。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深

	的に考える力や深く共感したり豊に創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う医力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
--	--	---

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の方法	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテストの分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 <p>などから、評価します。</p>
	<p>内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。</p>		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前期	評論 (一)	10時間 「A 話すこと・聞くこと」 「B 書くこと」 「C 読むこと」	鷲田清一 『自他の「間あい」』	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開について、ワークシートに記入する。 ・要旨を200字程度で要約する。 ・互いの要約を読み比べ、コメントを書く。 ・説得力のある文章の特徴について考え、発表する。 	10時間	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	評論 (二)	5時間 「A 話すこと・聞くこと」 「B 書くこと」 「C 読むこと」	森田良行 『「私」中心の日本語』	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開について、ワークシートに記入する。 ・要旨を200字程度で要約する。 ・互いの要約を読み比べ、コメントを書く。 ・説得力のある文章の特徴について考え、発表する。 	5時間	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	評論 (三)	10時間 「A 話すこと・聞くこと」 「B 書くこと」 「C 読むこと」	清岡卓行 『手の変幻』	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開について、ワークシートに記入する。 ・要旨を200字程度で要約する。 ・互いの要約を読み比べ、コメントを書く。 ・説得力のある文章の特徴について考え、発表する。 	10時間	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	評論 (四)	5時間 「A 話すこと・聞くこと」 「B 書くこと」	長谷川英祐 『働かないアリに』	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開について、ワークシートに記入する。 ・要旨を200字程度で要約する。 ・互いの要約を読み比べ、コメントを 	5時間	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 提出物の分析

		こと」読む こと」	意義がある」	書く。 ・説得力のある文章の特徴について考え、発表する。		発表の分析
	評論（五）	10時間 「A話す こと」 「B書く こと」 「C読む こと」	福岡伸一 「なぜ 多様性が 必要か」	・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開について、ワークシートに記入する。 ・要旨を200字程度で要約する。 ・互いの要約を読み比べ、コメントを書く。 ・説得力のある文章の特徴について考え、発表する。	10時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	評論（六）	10時間 「A話す こと」 「B書く こと」 「C読む こと」	若林幹夫 『第二の身体』 としてのメディア と技術	・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開について、ワークシートに記入する。 ・要旨を200字程度で要約する。 ・互いの要約を読み比べ、コメントを書く。 ・説得力のある文章の特徴について考え、発表する。	10時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
後 期	評論（七）	5時間 「A話す こと」 「B書く こと」 「C読む こと」	金森修 「人間という 中心とそれ よりも 軽い命」	・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開について、ワークシートに記入する。 ・要旨を200字程度で要約する。 ・互いの要約を読み比べ、コメントを書く。 ・説得力のある文章の特徴について考え、発表する。	5時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	評論（八）	5時間 「A話す こと」 「B書く こと」 「C読む こと」	浜田寿美男 「身体 の個性」	・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開について、ワークシートに記入する。 ・要旨を200字程度で要約する。 ・互いの要約を読み比べ、コメントを書く。 ・説得力のある文章の特徴について考え、発表する。	5時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	評論（九）	5時間 「A話す こと」 「B書く こと」 「C読む こと」	大澤真幸 「リスク社会 とは何か」	・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開について、ワークシートに記入する。 ・要旨を200字程度で要約する。 ・互いの要約を読み比べ、コメントを書く。 ・説得力のある文章の特徴について考え、発表する。	5時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	評論（十）	10時間 「A話す こと」 「B書く こと」 「C読む こと」	中村雄二郎 「目に見える 制度と見えな い制度」	・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開について、ワークシートに記入する。 ・要旨を200字程度で要約する。 ・互いの要約を読み比べ、コメントを書く。 ・説得力のある文章の特徴について考え、発表する。	10時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
		10時間 「A話す こと」 「B書く こと」 「C読む こと」	丸山真男 『「である」 ことと 「する」 こと』	・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開について、ワークシートに記入する。 ・要旨を200字程度で要約する。 ・互いの要約を読み比べ、コメントを書く。 ・説得力のある文章の特徴について考え、発表する。	10時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
			10時間 「A話す こと」 「B書く こと」 「C読む こと」	北村透谷	・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開について、ワークシートに記入する。 ・要旨を200字程度で要約する。	10時間

評論 (十一)	「こと」 「B 書くこと」 「C 読むこと」	「漫罵」	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの要約を読み比べ、コメントを書く。 ・説得力のある文章の特徴について考え、発表する。 		提出物の分析 発表の分析
	10時間 「A 話すこと・聞くこと」 「B 書くこと」 「C 読むこと」	夏目漱石 「現代日本の開化」	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張や論拠、文章の構成、論理の展開について、ワークシートに記入する。 ・要旨を200字程度で要約する。 ・互いの要約を読み比べ、コメントを書く。 ・説得力のある文章の特徴について考え、発表する。 	10時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析

※ 領域ごとの授業時数合計

計 140 時間 (50 分授業)

領域	A 「話すこと・聞くこと」	B 「書くこと」	C 「読むこと」
合計 140 時間	50 時間	30 時間	60 時間

7 課題・提出物等

- ・ 単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなる。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示する。(指定図書の見書レポートなど)

8 担当者からの一言

「論理国語」は、「学習目標」にあるとおり、言葉による見方・考え方をより深めることを目指します。基本的な事柄を大切に積み上げつつ、大切なコミュニケーションの基礎を築いてください。(担当： 氏名)

教科(科目)	国語(国語表現)	単位数	4 単位	学年(系列)	3 学年 (人文自然科学系列)
教科書	国語表現改訂版(大修館書店)	副教材			
履修条件	主として大学・短大等の上級学校に進学を希望する者で、受験で「作文・小論文」が必要となる者。				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

<p>グラデュエーション・ポリシー</p>	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
<p>カリキュラム・ポリシー</p>	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2)深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いやりや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから以下を重点とする。</p> <p>① 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の確実な習得を目指す。</p> <p>② 文章を的確に理解した上で、自分の考え方を確立させることを目指し、更にそれらを的確に表現し、積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てる。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊に創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

5 評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の方法	上記の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	上記の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	上記の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

学期	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前期	第I部	書いて伝える 小論文・レポート入門 自己PRと面接	・言葉、表現への関心を深める。 表記・係り受け・接続表現・指示表現・要約方法など 文章表現の基礎を身に付ける。 ・作文・小論文・レポート作成について基礎・応用を学ぶ。 ・課題型、テーマ型、データ型等の各種作文・小論文の実作を行う。 ・面接や言葉での表現について学ぶ。 ・副教材を用いて現代社会の重要事項を学び、意見を持つ。	24 24 24	定期考査、課題・提出物、授業への参加姿勢
			・作文・小論文実作を引き続き行う。 ・面接等に対応した言語表現やしゃべり方指導を行う。 ・短歌・俳句・エッセイ・物語等、創作活動を行う。	17 17	
後	第I部 第II部	メディアを駆使する 声とコミュニケーション	・作文・小論文実作を引き続き行う。 ・面接等に対応した言語表現やしゃべり方指導を行う。 ・短歌・俳句・エッセイ・物語等、創作活動を行う。	17 17	定期考査、課題・提出物、

期	会話・議論・発表 表現を楽しむ	・副教材を用いて現代社会の重要事項を学び、意見を持つ。	17 17	授業への参加 姿勢
---	--------------------	-----------------------------	----------	--------------

※ 領域ごとの授業時数合計

計 140 時間 (50 分授業)

領域	A 「話すこと・聞くこと」	B 「書くこと」	C 「読むこと」
合計 140 時間	50 時間	30 時間	60 時間

7 課題・提出物等

- ・小論文、作文等の文章作成等の表現に関する演習を中心に行う。
- ・調べ学習や発表等の表現活動を適宜行う。

8 担当者からの一言

「国語表現」は、「学習目標」にあるとおり、言葉による見方・考え方をより深めることを目指します。
基本的な事柄を大切に積み上げつつ、大切なコミュニケーションの基礎を築いてください。 (担当： 氏 名)

教科(科目)	国語(古典探究)	単位数	4単位	学年(系列)	2年次(選択)
教科書	数研出版『高等学校 古典探究』				
副教材等	数研出版『高等学校 古典探究 準拠ワーク』 浜島書店『新訂版 最新国語便覧』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切に指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、</p> <p>① 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の確実な習得を目指す。 文章を的確に理解した上で、自分の考え方を確立させることを目指す。</p> <p>② 更にそれらを的確に表現し、積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てる。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深

	<p>的に考える力や深く共感したり豊に創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う医力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。</p>	<p>めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。</p>
--	---	--

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。		
知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<p>・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。</p>	<p>・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊に創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う医力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。</p>	<p>・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。</p>
<p>以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。</p>

6 学習計画

	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前期	歌物語	5時間 「A話すこと」 「B書くこと」 「C読むこと」	歌物語 『伊勢物語』 「初冠」 「渚の院」 『大和物語』 「をばすて山」	<ul style="list-style-type: none"> ・物語を味わい、口語訳を通して鑑賞する。 ・古文単語や基礎的文法の事項に留意し、物語の筋をつかんで口語訳する。 ・用言の基本事項とその活用について理解する。 	5時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	随筆	10時間 「A話すこと」 「B書くこと」 「C読むこと」	随筆(一) 『枕草子』 「すさまじきもの」 「大納言参り給ひて」	<ul style="list-style-type: none"> ・物語を味わい、口語訳を通して鑑賞する。 ・古文単語や基礎的文法の事項に留意し、物語の筋をつかんで口語訳する。 ・用言の基本事項とその活用について理解する。 	10時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
		10時間 「A話すこと」 「B書くこと」 「C読むこと」	随筆(二) 『方丈記』 「ゆく河の流れ」 「養和の飢饉」 『徒然草』 「あだし野の露」 「花は盛りに」	<ul style="list-style-type: none"> ・物語を味わい、口語訳を通して鑑賞する。 ・古文単語や基礎的文法の事項に留意し、物語の筋をつかんで口語訳する。 ・用言の基本事項とその活用について理解する。 	10時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	歴史物語	10時間 「A話すこと」 「B書くこと」 「C読むこと」	『大鏡』 「花山天皇の出家」 「南院の競射」	<ul style="list-style-type: none"> ・物語を味わい、口語訳を通して鑑賞する。 ・古文単語や基礎的文法の事項に留意し、物語の筋をつかんで口語訳する。 ・用言の基本事項とその活用について理解する。 	10時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析

	軍記物語	10時間 「A話すこと」 「B書くこと」 「C読むこと」	『平家物語』 「忠度の都落ち」 「壇ノ浦」	・物語を味わい、口語訳を通して鑑賞する。 ・古文単語や基礎的文法の事項に留意し、物語の筋をつかんで口語訳する。 ・用言の基本事項とその活用について理解する。	10時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	史伝	15時間 「A話すこと」 「B書くこと」 「C読むこと」	『史記』 「鴻門之会」 「四面楚歌」 「項王自刎」	・物語を味わい、口語訳を通して鑑賞する。 ・古文単語や基礎的文法の事項に留意し、物語の筋をつかんで口語訳する。 ・用言の基本事項とその活用について理解する。	15時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	思想	15時間 「A話すこと」 「B書くこと」 「C読むこと」	『論語』 「長沮桀溺」 『孟子』 「不忍人之心」 『荀子』 「性悪」 『老子』 「無為之治」 『莊子』 「夢為胡蝶」 『韓非子』 「侵官之害」	・物語を味わい、口語訳を通して鑑賞する。 ・古文単語や基礎的文法の事項に留意し、物語の筋をつかんで口語訳する。 ・用言の基本事項とその活用について理解する。	15時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
後 期	日記文学	20時間 「A話すこと」 「B書くこと」 「C読むこと」	『更級日記』 「東路の道の果て」 「物語」 『蜻蛉日記』 「父の離京」 『紫式部日記』 「同僚女房評」 『和泉式部日記』 「薫る香に」	・物語を味わい、口語訳を通して鑑賞する。 ・古文単語や基礎的文法の事項に留意し、物語の筋をつかんで口語訳する。 ・用言の基本事項とその活用について理解する。	20時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	物語	20時間 「A話すこと」 「B書くこと」 「C読むこと」	『源氏物語』 「光源氏の誕生」 「小柴垣のもと」 「須磨」 「紫の上の死」	・物語を味わい、口語訳を通して鑑賞する。 ・古文単語や基礎的文法の事項に留意し、物語の筋をつかんで口語訳する。 ・用言の基本事項とその活用について理解する。	20時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	評論	5時間 「A話すこと」 「B書くこと」 「C読むこと」	『去来抄』 「行く春を」	・物語を味わい、口語訳を通して鑑賞する。 ・古文単語や基礎的文法の事項に留意し、物語の筋をつかんで口語訳する。 ・用言の基本事項とその活用について理解する。	5時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	史伝	15時間 「A話すこと」 「B書くこと」 「C読むこと」	『史記』 「伯夷・叔斉」 「勿頸の交はり」 「風蕭蕭として 易水寒し」	・物語を味わい、口語訳を通して鑑賞する。 ・古文単語や基礎的文法の事項に留意し、物語の筋をつかんで口語訳する。 ・用言の基本事項とその活用について理解する。	15時間	ペーパーテストの分析 提出物の分析 発表の分析
	漢詩	15時間 「A話すこと」	古体詩 「長沮桀溺」 「桃夭」	・物語を味わい、口語訳を通して鑑賞する。 ・古文単語や基礎的文法の事項に留意し、物語の筋をつかんで口語訳する。	15時間	ペーパーテストの分析

	「B書くこと」 「C読むこと」	「飲酒」 「石壕吏」	意し、物語の筋をつかんで口語訳する。 ・用言の基本事項とその活用について理解する。	間	提出物の分析 発表の分析
--	--------------------	---------------	--	---	---------------------

※ 領域ごとの授業時数合計

計 140 時間 (50 分授業)

領域ごとの授業時数	A 「話すこと・聞くこと」	B 「書くこと」	C 「読むこと」
合計 140 時間	50 時間	60 時間	30 時間

7 課題・提出物等

- ・ 適宜、課題が指示されます。範囲、内容はその都度指示します。
- ・ 単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

「古典探究」は、上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深めることに主眼を置き、言語文化を継承・発展させる態度を養おうとする科目です。実社会に必要な国語の知識や技能を身につけたり、言葉による見方考え方を働かせ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像する力を伸ばしたり、言葉が持つ価値への認識を深めたりすることなどを目指します。「現代の国語」及び「言語文化」で学ぶことは、高校3年間だけでなく、皆さんの生涯にわたる基礎となります。授業では、基礎・基本を大切にするとともに、実際に話したり書いたりする学習活動を通して、応用力を高めていきます。楽しみながら、力を伸ばしていきましょう。(担当： 氏名)

教科(科目)	地理探究(地理歴史)	単位数	4単位	学年(コース)	3年次(総合学科)
使用教科書	帝国書院『新詳地理探究』『新詳高等地図』				
副教材等	東京法令出版社『フォトグラフィア地理図説』、帝国書院『新詳地理探求ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切に指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

- ① 現代世界の地理的事象を系統地理的に考察する。現代世界における諸地域の歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
- ② グローバル化する国際社会の諸課題を広い視野に立って考えるとともに、現代世界の地理的事象を地誌的に考察して現代世界の地理的認識を養い、地理的な見方や考え方を培うことによって国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
- ③ 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ④ 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。

3 指導の重点

進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、

- ① 基本的な社会事象を理解することを重視します。
- ② 獲得した知識を基に、よりよく生きることとよりよい社会形成のために必要なことを考察し、自分の言葉でまとめる能力の育成を目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。</p>	<p>・代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。</p>	<p>・地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析 <p>などから、評価します。</p>
	<p>内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評8価規準は授業で説明します。</p>		

6 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5	第1部 現代世界の系統地理的考察			
	第1章 自然環境			
	序節 地球環境と人間		1	ワークシート
	1節 地形	地球規模の大地形や小地形などのさまざまな地形には、どのような特徴や成因があり、人間活動とどのように関わっているかについて理解している。	12	ノート ワークシート ノート
	1 地形の成因と地球表面の起伏			ノート
	2 地球規模の大地形			ノート
	3 河川流域と海岸にみられる小地形			ノート
	4 そのほかの特徴的な小地形			ノート
	2節 気候	気温や降水量、風などを要素とする気候の違いは、どのような要因で生まれ、人々の生活にどのような影響を与えているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	8	ノート ノート ワークシート ノート ノート
	1 気候の成り立ち			ノート
	2 気候と生態系			ノート
	3 世界の気候区分			ワークシート
4 さまざまな気候帯			ノート	
5 気候変動と異常気象		ノート	ノート	
3節 日本の自然環境	日本列島の地形や気候など多様な自然環境にはどのような特徴があり、自然災害とどのように関係しているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	4	ワークシート ワークシート ノート ノート	
1 日本の地形			ワークシート	
2 日本の気候			ワークシート	
3 開発に伴う災害と防災・減災の取り組み			ノート ノート	
4節 地球環境問題	さまざまな地球環境問題を解決して、地球と人類が共存できる持続可能な社会をつくり出すためには、どのような考え方で、どのような取り組みをすればよいかについて、多面的・多角的に考察し、そこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	5	ノート ノート 発表の様子	
1 地球環境問題とは			ノート	
2 さまざまな地球環境問題			ノート	
3 地球環境問題の解決に向けた取り組み			発表の様子	

6	<p>第2章 資源と産業</p> <p>1節 農林水産業</p> <p>1 農業の発達と分布</p> <p>2 農業の地域区分</p> <p>3 現代世界の農業の現状と課題</p> <p>4 日本の農業の現状と課題</p> <p>5 世界と日本の林業</p> <p>6 世界と日本の水産業</p> <p>2節 食料問題</p> <p>1 世界の食料問題</p> <p>2 日本の食料問題</p> <p>3節 エネルギー・鉱産資源</p> <p>1 エネルギー資源の種類と利用</p> <p>2 化石燃料の分布と利用</p> <p>3 電力の利用</p> <p>4 鉱産資源の種類と利用</p> <p>7 4節 資源・エネルギー問題</p> <p>1 資源・エネルギーをめぐる課題</p> <p>2 日本の資源・エネルギー問題</p> <p>5節 工業</p> <p>1 工業の発達と種類</p> <p>2 工業の立地</p> <p>3 世界の工業地域</p> <p>4 現代世界の工業の現状と課題</p> <p>5 工業の知識産業化とスタートアップ企業</p> <p>6 日本の工業</p> <p>6節 第3次産業</p> <p>1 経済発展と第3次産業</p> <p>2 商業の現状と変化</p> <p>3 商業以外のさまざまな第3次産業</p> <p>9 第3章 交通・通信と観光, 貿易</p> <p>1節 交通・通信</p> <p>1 世界を結ぶ交通</p> <p>2 日本の交通の特徴</p> <p>3 情報通信の発達</p> <p>2節 観光</p> <p>1 余暇の拡大と観光産業</p> <p>2 日本の観光とその変化</p> <p>3節 貿易と経済圏</p> <p>1 世界の貿易と地域間格差</p> <p>2 貿易の自由化と経済連携</p> <p>3 日本の貿易</p>	<p>・自然条件の影響を受けるとともに、社会条件の変化に伴って変容してきた農林水産業の分布や発達には、どのような傾向や規則性がみられるかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>定期考査</p> <p>・食料の分配の世界的な偏りや、飽食や飢餓がみられる地域とその原因は何かについて理解している。</p> <p>・世界のエネルギー・鉱産資源の分布の偏りや、エネルギー・鉱産資源がどのように生活や産業に利用されているか、生産や消費の不均衡をなくすためにどのようなことが行われているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>・これまでの資源・エネルギー問題の考え方に対し、今後、資源・エネルギー問題を解決し、持続可能な社会を実現するためには、どのような考え方が必要かについて、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>・さまざまな製品を生み出し、人々の生活や産業の発展を支えてきた工業はどのように発展し、現在はどうのような工業分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているかについて理解している。</p> <p>・経済が発展し、物やサービスへの需要が高まったため、主力の産業となった第3次産業の現状はどのようにになっているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>・社会や経済を大きく変化させた交通網や通信網の発達には、なぜ傾向や地域性、地域間格差が現れているかについて理解している。</p> <p>・日本での訪日外国人数を増やして観光産業などを盛んにしようとする取り組みや、観光の特徴や利点、課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>・拡大を続けている世界の貿易では、地域性や地域間格差が現れてきているのはなぜかについて理解している。</p>	<p>6 ノート</p> <p>ワークシート</p> <p>ノート</p> <p>ノート</p> <p>ノート</p> <p>ノート</p> <p>1 定期考査の分析</p> <p>2</p> <p>ノート</p> <p>ノート</p> <p>3</p> <p>ノート</p> <p>ノート</p> <p>ノート</p> <p>ノート</p> <p>4</p> <p>ワークシート</p> <p>ノート</p> <p>6 発表の様子</p> <p>ノート</p> <p>ノート</p> <p>ワークシート</p> <p>ノート</p> <p>ノート</p> <p>3</p> <p>ノート</p> <p>ノート</p> <p>ノート</p> <p>5</p> <p>ワークシート</p> <p>発表の様子</p> <p>3</p> <p>ノート</p> <p>ノート</p> <p>ノート</p>
---	---	--	--

10	<p>第4章 人口, 村落・都市</p> <p>1節 人口</p> <p>1 世界の人口</p> <p>2 人口の移動</p> <p>2節 人口問題</p> <p>1 世界の人口問題</p> <p>2 日本の人口問題</p> <p>3節 村落と都市</p> <p>1 集落の成り立ち</p> <p>2 村落の形態と機能</p> <p>3 都市の成立と形態・機能</p> <p>4 都市圏の拡大と都市の構造</p> <p>4節 都市・居住問題</p> <p>1 発展途上国の都市・居住問題</p> <p>2 先進国の都市・居住問題</p> <p>3 日本の都市・居住問題</p> <p>第5章 生活文化, 民族・宗教</p> <p>1節 衣食住</p> <p>1 世界の衣服と食生活</p> <p>2 世界の住居と衣食住の画一化</p> <p>2節 民族・宗教と民族問題</p> <p>1 世界の民族・言語</p> <p>2 世界の宗教</p> <p>3 さまざまな民族問題</p> <p>4 多文化の共生に向けた取り組み</p> <p>3節 国家の領域と領土問題</p> <p>1 現代世界と国家</p> <p>2 領土問題と解決への取り組み</p> <p>3 日本の領域と領土をめぐる問題</p>	<p>・増加する世界人口と世界各地の人口の増減や分布, 年齢別構成, 移動には, どのような特徴がみられるかについて理解している。</p> <p>・社会情勢や文化などのさまざまな要因によって異なる世界各国・各地域の人口規模・分布や, 先進国と発展途上国の出生率の高低や高齢化の進行の違いについて理解している。</p> <p>定期考査</p> <p>・村落や都市の立地や発達, 形態, 変容のしかたにみられる傾向や規則性, 国や地域によって異なる地域性について理解している。</p> <p>・世界の都市が持続的に発展していくための課題, 日本の都市の課題と解決するための取り組みについて理解している。</p> <p>・自然環境や社会環境などを反映して形成されてきた伝統的な衣食住の生活文化にはどのような傾向があり, 世界的な画一化の動きとどのように関わっているかについて理解している。</p> <p>・世界のさまざまな民族の言語や宗教の独自性, 各地にみられる民族問題の背景とのに関わりについて理解している。</p> <p>・国家の領域はさまざまな境界線で区分されていること, 領域が定められたり領域が変更されたり国家が誕生したりすることで問題が起こっていることについて理解している。</p> <p>・工業化や経済発展が著しく, 世界経済に大きな影響を与えている中国について, 民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して, 多面的・多角的に考察し, 表現している。</p> <p>・日本と地理的な距離が近く, 急速な経済成長を遂げている韓国について, 自然環境や歴史と生活文化, 産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。</p>	2	ノート
	4		ノート	
11	<p>第2部 現代世界の地誌的考察</p> <p>第1章 現代世界の地域区分</p> <p>1節 地域区分</p> <p>1 地域区分の意義と指標</p> <p>序節 地域の考察方法</p> <p>1 地誌的な考察方法</p> <p>第2章 現代世界の諸地域</p> <p>1節 中国 -項目ごとに整理して考察</p> <p>1 中国の政治体制と多様な民族</p> <p>2 中国の食生活と農業・水産業</p> <p>3 中国の工業化と海外進出</p> <p>4 経済発展に伴うさまざまな課題</p> <p>2節 韓国-項目ごとに整理して考察</p> <p>1 韓国の歴史と生活文化</p> <p>2 産業の発展と生活の変化</p>	<p>1</p> <p>1</p> <p>7</p> <p>4</p>	<p>ノート</p>	

12	3節 ASEAN 諸国 -項目ごとに整理して考察	<p>・古くから農業が盛んで、近年急速に工業化が進んでいるASEAN 諸国について、文化・民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。</p> <p>定期考査</p> <p>・近年急速に経済が成長しているインドについて、産業の発展や農村・社会の変化、国内の経済格差をはじめとする課題を、経済成長に関連づけて理解している。</p> <p>自然環境や生活文化で共通点が多くみられるが、異なる歴史的経緯や地域ごとの特殊性もある西アジアと中央アジアについて、二つの地域を比較し、一般性や地域の特殊性を理解している。</p> <p>アフリカとしてのまとまりをもっている一方で、大きく異なる点多々ある北アフリカとサハラ以南アフリカについて、二つの地域を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を理解している。</p> <p>二度の世界大戦を機にEU を中心とした政治・経済の統合を進めているヨーロッパについて、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>かつて社会主義国だったが、1990年代に国家体制が変化し、現在は新しい国づくりを進めているロシアについて、農業や工業を国家体制の変化に関連づけて理解している。</p> <p>移民国家としての多様性を持ち、世界有数の農業国であり、先端技術産業でも世界をリードしているアメリカ合衆国について、地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	4	
	1 ASEAN 諸国の歴史と文化・民族		ノート	
	2 ASEAN 諸国の農業とその変化		ノート	
	3 ASEAN 諸国の工業とその発展		ノート	
	4 ASEAN の変化と課題		1 定期考査の分析	
	4節 インド -経済成長に関連づけて考察		3	
	1 急速な経済成長を支えた産業の発展		ノート	
	2 増加する人口と農村の変化		ノート	
	3 インド社会の変化と経済格差の拡大		ノート	
	5節 西アジアと中央アジア -地域を比較して考察		3	
	1 イスラームと人々の生活文化		ノート	
	2 交易の歴史と乾燥地域の農業		ノート	
3 豊富な資源を生かして進められる開発	ノート			
6節 北アフリカとサハラ以南アフリカ -地域を比較して考察	2			
1 歴史的な背景によって形成された多様な文化	ノート			
2 他地域との結びつきと人々の生活の変化	ノート			
3 一次産品への依存とそれがもたらす課題	ノート ノート			
7節 EU 諸国 -項目ごとに整理して考察	5			
1 EU の成り立ちと結びつき	ノート			
2 ヨーロッパの多様な農業と政策	ノート			
3 移り変わるEU の工業	ノート			
4 EU 拡大による影響と課題	ノート			
8節 ロシア -国家体制の変化に関連づけて考察	4			
1 ロシアの成り立ちと体制変化	ノート			
2 体制変化が産業にもたらした影響と課題	ノート ノート			
1 9節 アメリカ合衆国 -項目ごとに整理して考察	5			
1 移民国家としてのアメリカ合衆国の発展	ノート			
2 世界の食料生産の鍵を握るアメリカ合衆国	ノート			
3 進展する科学技術と産業	ノート			
4 多民族社会と移民増加に伴う課題	ノート			

10節 ラテンアメリカ ー歴史的背景と関連づけて考察	かつてヨーロッパ諸国の植民地であった歴史的背景があり、それが人々の生活や現在の産業にも深く関わっているラテンアメリカについて、文化や農業・工業をヨーロッパの影響と関連づけて理解している。	3	
1 ヨーロッパの影響が強い社会			ノート
2 大土地所有制と農業の変化			ノート
3 工業化の進展と経済発展			ノート
11節 オーストラリアとニュージーランド 一国を比較して考察	南半球にある地理的位置や移民の国という共通点があるが、自然環境や産業で違いもみられるオーストラリアとニュージーランドについて、二つの国を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を理解している。	3	
1 移民の歴史と多文化社会			ノート
2 自然の恵みを生かして発達した産業			ノート
3 強まるアジア・太平洋圏との結びつき			ノート
第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像			
第1章 持続可能な国土像の探究	日本の強みをより生かせる将来について考え、持続可能な社会を構築していくには、どのようなことに取り組みばよいかについて、多面的・多角的に探究し、表現している。	2	
1節 将来の国土の在り方			ノート
1 日本の強みと地理的な課題			ワークシート
2節 持続可能な日本の国土像の探究	持続可能な日本の国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究しようとしている。	2	発表の様子
1 課題の把握			
2 課題の追究			
3 課題の解決			
	定期考査	1	

計 140 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 単元ごとに調べ学習と発表する活動があり、内容をまとめたワークシートを提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

2年生で学習した内容を復習したうえで、さらに系統的な内容を分野ごとに学んでいきます。各分野を関連付けて学んでいくことがとても大切です。

まだ見ぬ未知の世界への関心という人間の根源的興味を満たしてくれるのが、地理学習であり、地理のおもしろさです。広い視野を持って学習していきましょう

教科(科目)	日本史探求(地理歴史)	単位数	3単位	学年(コース)	2年次(人文自然科学系列)
使用教科書	東京書籍『日本史探求』				
副教材等	日本史のアーカイブ（東京法令出版社） 要点マスター日本史探究 整理と演習（東京書籍）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>我が国の歴史の展開を世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせる。</p> <p>①我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>②我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>③我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>

3 指導の重点

<p>進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、</p> <p>① 基本的な社会事象を理解することを重視します。</p> <p>② 獲得した知識を基に、よりよく生きることとよりよい社会形成のために必要なことを考察し、自分の言葉でまとめる能力の育成を目指します。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解している。 諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、次期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想している。 考察、構想したことを効果的に説明し、それらを基に議論している。 	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について見通しを持って学習に取り組もうとしている。 よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	第1編 先史・古代の日本と東アジア	・ 人類が日本列島で生活を営み始めた時代から平安時代までを扱い、先史・古代がどのような時代であったか理解する。	19	ワークシート ノート
5	第1章 先史社会の生活と文化	・ 旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立に至る時期の日本列島の歴史的環境と文化の形成とを関連付けて時代の転換を理解し、先史社会の特色や古代の国家や社会との関わりについてまとめ発表する。	(4)	ノート ワークシート 発表の様子
	第2章 歴史資料と先史・古代の展望	・ 資料から情報を収集して読み取る技能を身に付けるとともに、読み取った情報から先史・古代の特色についての仮説を発表し、第3章に向けて見通しをたてられるようにする。	(2)	ノート ワークシート
	第3章 古代社会の形成と展開	・ 古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、先史から古代の政治・社会や文化とともに、思考力・判断力・表現力を養う。	(13)	ノート ワークシート
6	第2編 中世の日本と世界	・ 資料から情報を収集して読み取る技能を身に付けるとともに、読み取った情報から中世の特色について理解する。	21	ノート ワークシート 定期考査の分析
7	第1章 中世社会の成立	・ 院政期から武家政権成立期の歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、中世の特色についてまとめ発表する。	(4)	発表の様子
	第2章 歴史資料と中世の展望	・ 資料から情報を収集して読み取る技能を身に付けるとともに、読み取った情報から中世の特色についての仮説を発表し、第3章に向けて見通しをたてられるようにする。	(2)	ノート ワークシート 発表の様子
	第3章 中世社会の展開	・ 中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解する。	(15)	夏休み課題の取組み ノート ワークシート
9				

10	第3編 近世の日本と世界	・近世がどのような時代であったかを世界の動向と関連付けて考察し、総合的に捉えながら理解する。 ・定期考査	22	ノート ワークシート 定期考査の分析
	第1章 近世社会の形成	・豊政権の成立前後からの歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、近世の特色についてまとめ発表する。	(4)	ノート ワークシート 発表の様子
	第2章 歴史資料と近世の展望	・資料から情報を収集して読み取る技能を身に付けるとともに、読み取った情報から近世の特色についての仮説を発表し、第3章に向けて見通しをたてられるようにする。	(2)	ノート ワークシート
	第3章 近世社会の展開	・近世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解する。	(16)	ノート ワークシート
11	第4編 近現代の地域・日本と世界	・世界の情勢の変化とその中における日本の相互の関係や、日本の近現代の歴史を理解する。	43	
	第1章 近代社会の幕開け	・幕末から近代初頭の時期の歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、近代の特色についてまとめ発表する。	(4)	ノート ワークシート 発表の様子
	第2章 歴史資料と近現代の展望	・資料から情報を収集して読み取る技能を身に付けるとともに、読み取った情報から近代の特色についての仮説を発表し、第3章に向けて見通しをたてられるようにする。	(2)	ノート ワークシート 冬休み課題の取組み
	第3章 近現代社会の展開	・近代から現代にいたる国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、近代的制度の導入、アジアや欧米諸国との関係を理解する。 ・定期考査	(33)	ノート ワークシート
	4章 現代の日本の課題の探究	・これまでの学習をふまえ、持続可能な社会の実現を視野に入れ、地域社会や身の回りの事象と関連させて主題を設定し、諸資料を活用して探究する活動を通して、現代の日本の課題の形成に関わる歴史と展望について考え発表する。	(4)	定期考査の分析 ノート 発表の様子

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 单元ごとに調べ学習と発表する活動があり、内容をまとめたワークシートを提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

現在の様々な情報である世界や社会の動きに、関心を持ち、それらが過去の歴史とどのようにつながっているかを考えるようにしましょう。歴史の勉強は過去の人物・出来事を単に暗記することではありません。過去の人たちがが何を考えながら生きていたのかをよく考えてください。そのためには、教室で行われる授業だけにとどまらず、遺跡・史跡等を訪れ積極的に歴史に触れるようにしましょう。また、現在世界でおこっている諸事象のほとんどが、その原因・理由が授業で学ぶ内容に関連しています。テレビ・ラジオ・新聞やインターネットのニュースには常に触れ、関心を持つようにしましょう。

教科(科目)	世界史探求(地理歴史)	単位数	3単位	学年(コース)	2年次(人文自然科学系列)
使用教科書	東京書籍『世界史探求』				
副教材等	世界史のミュージアム（東京法令出版社） 要点マスター世界史探究 整理と演習（東京書籍）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切に指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>① 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。</p> <p>② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
--

3 指導の重点

<p>進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、</p> <p>① 基本的な社会事象を理解することを重視します。</p> <p>② 獲得した知識を基に、よりよく生きることとよりよい社会形成のために必要なことを考察し、自分の言葉でまとめる能力の育成を目指します。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解している。 諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりすることができる。 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	序章—世界史へのまなざし	・諸事象の来歴や変化に着目し、身の回りの諸事象と世界の歴史との関連性を多面的・多角的に考える。	2	ワークシート ノート
5	第1編 諸地域の歴史的特質	・王権と身分・階級、生活と生業、宗教、文化・思想などに関する諸資料を活用し、まとめる。	2	ノート ワークシート
	第1章 古代文明の出現	・農耕と牧畜のはじまりによって人類の生活様式が大きく変わったことについて考える	3	ノート ワークシート
	第2章 西アジアと地中海周辺	・古代文明がのちの社会にどのような影響を与えたのか考え、発表する。	8	ノート 発表の様子
	第3章 南アジア	・南アジアの歴史的特質について理解する。	2	ノート
	第4章 東南アジア	・東南アジアの歴史的特質について理解する。	1	ノート
6	第5章 東アジアと中央ユーラシア	・東アジアと中央ユーラシアの古代国家はどのようにして生まれたのか、また古代国家の誕生と発展が社会と文化に与えた影響や、それによって生みだされた地域の特色について理解する。	5	ノート ワークシート
	第6章 アフリカ、オセアニア、古アメリカ	・アフリカ、オセアニア、古アメリカの歴史的特質について理解する。	1	ノート
7	第2編 諸地域の交流と再編	・広がる世界像、宗教や科学・技術および文化・思想の伝播、交易の拡大、都市の発達、国家体制の変化などについてまとめ発表する。	2	ノート ワークシート
	第7章 イスラーム世界の拡大と繁栄	・イスラーム世界の拡大と繁栄について理解する。 ・定期考査	2	ノート 定期考査の分析
	第8章 中世ヨーロッパ	・中世後期のヨーロッパ社会の変動とルネサンスについて理解する。	7	ノート ワークシート
	第9章 中華世界の変容とモンゴル帝国	・中華世界の変容とモンゴル帝国について理解する。	4	ノート ワークシート
	第10章 インド洋海域世界の発展と東南アジア	・インド洋海域世界の発展と東南アジアについて理解する。	2	ノート 夏休み課題の取組み

9	第 11 章 大交易時代と世界の一体化	・大交易時代のヨーロッパ社会と世界の一体化について理解する。	6	ノート ワークシート
	第 12 章 ユーラシア諸帝国の繁栄	・6 世紀から 18 世紀にかけてのアジアの諸帝国について理解する。 ・定期考査	4	ノート 定期考査の分析
10	第 13 章 主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大	・第 13 章 主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大について理解する。	7	ノート ワークシート
	第 3 編 一体化していく世界	・人々の国際的な移動, 自由貿易の広がり, マスメディアの発達, 国際規範の変容, 科学・技術の発達, 文化・思想の展開などについてまとめ。発表する。	2	ノート 発表の様子
11	第 14 章 国民国家と近代社会の形成	・欧米での近代社会の形成について理解する。	8	ノート ワークシート
12	第 15 章 世界市場の形成とアジア諸国の変容	・人々の国際的な移動, 自由貿易の広がり, マスメディアの発達, 国際規範の変容, 科学・技術の発達, 文化・思想の展開などについてまとめ。発表する。	4	ノート 発表の様子
	第 16 章 アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行	・欧米での近代社会の形成について理解する。 定期考査	6	ワークシート 定期考査の分析
1	第 17 章 第一次世界大戦の展開と諸地域の変容	・世界市場の形成とアジア諸国の変容について理解する。	5	ノート 冬休み課題の取組み
	第 18 章 国際協調体制の動揺と第二次世界大戦	・アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行について理解する。	5	ノート ワークシート
	第 19 章 第二次世界大戦と戦後の東アジア	・第一次世界大戦の展開と諸地域の変容について理解する。 ・第二次世界大戦と戦後秩序構想について理解する。 ・第二次世界大戦中のアジアの戦後構想と実際のアジアの戦後について理解する。	4	ノート ワークシート
2	第 4 編 グローバル化と地球的課題	・国際機構の形成と平和への模索, 経済のグローバル化と格差の是正, 科学技術の高度化と知識基盤社会などにまとめ、発表する。	1	ノート ワークシート 発表の様子
	第 20 章 冷戦の世界化と国際制度	・冷戦の世界化と国際制度について理解する。	3	ノート
3	第 21 章 冷戦の変容・終結と経済のグローバル化	・冷戦の変容・終結と経済のグローバル化について理解する。 定期考査	4	ノート ワークシート 定期考査の分析
	第 22 章 21 世紀の地球的課題と人類社会	・21 世紀の地球的課題と人類社会について理解する。	2	ノート
3	21 世紀の地球的課題と世界史	・地球世界の課題の形成に関わる諸事象の歴史的背景や原因, 結果や影響, 事象相互の関連, 諸地域相互のつながりなどに着目し, 地球世界の課題の形成に関わる世界の歴史について考え、発表する。	3	発表の様子

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 单元ごとに調べ学習と発表する活動があり、内容をまとめたワークシートを提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

現代の世界が抱える諸問題は、私たちの抱えている問題です。では、「その問題がなぜ発生したのか?」。問題を解決するためには「原因」(歴史)を知らなければなりません。問題意識を持ち、原因(歴史)を知ることによって、私たちの抱えている問題に向き合うことができます。自分の問題としてとらえ、問題意識を強く持ち、積極的かつ主体的に授業に取り組みましょう。

教科(科目)	倫理(公民)	単位数	2単位	学年(コース)	3年次(総合学科)
使用教科書	実教出版『詳述倫理』				
副教材等	第一学習社『最新倫理資料集テオリア』、実教出版『詳述倫理演習ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切に指し導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

- ① 青年期の課題と、人間としての在り方生き方について、主に古今東西の諸思想の学習をとおして、理解と思索を深める。
- ② 青年期における自己形成と人間としての在り方や生き方についての理解と思索を深めさせ、人格形成につとめる意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民としての必要な能力と態度を育てる。
- ③ 現代社会の倫理的な課題について、主体的な思考と公正な判断の能力を育てる。

3 指導の重点

進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、

- ① 基本的な社会事象を理解することを重視します。
- ② 獲得した知識を基に、よりよく生きることとよりよい社会形成のために必要なことを考察し、自分の言葉でまとめる能力の育成を目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p>	<p>・自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。</p>	<p>・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。</p>

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評8価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	第1章 自己形成と自己の生き方 第1節 青年期の課題と自己形成 1. 青年期とは何か 2. 自己形成の課題 3. よりよい生き方を求めて 第2節 人間とは何か	・豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深めるための手掛かりとなる様々な人間の心の在り方について理解させる。 ・自己の生き方を見つめ直し、自己の課題を捉え、その課題を現代の倫理的課題と結び付けて多面的・多角的に考察し、表現させる。	3 1	ノート ワークシート ノート
	第2章 人間としてのあり方生き方 第1節 ギリシア思想 1. ギリシア思想の誕生—自然哲学 2. ソフィストたちとソクラテス 3. プラトン 4. アリストテレス 5. ギリシア思想の展開	・幸福、愛、徳などに着目して、人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な人生観について理解させる。その際、人生における宗教や芸術のもつ意義についても理解させる。 ・真理、存在などに着目して、世界と人間の在り方について思索するための手掛かりとなる様々な世界観について理解させる。	5	ノート ワークシート
5	第2節 キリスト教 1. 古代ユダヤ教 2. イエス 3. キリスト教の誕生と展開	・古今東西の先哲の思想に関する原典の日本語訳などの諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を読み取る技能を身に付けさせる。 ・古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、より広い視野から人間としての在り方生き方について	4 1	ノート ワークシート 発表の様子
	第3節 イスラーム 第4節 仏教 1. 仏教以前のインド思想 2. ブッダの教え 3. 大乘仏教の成立とその教え	多面的・多角的に考察し、表現させる。	4	ノート ワークシート
6	第5節 中国思想 1. 「道」の自覚—孔子 2. 儒家思想の展開 3. 老荘思想	定期考査	3 1	ノート ワークシート 発表の様子 定期考査の分析

	第6節 宗教・芸術と人生		1	ノート
7	第3章 社会・世界と人間としてのあり方 生活方	<p>・幸福, 愛, 徳などに着目して, 人間としての在り方生活方について思索するための手掛かりとなる様々な人生観について理解させる。その際, 人生における宗教や芸術のもつ意義についても理解させる。</p> <p>・善, 正義, 義務などに着目して, 社会の在り方と人間としての在り方生活方について思索するための手掛かりとなる様々な倫理観について理解させる。</p> <p>・真理, 存在などに着目して, 世界と人間の在り方について思索するための手掛かりとなる様々な世界観について理解させる。</p> <p>・古今東西の先哲の思想に関する原典の日本語訳などの諸資料から, 人間としての在り方生活方に関わる情報を読み取る技能を身に付けさせる。</p> <p>・古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして, より広い視野から人間としての在り方生活方について多面的・多角的に考察し, 表現させる。</p> <p>定期考査</p>	3	ノート ワークシート
	第1節 人間の尊厳		3	ノート ワークシート
	1. ルネサンス			
	2. 宗教改革			
	3. モラリスト			
	第2節 科学・技術と人間		3	ノート ワークシート
	1. 近代の自然観			
	2. 新しい学問の方法—経験論と合理論			夏休み課題
	第3節 民主社会と自由の実現		3	ノート ワークシート
9	1. 民主社会の形成—社会契約説			
	2. 人格の尊厳—カント			
	3. 人倫—ヘーゲル			
	第4節 社会と個人	3	ノート ワークシート	
	1. 個人と社会との調和—功利主義			
	2. 社会の進歩と変革			
	3. 真理と行為—プラグマティズム			
	第5節 近代的人間の見直し	1	定期考査の分析	
10	1. 主体性の再定義—実存主義	4	ノート ワークシート 発表の様子	
	2. 近代的な「私」の問い直し—無意識の発見			
	3. 思考は言語にしばられる—言語論的転回			
	4. 社会関係のなかでの「私」の成立—構造主義			
	第6節 現代の暴力に抗して	2	ノート ノート ワークシート ノート 定期考査の分析	
	1. 生命への畏敬と非暴力の思想			
	2. 暴力のあとで—理性, 人間, 他者の見直し			
	3. 暴力のなかで—公共性, 正義, 共通善の実現			
11	第4章 国際社会に生きる日本人としての自覚		ノート	
	第1節 古代日本人の思想		ノート	
	1. 日本人の自然観と気質	2	ノート	
	2. 神との関わりと道徳観			

12	第2節 日本の仏教思想	<ul style="list-style-type: none"> ・古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に関する原典や原典の口語訳などの諸資料から、日本人としての在り方生き方に関わる情報を読み取る技能を身に付けさせる。 ・古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現させる。 	5	ノート ワークシート			
	1. 仏教の受容		定期考査	1	定期考査の分析		
	2. 仏教の日本的展開—鎌倉仏教						
	3. 仏教と日本文化						
	第3節 近世日本の思想					5	ノート ワークシート 発表の様子
	1. 儒教の受容と朱子学						
	2. 日本陽明学						
	3. 日本的儒学の形成—古学		5	ノート ワークシート			
	4. 国学の形成						
	5. 民衆の思想						
	6. 幕末の思想						
	第4節 西洋思想の受容と展開		<ul style="list-style-type: none"> ・生命、自然、科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題を見いだし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述させる。 	1	ノート ワークシート		
1. 啓蒙思想と自由民権思想							
2. キリスト教の受容							
3. 国家主義の台頭と社会主義思想							
4. 近代的自我の確立							
5. 近代日本哲学の成立と超国家主義	3	ノート ワークシート					
6. 伝統の自覚と新たな課題							
第5章 自然や科学技術にかかわる諸課題と倫理	定期考査	1				ノート	
第1節 生命の倫理							
第2節 環境の倫理							
第3節 科学技術の倫理							
第6章 社会と文化にかかわる諸課題と倫理							1
第1節 福祉の課題							
第2節 文化と宗教の課題							
第3節 平和の課題	1	発表の様子					
	定期考査	1					

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 単元ごとに調べ学習と発表する活動があり、内容をまとめたワークシートを提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

「倫理」とは、まさに「どのように生きるのか」に対する先人からのアドバイスをまとめたもの、つまり、豊かで充実した人生を送るために、「自分とは何か」「私はどのように生きるべきか」「よく生きるとはどのような生き方なのか」といったことについて、先人の思想を手がかりに、悩み、考え、自らの方向を定めていくことが大切です。そのために、先人たちの思考を学び、他者の価値観を知る必要があります。自分らしい人生を生きるために倫理を学び、自己の在り方をしっかりと考えていけるようになりましょう。

教科(科目)	公民(政治経済)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年(総合学科)
使用教科書	実教出版『最新政治・経済』				
副教材等	東京法令出版『テーマ別資料 政治・経済』、実教出版『最新政治・経済演習ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切に指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>①社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。</p> <p>②国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養わせる。</p> <p>③よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めさせる。</p>

3 指導の重点

<p>進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、</p> <p>① 基本的な社会事象を理解することを重視します。</p> <p>② 獲得した知識を基に、よりよく生きることによりよい社会形成のために必要なことを考察し、自分の言葉でまとめる能力の育成を目指します。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。</p>	<p>・合意形成や社会参画に向け、国家および社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想したり、社会の在り方などについて構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断したり、表現したりしている。</p>	<p>・よりよい社会の実現のために、国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p> <p>・知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行うなかで、自らの学習を調整しようとしている。</p>

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時数	評価方法
4	第1部 現代日本の政治・経済 第1編 現代日本の政治 1章1 民主政治と法 1章2 民主政治の基本原則 1章3 民主政治のしくみと課題 1章4 世界のおもな政治制度 2章1 日本国憲法の成立	・ 政治、国家、法のあり方について考える。 ・ 基本的人権の歴史的発展や法の支配について理解する。 ・ 民主政治のしくみと課題を理解したうえで、権力分立と立憲主義の重要性を理解する。 ・ 各国の政治制度の特徴を理解する。 ・ 日本国憲法の成立過程を踏まえつつ、明治憲法との違いを理解する。	1 1 1 1 2	ノート ノート ノート ノート ワークシート
5	2章2 日本国憲法の基本原則 2章3 自由に生きる権利 (1) 2章4 自由に生きる権利 (2) 2章5 平等に生きる権利 2章6 社会権と参政権・請求権 2章7 新しい人権 2章8 人権の広がりや公共の福祉	・ 日本国憲法の基本原則を理解したうえで、憲法の改正手続きについて考える。 ・ 新しい人権について理解する。 ・ 自由権の内容について理解する。 ・ 自由権の内容について理解する。 ・ 社会権の内容について理解する。 ・ 新しい人権について理解する。 ・ 公共の福祉について理解する。	1 1 1 1 1 2 1	ノート ノート ノート ノート ノート ノート ワークシート
6	2章9 平和主義と自衛隊 2章10 日米安全保障体制の変化 2章11 21世紀の平和主義 3章1 政治機構と国会 3章2 内閣と行政機能の拡大	・ 日本の安全保障政策の展開について理解する。 ・ 沖縄が抱えている課題について考え発表する。 ・ こんにちの安全保障政策の課題について理解する。 ・ 国会の役割や権限について理解する。 ・ 内閣の権限と議院内閣制について理解する。	1 2 1 1 1	ノート 発表の様子 ノート ワークシート ノート ノート
7	3章3 公正な裁判の保障	・ 定期考査 ・ 司法制度のあり方や司法参加の意義について理解する。	1 1	定期考査の分析 ノート

9	3章4 地方自治と住民福祉	・地方がかかえる課題について考え発表する。	2	発表の様子
	3章5 政党政治	・日本の政党政治の特徴と課題について理解する。	1	ノート
	3章6 選挙制度	・日本の選挙制度の特徴と課題について理解する。	1	ノート
	3章7 世論と政治参加	・マス・メディアや市民運動の意義について理解する。	1	ノート ワークシート
	第2編 現代日本の経済	・経済的な効率性と公平性の対立関係について考える。	1	ノート
	1章1 経済活動の意義	・政府の規模を念頭にして、経済的な課題への対応を考える。	1	ノート
	1章2 経済社会の変容	・経済主体を理解する。	1	ノート
	1章3 経済主体と市場の働き	・企業の役割と社会的責任について考える。	1	ノート
	1章4 企業の役割	・NI から三面等価の原則について考える。	1	ワークシート ノート
	1章5 国民所得	・経済成長と私たちの豊かな生活について考える。	1	ノート
10	1章6 経済成長と国民の福祉	・金融を通じた経済活動の活性化について考える。	1	ノート
	1章7 金融の役割	・中央銀行の役割について理解する。	1	ノート
	1章8 日本銀行の役割	・納税者としての立場から租税のあり方について考え発表する。	1	発表の様子
	1章9 財政の役割と租税	・定期考査		定期考査の分析
	1章10 日本の財政の課題	・日本の財政の現状を理解し、これからの財政のあり方を考える。	1	ノート ワークシート
	2章1 日本経済の成長と課題	・経済的な効率性と公平性の対立関係について考える。	1	ノート
	2章2 中小企業と農業	・経済の二重構造に注目して日本経済のあり方を考える。	1	ノート
	2章3 消費者問題	・消費者行政の内容を知り、契約の権利と責任の関係を考える。	1	ノート ワークシート
	2章4 公害防止と環境保全	・経済成長と公害問題との関係を考える。	1	ノート
	2章5 労働問題と労働者の権利	・労働法の整備状況や、職場の人権保障について考える。	1	ノート
11	2章6 こんにちの労働問題	・日本的雇用形態の変化や、ワーク・ライフ・バランスについて考える。	1	ノート
	2章7 社会保障の役割と課題	・少子高齢化や日本の財政の現状も踏まえながら、今後の課題を理解する。	2	ノート
	第3編 現代日本における諸課題の探究	・よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述させる。	2	発表の様子

	第2部現代の国際政治・国際経済 第1編 現代の国際政治			
	1章1 国際社会と国際法	・国内政治や国内法との比較で考える。	1	ノート
	1章2 国際社会の変化	・二度の世界大戦が国際法と国際政治に与えた影響について考える。	1	ノート
	1章3 国際連合と国際協力	・主要機関や専門機関の働きから考える。	1	ノート
	1章4 こんにちの国際政治	・対立構造の変容から、国際社会の力学の変化を考える。	1	ノート
	1章5 人種・民族問題	・ナショナリズムや自民族中心主義との関係から考える。	1	ノート
12	1章6 軍拡競争から軍縮へ	・冷戦による対立構造と安全保障のジレンマを確認する。	1	ノート ワークシート
	1章7 日本の外交と国際社会での役割	・人間の安全保障の観点から考え発表する。	2	発表の様子
	第2編 現代の国際経済			
	1章1 貿易と国際収支	・貿易収支の数値から一国の貿易の動向を確認する。	1	ノート
1	1章2 外国為替市場のしくみ	・外国為替市場における需要と供給の関係を確認する。 ・定期考査	1	ノート
	2章1 第二次世界大戦後の国際経済	・本文や図版資料を基に、歴史的な経過を確認する。	1	定期考査の分析
2	2章2 国際経済の動向	・各地域の状況を確認する。	1	ノート
	2章3 新興国の台頭	・中国とインドについて、その現状と課題を理解する。	1	ノート
	2章4 経済のグローバル化とICでかわる世界経済	・ヒト・モノ・カネが自由に移動した結果、世界はこれまで以上に緊密化したことを確認する。	1	ノート
	2章5 発展途上国の課題と展望	・途上国間の経済格差について理解する。	1	ノート
	2章6 地球環境問題、資源エネルギー問題	・地球温暖化問題をめぐる現状と課題について理解する。 ・定期考査	1	ノート
	2章7 経済協力と日本の役割	・援助と開発の過程について確認する。	1	定期考査の分析
3	第3編 国際社会における諸課題の探究	・国際社会の諸課題についての自分の考えを発表させる。	1	ノート
			2	発表の様子

計70時間(50分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 単元ごとに調べ学習と発表する活動があり、内容をまとめたワークシートを提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

- ・ 授業以外の日常からアンテナを高く張り、世の中で起きている「今」の情報を得る姿勢を大切にしてください。ツールは何でも構いません。しかし、自分に都合が良い、偏った情報だけでは、情報に踊らされてしまいます。そのため、情報ソースは単一では無く、複数から得るようにし、リテラシー能力も高めるとともに、多角的な視野・思考を一緒に育んで行きましょう。

教科(科目)	数学(数学Ⅱ)	単位数	4単位	学年	2学年 (人文自然科学系列)
使用教科書	新編数学Ⅱ (第一学習社)				
副教材等	新課程版スタディ数学Ⅱ (第一学習社)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切に指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分についての基本的概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形についての構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>

3 指導の重点

<p>既習内容を確認するとともに、式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数及び微分積分の考えについて理解させ、反復練習などで知識の習得と技能の習熟を図り、発展問題を通して事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</p>	<p>数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。</p>	<p>いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の分野において、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。</p>

5 評価規準と評価方法

	評価の観点の趣旨を踏まえ、以下の方法で評価します。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・ワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動 (指導内容)	時間	評価	評価方法
前期	式と証明	1節 式と計算 ①整式の乗法, 因数分解 ②二項定理 ③整式の除法 ④分数式とその計算	10	abc	・定期考査 ・実力テスト ・授業への取り組み ・出欠席 ・ノート, 課題提出
		2節 等式・不等式の証明 ①恒等式 ②等式の証明 ③不等式の証明	10	abc	
	複素数と方程式	1節 複素数と方程式の解 ①複素数とその計算 ②2次方程式の解 ③解と係数の関係	10	abc	
		2節 高次方程式 ①剰余の定理・因数定理 ②高次方程式	10	abc	
	図形と方程式	1節 点と直線 ①直線上の点の座標 ②平面上の点の座標 ③直線の方程式 ④2直線の平行と垂直	10	abc	
		2節 円の方程式 ①円の方程式 ②円と直線	10	abc	
3節 軌跡と領域 ①軌跡と方程式 ②不等式の表す領域		10	abc		
後期	三角関数	1節 三角関数 ①一般角 ②弧度法 ③三角関数 ④三角関数の性質 ⑤三角関数のグラフ ⑥三角関数を含む方程式・不等式	10	abc	
		2節 三角関数の加法定理 ①三角関数の加法定理 ②2倍角・半角の公式 ③三角関数の合成	10	abc	
	指数関数	1節 指数関数 ①整数の指数 ②累乗根 ③指数の拡張 ④指数関数とそのグラフ	8	abc	
	対数関数	2節 対数関数 ①対数 ②対数の性質 ③対数関数とそのグラフ ④常用対数	12	abc	
	微分と積分	1節 微分係数と導関数 ①平均変化率 ②微分係数とその意味 ③導関数 ④関数の微分 ⑤接線の方程式	8	abc	
		2節 関数の値の変化 ①関数の増加・減少 ②関数の極大・極小 ③関数の最大・最小 ④方程式・不等式への応用	10	abc	
3節 積分 ①不定積分 ②定積分 ③面積		12	abc		

計 140 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・授業で習った部分のワークを定期的に宿題として出します。提出等は授業担当の指示に従ってください。
- ・GW休み、夏季休業、冬季休業、年度末休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

「数学Ⅰ」の内容をさらに深めた内容です。進路に数学が必要な者は、2年次に「数学Ⅱ」を学習することが望ましい。

教科(科目)	数学(数学総合)	単位数	2単位	学年	3学年 (人文自然科学系列)
使用教科書	新編 数学I (第一学習社)、新編 数学A (第一学習社)				
副教材等	新課程版スタディ 数学I (第一学習社)、新課程版スタディ 数学A (第一学習社)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>数学I・Aについての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばし、問題解決的な学習を探究することを通して、それらを積極的に活用する態度を育てる。</p> <p>(1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得を深める。</p> <p>(2) 既習の知識などを活用してその理由を考察するとともに、それらを適切に表現し、処理できるようにする。</p> <p>(3) 学びに向かう力の涵養に向け、基礎的な知識を応用して、さらに発展的な問題に応用できるような力を培う。</p>
--

3 指導の重点

<p>既習内容を確認して知識の習得と技能の習熟を図り、発展問題を通して事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、問題解決的な学習を探究することを通して、それらを活用する態度を育てる。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</p>	<p>数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。</p>	<p>数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。</p>

5 評価規準と評価方法

	評価の観点の趣旨を踏まえ、以下の方法で評価します。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・ワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動（指導内容）	時間	評価	評価方法
前期	数と式	<ul style="list-style-type: none"> 教科書や副教材のスタディを用いて、説明や問題演習を行う。 周囲の生徒と解法を確認したり、間違い等を指摘して教え合ったりするなど、一緒に解き進める時間も設ける。 復習後、授業プリントを用いて、総合演習として単元の分野横断的な複合問題の演習をする。 後期の総合演習では、前期の内容も含め、1年間で学んだ内容の複合問題をとおした発展的な演習を行う。 	8	abc	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 実力テスト 授業への取り組み 出欠席 課題提出
	2次関数		12	abc	
	図形と計量		12	abc	
	総合演習		8	abc	
後期	場合の数		7	abc	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 実力テスト 授業への取り組み 出欠席 課題提出
	確率		7	abc	
	図形の性質		8	abc	
	総合演習		8	abc	

計70時間（50分授業）

7 課題・提出物等

・GW休み、夏季休業、冬季休業、年度末休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

・数学 I Aの内容を深めながら、社会に出て役立つ数学力を身につけます。

教科（科目）	理科（物理基礎）	単位数	2単位	学年(系列)	2学年(人文自然科学系列)
教科書	新編物理基礎（東京書籍）				
副教材等	アクセスノート物理基礎新課程版（実教出版）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

3 指導の重点

- ・物理学の基本的な概念の形成を図る。
- ・物理学的に探究する方法の習得を目指す。
- ・以上を通して科学的な思考力・判断力・表現力を育成する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーから問題を見出し、見通しをもって観察・実験を行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。

5 評価基準と評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の評価基準の観点を踏まえ、 ①授業への主体的な取り組み(授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況) ②グループ活動への参加状態や提出物内容 ③定期考査 などから総合的に評価します。	以上の評価基準の観点を踏まえ、 ①授業への主体的な取り組み(授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況) ②グループ活動への参加状態や提出物の内容 ③定期考査 などから総合的に評価します。	以上の評価基準の観点を踏まえ、 ①授業への主体的な取り組み(授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況) ②グループ活動への参加状態や提出物の内容 ③定期考査 などから総合的に評価します。
<p>内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。</p>		

6 学習計画

学期	単元名	授業時数	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	第1編 運動とエネルギー	「運動の表し方」 13時間	第1章 運動の表し方 1.速度	ac	授業態度 発問評価 レポート提出 小テスト 前期 35時間 (50分授業)
5			2.加速度 3.落体の運動	bc	
6			「運動の法則」 12時間	第2章 運動の法則 1.力とそのはたらき 2.力のつりあい	
7		3.運動の法則 4.摩擦を受ける運動 5.液体や気体から受ける力		ac	
9		「仕事と力学的エネルギー」 10時間	第3章 仕事と力学的エネルギー 1.仕事 2.運動エネルギー 3.位置エネルギー 4.力学的エネルギーの保存	ab	
10	第2編 熱	「熱とエネルギー」 6時間	第1章 熱とエネルギー 1.熱と熱量 2.熱と物質の状態 3.熱と仕事 4.不可逆変化と熱機関	bc	授業態度 発問評価 ノート提出 実験報告書 小テスト
11	第3編 波	「波の性質」 5時間	第1章 波の性質 1.波と媒質の運動 2.波の伝わり方	ab	
12		「音」 5時間	第2章 音 1.音の性質 2.発音体の振動と共振・共鳴	ac	
1	第4編 電気	「物質と電気」 7時間	第1章 物質と電気 1.電気の性質 2.電流と電気抵抗	bc	

2			3.電気とエネルギー	bc	
		「磁場と交流」 7時間	第2章 磁場と交流 1. 電流と磁場 2. 交流と電磁波		
3	第5編 物理学と 社会	「物理学と社 会」 5時間	第1章 エネルギーと利用 第2章 物理学が拓く世界	ac	後期 35時間 (50分授業)

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

・適宜副教材等を利用した課題・提出物を課する。

8 担当者からの一言

1 年次に学んだ『科学と人間生活』の物理分野に加え、さらなる科学的な探究方法等としての物理学的手法を理解する基礎としての『物理基礎』を学ぶことにより、科学的態度が深まることを期待します。

授業に集中して取り組みましょう。板書を写すだけが授業ではありません。深く理解できるよう努力しましょう。

提出物は、必ず期限までに提出してください。ノート、授業プリント、実験レポートなどは大切に保管しましょう。

まとめ学習も行います。人にわかりやすく伝えるためには、深い理解と的確な表現が必要です。ここで培った力は、社会で生きる力となります。自分なりの工夫をしてまとめてみましょう。

教科（科目）	理科（物理）	単位数	4単位	学年(系列)	3学年（人文自然科学系列）
使用教科書	物理（実教出版）				
副教材等	アクセスノート物理（実教出版）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

3 指導の重点

- ・日常生活や社会との関連を図りながら物理的な事物・現象について理解するとともに科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に着けるようにする。
- ・観察・実験を行い、科学的に探究する力を養う。
- ・物理に主体的に関わり科学的に探究する態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物理的な事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	物理的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど科学的に探究している。	物理的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 評価規準と評価方法

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
以上の評価基準の観点を踏まえ、 ①授業への主体的な取り組み(授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況) ②グループ活動への参加状態や提出物内容 ③定期考査 などから総合的に評価します。	以上の評価基準の観点を踏まえ、 ①授業への主体的な取り組み(授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況) ②グループ活動への参加状態や提出物の内容 ③定期考査 などから総合的に評価します。	以上の評価基準の観点を踏まえ、 ①授業への主体的な取り組み(授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況) ②グループ活動への参加状態や提出物の内容 ③定期考査 などから総合的に評価します。
<p>内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。</p>		

6 指導計画

学期	単元名	授業時数	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	第1章 さまざまな運動	「さまざまな運動」 24時間	1節 平面内の運動と剛体のつり合い	ac	授業態度 発問評価 定期考査 レポート提出 小テスト
5			2節 運動量	bc	
6			3節 円運動と単振動		
7	第2章 波	「熱と気体」 22時間	4節 万有引力	ab	前期 70時間 (50分授業)
9			5節 気体分子の運動	bc	
10			「波」 24時間	1節 波の伝わり方	
11	第3章 電気と磁気	「電気と磁場」 38時間	2節 音波		授業態度 発問評価 定期考査 レポート提出 小テスト
12			3節 光		
1			1節 電荷と電場	bc	
2	第4章 原子	「原子」 32時間	2節 電流		後期 70時間 (50分授業)
3			3節 磁場と電流		
			4節 電磁誘導と電磁波	ab	
			1節 電子と光	bc	
			2節 原子と原子核		

計 140 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

・適宜、副教材等を利用した課題・提出物を課する。

8 担当者からの一言

1年次に学んだ『科学と人間生活』の物理分野、2年次に学んだ『物理基礎』に加え、さらなる科学的な探究方法等としての物理的手法を理解し、『物理』を学ぶことにより、科学的態度の深化を支援します。授業に集中して取り組みましょう。板書を写すだけが授業ではありません。深く理解できるよう努力しましょう。提出物は、必ず期限までに提出してください。ノート、授業プリント、実験レポートなどは大切に保管しましょう。まとめ学習も行います。人にわかりやすく伝えるためには、深い理解と的確な表現が必要です。ここで培った力は、社会で生きる力となります。自分なりの工夫をしてまとめてみましょう。

教科（科目）	理科（化学）	単位数	4単位	学年(系列)	3学年(人文自然科学系列)
教科書	新編 化学（数研出版）				
副教材	新課程 リードLight ノート化学（数研出版）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を、指導の重点のとおり育成することを目指す。

3 指導の重点

- (1)化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などの関する技能を身に付けるようにする。
- (2)観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3)科学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、化学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている	物質とその変化から問題を見出し、見通しをもって観察・実験などをおこない、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、化学的に探究している	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、化学的に探究しようとしている

5 評価規準と評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の評価基準の観点を踏まえ、 ①授業への主体的な取り組み(授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況) ②グループ活動への参加状態や提出物内容 ③定期考査 などから総合的に評価します。	以上の評価基準の観点を踏まえ、 ①授業への主体的な取り組み(授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況) ②グループ活動への参加状態や提出物の内容 ③定期考査 などから総合的に評価します。	以上の評価基準の観点を踏まえ、 ①授業への主体的な取り組み(授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況) ②グループ活動への参加状態や提出物の内容 ③定期考査 などから総合的に評価します。
内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	第1編 物質の状態	「物質の状態」 13時間	1章 物質の状態 物質の三態 気体・液体間の状態変化	ac	授業観察 発問評価 ノート提出 実験報告書
			2章 気体の性質 気体 気体の状態方程式		
5			3章 溶液の性質 溶解 希薄溶液の性質 コロイド	bc	小テスト 定期考査 レポート提出
			4章 化学結合と固体の構造 結晶の種類と性質 金属結晶の構造 イオン結晶の構造 分子結晶の構造 共有結合の結晶と非晶質 ふりかえりと考査	ab	
6	第2編 化学反応とエネルギー	「化学反応とエネルギー」 15時間	1章 化学反応と熱・光 反応熱と熱化学方程式 ヘスの法則 光とエネルギー 2章 電池と電気分解 電池 水溶液の電気分解	ac	
7	第3編 化学反応の速さと平衡	「化学反応の速さと平衡」 22時間	1章 化学反応の速さ 反応の速さ 反応速度を変える条件 反応のしくみ 2章 化学平衡 可逆反応と化学平衡 平衡の移動 3章 電解質水溶液の平衡 電離平衡 水の電離平衡とpH 塩と化学平衡	ab	
9	第4編 無機物質	「無機物質」 32時間	1章 周期表と元素 2章 非金属元素の単体と化合物 水素と希ガス ハロゲンとその化合物 酸素・硫黄とその化合物 ふりかえりと考査	bc	

10			窒素・リンとその化合物 炭素・ケイ素とその化合物 3章 典型金属元素の単体と化合物 アルカリ金属とその化合物 2族元素とその化合物 1・2族の典型金属元素とその化合物	ab	
11			4章 遷移元素 遷移元素とその化合物 金属イオンの分離・確認 5章 無機物質と人間生活 金属の利用 合金 セラミックス	ac	
12	第5編 有機化合物	「有機化合物」 30時間	1章 有機化合物の特徴と構造 2章 炭化水素 飽和炭化水素 不飽和炭化水素 有機化合物の分析 3章 アルコールと関連化合物 アルコールとエーテル アルデヒドとケトン	bc	授業観察 発問評価 ノート提出 実験報告書 小テスト 定期考査 レポート提出
1		カルボン酸 油脂とセッケン 4章 芳香族化合物 芳香族炭化水素 酸素を含む芳香族化合物 窒素を含む芳香族化合物	ac		
		5章 有機化合物と人間生活 染料・医薬品 合成洗剤 食品	ab		
2	第6編 高分子化合物	「高分子化合物」 28時間	1章 天然高分子化合物 高分子化合物の分類と特徴 単糖類・二糖類 多糖類 アミノ酸 タンパク質 核酸 2章 合成高分子化合物 合成高分子化合物 合成繊維	bc	
3			プラスチック（合成樹脂） ゴム 3章 高分子化合物と人間生活 機能性高分子 プラスチックの再生処理 ふりかえりと考査	bc	

計 140 時間（50 分授業）

7 課題・提出物等

・適宜副教材等を利用した課題・提出物を課する。

8 担当者からの一言

1年次に学んだ『科学と人間生活』の化学分野、2学年次で学んだ『化学基礎』に加え、1年間この『化学』を学びます。これにより自然界や日常生活を生きる上での科学的態度を更に深め、社会の構成員として主体的・科学的に活動できるよう支援します。授業に集中して取り組みましょう。板書を写すだけが授業ではありません。深く理解できるよう努力しましょう。提出物は、必ず期限までに提出してください。ノート、授業プリント、実験レポートなどは大切に保管しましょう。まとめ学習も行います。人にわかりやすく伝えるためには、深い理解と的確な表現が必要です。ここで培った力は、社会で生きる力となります。自分なりの工夫をしてまとめてみましょう。

教科（科目）	理科（生物基礎）	単位数	2単位	学年(系列)	2学年（人文自然科学系列）
使用教科書	高校生物基礎（実教出版）				
副教材等	アクセスノート生物基礎（実教出版）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

3 指導の重点

- ・日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について理解するとともに科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- ・観察・実験を行い、科学的に探究する力を養う。
- ・生物に主体的に関わり科学的に探究する態度と自然環境の保全に寄与する態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど科学的に探究している。	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 評価基準と評価方法

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
以上の評価基準の観点を踏まえ、 ①授業への主体的な取り組み(授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況) ②グループ活動への参加状態や提出物内容 ③定期考査 などから総合的に評価します。	以上の評価基準の観点を踏まえ、 ①授業への主体的な取り組み(授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況) ②グループ活動への参加状態や提出物の内容 ③定期考査 などから総合的に評価します。	以上の評価基準の観点を踏まえ、 ①授業への主体的な取り組み(授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況) ②グループ活動への参加状態や提出物の内容 ③定期考査 などから総合的に評価します。
内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとめりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

学期	単元名	授業時数	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法	
4	第1編 生物と遺伝子	「生物の特徴」 18時間	第1章 生物の特徴	ac	授業態度 発問評価 レポート提出 小テスト	
5			第1節 生物の多様性と共通性			
6			第2節 エネルギーと代謝 第3節 光合成と呼吸 ふりかえりと考査	ab		
7		「遺伝子とその働き」 17時間	第2章 遺伝子とそのはたらき	ac		
9			第1節 遺伝情報とDNA 第2節 遺伝情報の発現 第3節 遺伝情報の分配(細胞分裂)			ab
10		第2編 生物の体内環境の	「生物の体内環境とその維持」 17時間	第3章 生物の体内環境とその維持		bc
11	第1節 体内環境としての体液 第2節 腎臓と肝臓による調節					
12	第3節 神経とホルモンによる調節 第4節 免疫 ふりかえりと考査			ac		
1	第3編 生物の多様性と生態系	「植生の多様性と分布」 18時間	第4章 植生の多様性と分布	bc	後期 35時間 (50分授業)	
2			第1節 植生とその成り立ち 第2節 植生の移り変わり 第3節 気候とバイオーム			
3			第5章 生態系とその保全			bc
	第1節 生態系とその成り立ち 第2節 物質の循環とエネルギーの流れ 第3節 生態系のバランスと保全 ふりかえりと考査	ac				

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

・適宜、副教材等を利用した課題・提出物を課する。

8 担当者からの一言

1 年次に学んだ『科学と人間生活』の生物分野に加え、さらなる科学的な探究方法等としての生物学的手法を理解し、『生物基礎』を学ぶことにより、科学的態度の深化を支援します。

授業に集中して取り組みましょう。板書を写すだけが授業ではありません。深く理解できるよう努力しましょう。

提出物は、必ず期限までに提出してください。ノート、授業プリント、実験レポートなどは大切に保管しましょう。

まとめ学習も行います。人にわかりやすく伝えるためには、深い理解と的確な表現が必要です。ここで培った力は、社会で生きる力となります。自分なりの工夫をしてまとめてみましょう。

教科（科目）	理科（生物）	単位数	4単位	学年(系列)	3学年(人文自然科学系列)
使用教科書	生物（実教出版）				
副教材等	アクセスノート生物（実教出版）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

3 指導の重点

- ・生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に着けるようにする。
- ・観察・実験・考察を行い、科学的に探究する力を養う。
- ・生物や生物現象に主体的に関わり科学的に探究する態度と声明を尊重し自然環境の保全に寄与する態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど科学的に探究している。	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 評価基準と評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の評価基準の観点を踏まえ、 ①授業への主体的な取り組み(授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況) ②グループ活動への参加状態や提出物内容 ③定期考査 などから総合的に評価します。	以上の評価基準の観点を踏まえ、 ①授業への主体的な取り組み(授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況) ②グループ活動への参加状態や提出物の内容 ③定期考査 などから総合的に評価します。	以上の評価基準の観点を踏まえ、 ①授業への主体的な取り組み(授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況) ②グループ活動への参加状態や提出物の内容 ③定期考査 などから総合的に評価します。
<p>内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとめりごとの評価基準は授業で説明します。</p>		

6 学習計画

学期	単元名	授業時数	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	1章 生物の進化	「生物の進化」 18時間	1節 生命の起源と細胞の進化	ac	授業観察 発問評価 レポート提出 小テスト 前期 70時間 (50分授業)
5			2節 遺伝子の変化と進化のしくみ 3節 生物の系統と進化	bc ab	
6			2章 生命現象と物質	「生命現象と物質」 18時間	
7					
9	3章 遺伝情報の発現と発生	「遺伝情報の発現と発生」 17時間	1節 遺伝情報とその発現 2節 発生と遺伝子発現 3節 遺伝子を扱う技術	ab bc	
10					
11	4章 生物の環境応答	「生物の環境応答」 20時間	1節 動物の反応 2節 動物の行動	ab	後期 70時間 (50分授業)
12			3節 植物の成長と環境応答	ac	
1	5章 生態と環境	「生態と環境」 20時間	1節 個体群と生物群集 2節 生態系	bc	
2					
3					

計 140 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

・適宜副教材等を利用した課題・提出物を課する。

8 担当者からの一言

1年次に学んだ『科学と人間生活』の生物分野、2年次に選択した『生物基礎』に加え、1年間この『生物』を学びます。これにより自然界や日常生活を生きる上での科学的態度を更に深め、社会の構成員として主体的・科学的に活動できるよう支援します。

授業に集中して取り組みましょう。板書を写すだけが授業ではありません。深く理解できるよう努力しましょう。

提出物は、必ず期限までに提出してください。ノート、授業プリント、実験レポートなどは大切に保管しましょう。

まとめ学習も行います。人にわかりやすく伝えるためには、深い理解と的確な表現が必要です。ここで培った力は、社会で生きる力となります。自分なりの工夫をしてまとめてみましょう。

教科（科目）	理科（地学基礎）	単位数	2単位	学年(系列)	2学年（人文自然科学系列）
使用教科書	高等学校地学基礎（数研出版）				
副教材等	新課程リードLightノート（数研出版）、フォトサイエンス地学図録（数研出版）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことなどを通して、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

3 指導の重点

- ・日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に着けるようにする。
- ・観察・実験を行い、科学的に探究する力を養う。
- ・地学に主体的に関わり科学的に探究する態度と自然環境の保全に寄与する態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、地学や地学現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	地学や地学現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど科学的に探究している。	地学や地学現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 評価規準と評価方法

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
以上の評価基準の観点を踏まえ、 ①授業への主体的な取り組み(授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況) ②グループ活動への参加状態や提出物内容 ③定期考査 などから総合的に評価します。	以上の評価基準の観点を踏まえ、 ①授業への主体的な取り組み(授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況) ②グループ活動への参加状態や提出物の内容 ③定期考査 などから総合的に評価します。	以上の評価基準の観点を踏まえ、 ①授業への主体的な取り組み(授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況) ②グループ活動への参加状態や提出物の内容 ③定期考査 などから総合的に評価します。
<p>内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。</p>		

6 学習計画

学期	単元名	授業時数	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法	
4	第1編 活動する地球	「地球の構造」 「プレートの運動」 16時間	1 地球の形と大きさ 2 地球の構造	ac	授業態度 発問評価 レポート提出 小テスト	
			1 プレートテクトニクスと地殻変動 2 プレート運動のしかた ふりかえりと考査	bc ab		
5						
6	第1編 活動する地球	「地震」 16時間	1 地震 2 地震の分布 3 地震災害	ac	前期 35時間 (50分授業)	
7			「火山」 7時間	1 火山活動 2 火成岩 3 火山がもたらす恵みと災害		ab bc
9						
10	第2編 移り変わる地球	「地層の形成」 6時間 古生物の変遷と地球環境 5時間	1 堆積作用と堆積岩 2 地層の形成	ab	授業態度 発問評価 ノート提出 実験報告書 小テスト	
11			1 化石と地質時代の区分 2 古生物の変遷 ふりかえりと考査	ac		
12	第3編 大気と海洋	「地球の熱収支」 4時間 「大気と海水の運動」 4時間	1 大気の大循環 2 海水の運動 3 日本の天気と気象災害	bc bc		
			1 大気の大循環 2 海水の運動 3 日本の天気と気象災害	bc		
1	第4編 地球の環境	地球の環境と日本の自然環境 4時間	1 気候の自然変動 2 人間活動による環境変化 3 日本の自然環境 ふりかえりと考査	ac		

2	第5編 太陽系と 宇宙	太陽系と太陽 4時間	1 太陽系の天体 2 太陽 3 太陽系の誕生と現在の地球	ac	後期 35時間 (50分授業)
3		宇宙の誕生 4時間	1 宇宙の誕生	bc	

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

・適宜、副教材等を利用した課題・提出物を課する。

8 担当者からの一言

1 年次に学んだ『科学と人間生活』の地学分野に加え、さらなる科学的な探究方法等としての地球科学的手法を理解し、『地学基礎』を学ぶことにより、科学的態度の深化を支援します。

授業に集中して取り組みましょう。板書を写すだけが授業ではありません。深く理解できるよう努力しましょう。

提出物は、必ず期限までに提出してください。ノート、授業プリント、実験レポートなどは大切に保管しましょう。

まとめ学習も行います。人にわかりやすく伝えるためには、深い理解と的確な表現が必要です。ここで培った力は、社会で生きる力となります。自分なりの工夫をしてまとめてみましょう。

教科(科目)	外国語(英語コミュニケーションⅢ)	単位数	4単位	学年(系列)	3学年 (人文自然科学系列)
使用教科書	『COMET ENGLISH COMMUNICATION Ⅲ』(数研出版)				
副教材等	『COMET ENGLISH COMMUNICATION Ⅲ ベーシックノート』(数研出版), 『2023-2024 Watching News』(浜島書店), 『zoom ズーム総合英語』(第一学習社)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ上げ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする能力をさらに伸ばし、社会生活において活用できるようにする。

3 指導の重点

- ・語彙力や基本的な文法力の確実な習得を目指します。
- ・身近な話題についての英文を読解する力の確立を目指します。
- ・基本的なコミュニケーション能力の習得を目指します。
- ・言語や運用についての知識を身につけ、背景にある文化を理解しようとする態度の育成を目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>外国語の4技能について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。</p> <p>外国語の学習を通して、言語の働きや役割などを理解している。</p>	<p>場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり、適切に伝え合ったりしている。</p>	<p>他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり、読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。</p>

5 評価方法

<p>評価の観点の趣旨を踏まえ、以下の方法で評価します。また以下に示す評価方法で、英語の4技能5領域（a 聞くこと b 読むこと c 話すこと（やりとり） d 話すこと（発表） e 書くこと）の育成を図ります。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以下の結果を踏まえ、総合的に評価します。	以下の結果を踏まえ、総合的に評価します。	以下の結果を踏まえ、総合的に評価します。
①単語テスト（教科書） ②実力テスト（Watching News） ③定期考査	④音読テスト（教科書） ⑤スピーキングのパフォーマンステスト ⑥ライティングのパフォーマンステスト 定期考査等の1部として思考・判断・表現に関する出題をすることもあります。	⑦各種提出物の提出状況 ⑧授業への取り組み パフォーマンステストや定期考査等の1部として主体的に学習に取り組む態度に関する出題をすることもあります。

6 学習計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間・領域	評価の観点
4	Lesson 1	名詞を後ろから説明する分詞	海外からの留学生が、自分たちの国の祭りについて発表する	13・ a b c d e	①②③④ ⑤⑥⑦⑧
5	Lesson 2	受け身	バイオミメティクス（生物模倣技術）の2つの例を紹介	13・ a b c d e	①②③④ ⑤⑥⑦⑧
6	Lesson 3	比較級・最上級	私たちの消費行動に影響を及ぼすアンカリング効果とは	14・ a b c d e	①②③④ ⑤⑥⑦⑧
7	Lesson 4	現在完了形	動物の心身の健康や幸福を考えるアニマルウェルフェアについて、ある高校と動物園の取り組みを紹介	14・ a b c d e	①②③④ ⑤⑥⑦⑧
8 ・ 9	Lesson 5	関係代名詞 what	メンバーシップ型雇用とジョブ型雇用について学び、自分が将来どんな働き方をしたいかについて考える	14・ a b c d e	①②③④ ⑤⑥⑦⑧
10	Lesson 6	知覚動詞+目的語+動詞の原形 / ~ing	女性で初めてボストンマラソンを完走したランナー、ポビー・ギブの挑戦	15・ a b c d e	①②③④ ⑤⑥⑦⑧
11	Lesson 7	関係代名詞 who / which / that	目には見えない水「バーチャルウォーター」を通じて、私たちの日常に潜む水資源の問題を考える	15・ a b c d e	①②③④ ⑤⑥⑦⑧
12	Lesson 8	仮定法	世界遺産登録の抹消を選択したドイツの都市ドレスデン	14・ a b c d e	①②③④ ⑤⑥⑦⑧
1 ・ 2	Lesson 9	使役動詞+目的語+動詞の原形	逆境や困難からしなやかに回復する力、レジリエンスを鍛えるためのヒントを紹介	14・ a b c d e	①②③④ ⑤⑥⑦⑧
3	Lesson 10	助動詞+have+過去分詞	ガーナのチョコレート産業が抱える児童労働の問題に取り組む、ある日本のNGOの活動を紹介	14・ a b c d e	①②③④ ⑤⑥⑦⑧

計 140 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・各レッスン終了時に単語テストがあります。テスト範囲・それに伴う提出物の範囲は別紙範囲表を提示します。
- ・各レッスン終了時に音読テストがあります。普段の授業から音読練習に取り組んでください。
- ・GW休み、夏季休業、冬季休業、年度末休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

英語の学習は日頃からコツコツ取り組むことが重要です。苦手意識がある人は授業後の復習に力を入れてください。課題提出の締め切りは守りましょう。分からないことがあったらそのままにしないで、担当の先生に遠慮せずに質問してください。各種検定や外部試験などにも積極的に取り組んでみるといいと思います。

教科(科目)	外国語(論理・表現 I)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年 (選択)
使用教科書	『VISTA Logic and Expression I』 (三省堂)				
副教材等	『VISTA Logic and Expression I サブノート』 (三省堂) , 『マイウェイ 総合英語』 (三省堂) , 『マイウェイ 総合英語 文法&ワーク』 (三省堂)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ上げ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができる。 2. ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができる。 3. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができる。 4. スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができる。 5. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができる。 6. 基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができる。
--

3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力や文法力の確実な習得を目指します。 ・日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを伝えあう力を確立させることを目指します。 ・意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して伝えあう力の習得を目指します。 ・基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ち、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝える力の育成を目指します。
--

4 評価の観点の趣旨

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
<p>外国語の4技能について、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて使える知識・技能を身に付けている。英語の特徴やきまりなどを理解している。</p>	<p>場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考え、気持ち、意見や主張などを外国語で論理の構成や展開を工夫して伝えたり書いたりしている。</p>	<p>外国語で聞いたり、読んだりしたことを活用して情報や考え、気持ち、意見や主張などを主体的、自律的に英語を用いて表現しようとしている。</p>

5 評価方法

評価の観点の趣旨を踏まえ、以下の方法で評価します。また以下に示す評価方法で、英語の4技能5領域（a 聞くこと b 読むこと c 話すこと（やりとり） d 話すこと（発表） e 書くこと）の育成を図ります。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以下の結果を踏まえ、総合的に評価します。 ①単元テスト（教科書） ②実力テスト（教科書） ③定期考査	以下の結果を踏まえ、総合的に評価します。 ④スピーキングのパフォーマンステスト ⑤ライティングのパフォーマンステスト 定期考査等の1部として思考・判断・表現に関する出題をすることもあります。	以下の結果を踏まえ、総合的に評価します。 ⑥各種提出物の提出状況 ⑦授業への取り組み パフォーマンステストや定期考査等の1部として主体的に学習に取り組む態度に関する出題をすることもあります。

6 学習計画

※ A.S. = Activity Station D.C. = Daily Conversation

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間・領域	評価の観点
4	Let's Start Lesson 1	現在形(be 動詞/一般動詞)	本科目を学ぶ上での基礎を確認する 自己紹介を通し、自分の考えを整理し平易な語句や文を用いて伝えたり、相手のことを尋ねる表現を学ぶ。相手への共感を示す表現を学ぶ。	7 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦
5	Lesson 2 Lesson 3	過去形(be 動詞/一般動詞) 現在進行形と過去進行形 May I ~? / Can I ~?	興味のある歴史上の人物について考えをまとめ、発表する。発表の始め方、終わり方を学ぶ。 出かける場所や自分の行動などを伝える日常表現を学び、SNSでのメッセージを作成する。許可を求める表現を学ぶ。	7 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦
6	A.S. 1 D.C. 1 Lesson 4 Lesson 5	未来表現 (will / be going to) Why don't we (you) ~? / Let's ~. 現在完了形① (経験/継続)	「相づち」や「聞き返し」の表現を学び、やりとりのコツをつかむ。 「買い物」をするときに使える表現を学ぶ。 予定を伝える表現を学び、平易な語句や文を用いて伝えたり、相手の質問に答えることができるようにする。相手への誘い、提案をするときの表現を学ぶ。 現在完了形を適切に運用し、今までに見たり、聞いたりした忘れられない経験を紹介する。	7 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦
7	Lesson 6 A.S. 2 D.C. 2	現在完了形② (完了/現在完了進行形)	世界の国々とその文化を学び、現在完了形を適切に運用し。ホームステイ予定先へのメールを書く。 英文を書くときのコツを学ぶ (パラグラフ・ライティング)。 「レストラン」「カフェ」で使える表現を学ぶ。	7 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦
9	Lesson 7 Lesson 8	比較級/最上級/as ~ as ... 助動詞① (can / may)	基本的な比較の表現を適切に運用し、さまざまなものの高さ、大きさなどを伝えられるようにする。「驚き」を表す表現を学ぶ。 助動詞を適切に運用し、すぐれた発明品の機能を説明できるようにする。「理由」を述べるときの表現を学ぶ。	7 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦
10	Lesson 9 A.S. 2 D.C. 2	助動詞② (must / have to / should)	助動詞を適切に運用し、環境問題についてホームページを作る。「事実」を伝える表現を学ぶ。 「スピーチ」「プレゼンテーション」のコツをつかむ。 「道案内」の表現を学ぶ。	7 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦
11	Lesson 10 Lesson 11	受動態 不定詞①(名詞的用法)/動名詞	受動態の表現を用いて、さまざまな芸術作品誰によって作られたかを表す文を、ゲーム形式でできるだけたくさん作る。「同意」を表す表現を学ぶ。 不定詞、動名詞を用いて、自分がなりたい職業について発表する。発表に必要な「順序」を述べる表現を学ぶ。	7 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦

12	Lesson 12 A.S. 4 D.C. 4	不定詞②(副詞的用法/形容詞的用法)	不定詞を適切に運用し、自分の選んだ世界遺産を紹介するホームページを作る。「出典・引用」を示す表現を学ぶ。 ディスカッションについての説明を聞き、コツをつかむ。 「病気やけがをしたとき」の表現を学ぶ。	7 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦
1	Lesson 13 Lesson 14	分詞(現在分詞/過去分詞) 関係代名詞	ピクトグラムや図表、絵に描かれているものについて説明する表現を学ぶ。 自分が海外に紹介したい日本文化を選んで、発表する。「例」を挙げるときの表現を学ぶ。	7 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦
2	Lesson 15 A.S. 5	仮定法(if ~ / I wish)	SDGs を題材にして、それを達成するための国際協力についての意見、感想を書く。 ディベートについての説明を聞き、コツをつかむ。	7 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦
計70時間 (50分授業)					

7 課題・提出物等

- ・定期的に単元テストがあります。テスト範囲・それに伴う提出物の範囲は都度連絡します。
- ・定期的にパフォーマンステストがあります。テスト範囲・それに伴う提出物の範囲は都度連絡します。
- ・GW休み、夏季休業、冬季休業、年度末休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

高校の英語学習にも慣れてきた頃かと思います。文法の学び直しができるので安心して学習に取り組んでください。課題提出の締め切りは守りましょう。分からないことがあったらそのままにせず、担当の先生に遠慮せずに質問してください。各種検定や外部試験などにも積極的に取り組んでみましょう。

教科(科目)	外国語(論理・表現Ⅱ)	単位数	2単位	学年(コース)	3学年(選択)
使用教科書	『MY WAY Logic and Expression Ⅱ』 (三省堂出版)				
副教材等	『MY WAY Logic and Expression Ⅱ Workbook』 (三省堂出版) , 『Zoom 総合英語 THIRD EDITION』 (第一学習社)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができる。 2. ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができる。 3. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができる。 4. スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができる。 5. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができる。 6. 基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができる。
--

3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力や文法力の確実な習得を目指します。 ・日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを伝えあう力を確立させることを目指します。 ・意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して伝え合う力の習得を目指します。 ・基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ち、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝える力の育成を目指します。
--

4 評価の観点の趣旨

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
<p>外国語の4技能について、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて使える知識・技能を身に付けている。英語の特徴やきまりなどを理解している。</p>	<p>場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考え、気持ち、意見や主張などを外国語で論理の構成や展開を工夫して伝えたり書いたりしている。</p>	<p>外国語で聞いたり、読んだりしたことを活用して情報や考え、気持ち、意見や主張などを主体的、自律的に英語を用いて表現しようとしている。</p>

5 評価方法

評価の観点の趣旨を踏まえ、以下の方法で評価します。また以下に示す評価方法で、英語の4技能5領域（a 聞くこと b 読むこと c 話すこと（やりとり） d 話すこと（発表） e 書くこと）の育成を図ります。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以下の結果を踏まえ、総合的に評価します。 ①単元テスト（教科書） ②実力テスト（教科書） ③定期考査	以下の結果を踏まえ、総合的に評価します。 ④スピーキングのパフォーマンステスト ⑤ライティングのパフォーマンステスト 定期考査等の1部として思考・判断・表現に関する出題をすることもあります。	以下の結果を踏まえ、総合的に評価します。 ⑥各種提出物の提出状況 ⑦授業への取り組み パフォーマンステストや定期考査等の1部として主体的に学習に取り組む態度に関する出題をすることもあります。

6 学習計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間・領域	評価の観点
4	Lesson 1 Part 1	現在完了形、過去完了形	これまでの経験について会話をする。情報を追加したり感想を言うなどして、関連する話題で会話を続ける。	7 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦
	Part 2	未来を表す表現	好きな場所を紹介する発表の原稿を書く。紹介する場所についての情報などを加えて、詳しく説明する。		
5	Lesson 2 Part 1	助動詞表現（used to, should など）	週末の予定について会話をする。情報を追加したり感想を言うなどして、関連する話題で会話を続ける。	7 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦
	Part 2	助動詞+have+過去分詞、be 動詞+to 不定詞	最新のものを紹介する発表をする。紹介するものについての情報などを加えて、詳しく説明する。		
6	Lesson 3 Part 1	受動態	印象深かった授業について会話をする。情報を追加したり感想を言うなどして、関連する話題で会話を続ける。	7 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦
	Part 2	不定詞①	贈り物について説明する文章を書く。贈り物についての情報や感想などを加えて、詳しく説明する。		
7	Lesson 4 Part 1	不定詞②	日本の文化について会話をする。情報を追加したり感想を言うなどして、関連する話題で会話を続ける。	7 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦
	Part 2	知覚動詞・使役動詞	日本の文化を紹介する発表をする。紹介する日本の文化についての情報などを加えて、詳しく説明する。		
9	Lesson 5 Part 1	動名詞	いろいろな科学技術について会話をする。情報を追加したり感想を言うなどして、関連する話題で会話を続ける。	7 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦
	Part 2	分詞構文、（with + 0 + 分詞）	社会の状況と職業についてのレポートを書く。社会の状況と職業についての情報などを加えて、詳しく説明する。		
10	Lesson 6 Part 1	比較①	大きさなどを身近なものに例える。情報を追加したり感想を言うなどして、関連する話題で会話を続ける。	7 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦
	Part 2	比較②	世界や日本で有名な場所を紹介する発表をする。紹介する場所についての情報などを加えて、詳しく説明する。		
11	Lesson 7 Part 1	関係代名詞・関係副詞①	火星について会話をする。情報を追加したり感想を言うなどして、関連する話題で会話を続ける。	7 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦
	Part 2	関係代名詞・関係副詞②	火星での生活についてのレポートを書く。火星での生活の問題についての情報や感想などを加えて、詳しく説明する。		
12	Lesson 8 Part 1	仮定法①	旅行に行く友達との会話をする。情報を追加したり感想を言うなどして、関連する話題で会話を続ける。	7 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦
	Part 2	仮定法②	「もし〇〇がなければ」というタイトルの発表をする。〇〇がない状況と現状との比較などを加えて、詳しく説明する。		

1	Lesson 9 Part 1	否定の表現	悩み事を伝える会話をする。情報を追加したり感想を言うなどして、関連する話題で会話を続ける。	7 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦
	Part 2	代名詞を使った表現	社会問題についての発表原稿を書く。取り上げる問題についての解決策などを加えて、詳しく説明する。		
2	Lesson 10 Part 1	無生物主語構文	調べ学習での会話をする。情報を追加したり感想を言うなどして、関連する話題で会話を続ける。	7 abcde	①②③④⑤ ⑥⑦
	Part 2	that を使った表現	関心のある人物を紹介するスピーチをする。紹介する人物の情報などを加えて、詳しく説明する。		
計70時間 (50分授業)					

7 課題・提出物等

- ・定期的に単元テストがあります。テスト範囲・それに伴う提出物の範囲は都度連絡します。
- ・定期的にパフォーマンステストがあります。テスト範囲・それに伴う提出物の範囲は都度連絡します。
- ・GW休み、夏季休業、冬季休業、年度末休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

2年次の論理・表現Iで扱った内容をさらに深めていきます。表現をただ覚えるだけでなく、試行錯誤をとおして適切に使えるようになることを目指していきます。定期的なパフォーマンステストも行う予定ですので、すきま時間に英語の復習をするなど、年間を通して学びを深めてほしいと思います。

教科(科目)	農業(農業と環境)	単位数	4単位	学年(系列)	2年次(農産・加工系列)
使用教科書	実教出版『農業と環境』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切に指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野で活用する基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・ 協調性、主体性をもち、農業に関する課題を解決する知識や方法を理解する。 ・ 農業と環境問題の関係性や課題の解決方法を実験・実習を通して学ぶ。 ・ 「安全な農業実習」のために、実習への取組み、道具の適切な使用方法および協働的な態度を身に付けさせる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
農業と環境について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	果樹に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

5 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 野菜（エダマメ、ダイコン）や水稻の生理・生態ついて体系的・系統的に理解しているとともに、関連する栽培技術が身についている。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査、観察を継続的に取り組み、問題点や植物の変容に関して思考・判断し、改善（表現）をしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査・観察のレポート作成および提出、授業中のノート作成に主体的に取り組もうとしている。 実習・実験を通して野菜や水稻の栽培への関心や意欲を表現している。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 観察、実験、式やグラフでの表現の観察 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから、評価します。 	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析などから、評価します。 	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価方法
4	<ul style="list-style-type: none"> 農業と環境学習とは エダマメ栽培 イネ栽培 	12	農場, 教科書「農業と環境」	<ul style="list-style-type: none"> 農業を学ぶための心構えを身に付け、農業学習におけるプロジェクト学習の役割 エダマメ栽培とダイズの利用 	実習レポート 授業への取組み 実習中の技能
5	<ul style="list-style-type: none"> エダマメ栽培 イネ栽培 イネについて 	14	農場, 教科書「農業と環境」	<ul style="list-style-type: none"> エダマメ栽培を通して、発芽や植物体の構造 イネと日本の主食 	実習レポート 授業への取組み 実習中の技能
6	<ul style="list-style-type: none"> エダマメ栽培 イネ栽培 夏野菜の栽培 	14	農場, 教科書「農業と環境」	<ul style="list-style-type: none"> エダマメ栽培と開花や結実 イネの分けつや生育調査 夏野菜の管理作業 	定期考査 授業ノート 授業への取組み
7	<ul style="list-style-type: none"> エダマメ栽培と販売 イネ栽培 夏野菜の栽培 	14	農場, 教科書「農業と環境」	<ul style="list-style-type: none"> エダマメの収穫作業や調製, 販売 イネの中干しや出穂 夏野菜の管理作業 	実習レポート 授業への取組み 実習中の技能
9	<ul style="list-style-type: none"> イネ栽培 ダイコン栽培 ダイコン 	16	農場, 教科書「農業と環境」	<ul style="list-style-type: none"> 稲刈りやその後の調製 ダイコンの利用部位による分類 	定期考査 授業ノート 実習レポート 授業への取組み
10	<ul style="list-style-type: none"> ダイコン栽培 作物の特性と栽培のしくみ 秋冬野菜の栽培 	12	農場, 教科書「農業と環境」	<ul style="list-style-type: none"> ダイコンの収穫や調製 作物の一生 秋冬野菜の栽培方法 	実習レポート 授業への取組み 実習中の技能
11	<ul style="list-style-type: none"> イネ収量調査 ダイコン栽培 作物をとりまく環境とその管理 秋冬野菜の栽培 	18	農場, 教科書「農業と環境」	<ul style="list-style-type: none"> イネの収量調査方法 収穫したダイコンの販売と流通 作物栽培に適した環境 秋冬野菜の栽培方法や収穫作業 	実習レポート 授業への取組み 実習中の技能

12	<ul style="list-style-type: none"> 作物をとりまく環境 秋冬野菜の栽培 植物の構造や花芽分化 	12	農場, 教科書「農業と環境」	<ul style="list-style-type: none"> 作物栽培に適した環境 秋冬野菜の収穫方法 一般的な植物の構造 植物の花芽分化について 	定期考査 授業ノート 実習レポート 授業への取組み 実習中の技能
1	<ul style="list-style-type: none"> 植物の構造や花芽分化 農業と環境のプロジェクトの実際 	12	学習用タブレット, 教科書「農業と環境」	<ul style="list-style-type: none"> 植物の花芽分化について エダマメ生育調査結果まとめ イネ生育調査結果まとめ 	授業への取組み 生育調査レポート
2	<ul style="list-style-type: none"> 学校農業クラブ 夏野菜の栽培 環境調査 	10	教科書「農業と環境」, 農場, 水質調査キット	<ul style="list-style-type: none"> 学校農業クラブ 春夏野菜の播種 河川の水質調査 (DOなど) 	定期考査 授業ノート 授業への取組み 実習中の技能 環境調査レポート
3	<ul style="list-style-type: none"> 夏野菜の栽培 これからの社会と農業・農村 	6	農場, 教科書「農業と環境」	<ul style="list-style-type: none"> 春夏野菜の播種 地球環境と農業について理解し, 今後の人間のあり方について 	実習レポート 授業への取組み 実習中の技能

計 140 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 実習ごとにレポートの提出があります。 ・ 定期考査ごとにノートの提出があります。
- ・ 単元ごとに, 振り返りシートを作成し, 提出があります ・ 長期休業中の課題や実習について, 別途指示します。

8 担当者からの一言

科目「農業と環境」とは, 農業に関する基本的な知識と技術の習得を目指します。また, 実験等を通して, 作物をとりまく環境についても理解を深め, 作物生産の基礎を学びます。前期はエダマメの栽培を通して, 育苗や花芽分化, 結実などについて学び, 後期はダイコンの栽培を通して, 直播や根菜類などについて体験的に学びます。この科目は, 教科「農業」の基礎的な科目であるため, 生徒の理解を確認しながら, 進みます。実習中の事故やケガに関して, 最善の注意を払います。「安全な実習」を目指しますので, 授業者の話や注意点をしっかりと聞き, 実習に臨みましょう。(担当:)

教科(科目)	農業 (課題研究)	単位数	2 単位	学年(系列)	3 学年 (農産・加工系列)
教科書	なし	副教材			
履修条件	「農業と環境」「食品製造」を履修していること。				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどをおして、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。

3 指導の重点

- ・農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身につける。
- ・農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- ・課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・課題解決のための学習活動をおして、各科目で学習した知識と技術を再確認し、自らの課題解決に活用できるより高度な知識と技術を進化・総合化し、全体を体系的・系統的に理解し身につける。</p>	<p>・現状の把握や分析などをおして農業に関する課題を自ら発見し、学習の目的や課題を意識しながら計画的に課題解決を図り、記録、評価、検証、まとめ、発表などをおし、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を養う。</p>	<p>・課題解決に取り組む学習活動をおして、自らの課題解決能力の向上を図り、主体的かつ協働的に農業の振興や社会貢献に取り組む態度を養う。</p>

5 評価規準と評価方法

評価の観点の趣旨を踏まえ、以下の方法で評価します。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・実験・実習中の発言や取り組みの観察。 ・活動記録ファイル、その他提出物などの内容の確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・実習中の発言や取組の観察。 ・活動記録ファイル、活動成果発表、その他提出物などの内容の確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言や取り組みの観察。 ・実験・実習中の発言や取組の観察。 ・活動ファイル、活動成果発表、その他提出物などの内容確認。 ・授業ノート等の観察

6 指導計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動(指導内容)	評価方法
4	<ul style="list-style-type: none"> ・調査、研究、実験 ・作品制作等 ・産業現場における実習 	6	班活動 実験 実習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の特性として、研究と普段の授業との違いを各自で考えさせ、主体的に授業に取り組む必要性を感じる。 ・自身が普段感じている疑問などを基本に、テーマを設定する。 	活動の様子 ファイルの確認
5		22	班活動 実験 実習	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが設定したテーマで必要な計画を立て、実践、検証、改善を行う。 ・記録用紙に継続的に記録を取り、データを蓄積する。 	活動の様子 ファイルの確認
6					
7					
9	<ul style="list-style-type: none"> ・調査、研究、実験 	7	班活動	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動をスライドにまとめ、系列内で発表する。 	活動の様子 発表の様子
10	<ul style="list-style-type: none"> ・調査、研究、実験 ・作品制作等 ・産業現場における実習 	28	班活動 実験 実習	<ul style="list-style-type: none"> ・前期の活動を振り返り、改善点をまとめ、次回の活動の計画を立案する。 ・立案した計画に基づき、実践、検証、改善を行う。 ・記録用紙に継続的に記録を取り、データを蓄積する。 	活動の様子 ファイルの確認
11					
12					
1	<ul style="list-style-type: none"> ・調査、研究、実験 	7	班活動	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動をスライドにまとめ、系列および、関係して下さった外部の方を招いて発表する。 	活動の様子 発表の様子

合計 140 時間(50 分授業)

7 課題・提出物等

<ul style="list-style-type: none"> ・実習後には毎回レポートを提出することとなります。 ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

2年次で学んだ農業の知識および3年次に学ぶ農業の知識をフル活用して、自分だけの課題解決を目指しましょう。自分の課題解決方法が分かると、今後の生活でも役に立つことでしょう。農業の知識を総合的に活用する楽しさを感じましょう。
(担当：羽二生、佐々木、高橋)

教科(科目)	農業(総合実習)	単位数	4 単位	学年(系列)	3 学年(農産・加工系列)
教科書	なし	副教材	特になし		
履修条件	「農業と環境」「食品製造」を履修していること。				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどをおして、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を育成することを目指す。

3 指導の重点

- ・実習態度、安全に生産活動に参加する態度や技能を身に付ける。
- ・協調性、主体性、継続性を心がけ、責任ある行動の定着。
- ・農業の各分野に関する実践的な能力と態度を身に付ける。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・農業を総合的に捉え、体系的・系統的に理解している。 ・農業に関連する技術を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的且つ創造的に解決する力をつけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身につくよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度である。

5 評価規準と評価方法

評価の観点の趣旨を踏まえ、以下の方法で評価します。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・校内農業鑑定競技の結果 ・実験・実習中の発言や取り組みの観察 ・レポートやワークシート、その他提出物などの内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内農業鑑定競技学習シートの確認 ・実験・実習中の発言や取組の観察 ・レポートやワークシート、その他提出物などの内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言や取り組みの観察 ・実験・実習中の発言や取組の観察 ・課題の提出状況 ・授業ノート等の観察

6 指導計画

学期	草花・稲作専攻	野菜・果樹専攻	食品加工専攻	時間	評価方法
前期	夏季販売草花の栽培 ①播種(4) ②鉢上げ(4) ③切り花用畑地作り(4) ④移植作業(4) ⑤病害虫の調査観察(2)	夏野菜の栽培 ①水耕温室、ビニールハウス、露地畑を使用した春野菜栽培(10) ②野菜苗の育成と販売(10)	①ジャム(イチゴ、キウイ、マーマレード、イチジク)の製造(10) ②ラッキョウ甘酢漬けの製造(10) ③味噌漬け(大根、胡瓜)の製造(4)	専攻ごとに記載(変動の可能性あり)	レポート、授業・実習態度、出欠の有無及び農業鑑定
	5 月 上 旬 に 農 業 鑑 定 を 実 施 (1)				
後期	⑥管理作業(6) (除草、薬剤散布等) ⑦販売実習(6) ⑧まとめ(6)	③肥料・農薬・殺菌殺虫剤等の適正な使用と管理(8) ④農機具の適正な使用と管理(6)	④食品製造学習(10)		
	1 月 中 旬 に 農 業 鑑 定 を 実 施 (1)				
前期	冬季販売草花の栽培 ①播種(2) ②鉢上げ(4) ③病害虫の調査観察(4) ④管理作業(6) (除草、薬剤散布等)	秋冬野菜、春野菜の栽培 ①水耕温室、ビニールハウス、露地畑を使用した春野菜栽培(8) ②野菜苗の育成・販売(6)	①菓子・パンの製造(12) ②販売物の調製(6) ⑤まとめ(6) ⑥食品製造学習(10)	専攻ごとに記載(変動の可能性あり)	レポート、授業・実習態度、出欠の有無及び農業鑑定
	⑤収量調査(4) ⑥販売実習(2) ⑦まとめ(6) ⑧経営診断(6)	③肥料・農薬・殺菌殺虫剤等の適正な使用と管理(8) ④販売実習(6) ⑤まとめ(6)			

合計 70 時間(50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・実習後には毎回レポートを提出することとなります。
- ・单元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

3 部門にて学習。実習服・クッキングコート・長靴必須。選択受け入れ人数上限 24 名。
 自身の興味ある部門で、農業について学びを深めましょう。

(担当：羽二生、佐々木、高橋)

教科(科目)	農業(作物)	単位数	4単位	学年(系列)	3年次(農産加工系列)
教科書	実教出版『作物』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①社会生活に必要な基礎知識と、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>②自らのキャリアを意識し、主体的に学習に取り組み、学び続ける態度を育成します。</p> <p>③他者と協働しながら問題解決を行い自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識が身につく指導の充実・向上を図り、専門科目を通して能力・適性・進路希望に応じた学習内容を編成します。</p> <p>②「課題研究」等により主体的・対話的な学習を柱として生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③地域の関係機関や企業と連携しながら、教科横断的な学習を行います。</p>

2 学習目標

<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、作物の生産と経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>①稲作の生産と経営について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>②稲作の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>③稲作の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>①稲作の特性に合わせた基礎的な栽培技術の習得を目指す。</p> <p>②稲作の農場実習を通じて協調性、主体性、継続性を持ち責任をもって行動する態度を身に付ける。</p> <p>③稲作栽培の現状を把握し、草花の利用や地域の在り方を考える。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・作物について体系的、系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。</p>	<p>・作物に関する課題を発見し、草花や草花関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。</p>	<p>・作物について基礎的な知識と技術が、農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。</p>

5 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	以上の観点を踏まえ、 ・栽培や作物の生理、生態について体系的、系統的に理解しているとともに、関連する栽培技術が身に付いている。	以上の観点を踏まえ、 ・調査、観察を継続的に取り組み、問題点や植物の変容に関して思考、判断し、改善（表現）をしようとしている。	以上の観点を踏まえ、 ・調査・観察のレポート作成および提出、授業中のノート作成に主体的に取り組もうとしている。 ・実習、実験を通して作物栽培への関心や意欲を表現している。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・観察、表、スケッチなどの表現観察 ・レポートや提出物などの内容の確認などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートや提出物などの内容の確認などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートや提出物などの内容確認 ・振り返りシートの記述の分析などから評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価方法
前期	作物生産の役割と動向	8時間	教科書 「作物」 西畑農場	・作物とは ・作物栽培の動向 ・作物とプロジェクト活動	ノート 授業への取り組み
	作物の特性と栽培技術	12時間	教科書 「作物」 西畑農場	・作物の種類と動向 ・作物の生育と生理	ノート、定期考査 授業への取り組み
	イネ	50時間	教科書 「作物」 西畑農場	・栽培的特性 栽培の現状 生育のすがた 生育と環境要因 品種の特性と選び方 ・栽培管理 栽培 収穫と調製 品質と高価値化	ノート、定期考査 授業への取り組み スケッチ

後期	イネ	30時間	教科書 「作物」 西畑農場	・栽培計画と評価 生育と収量診断、 ・農業経営の特性 栽培計画 栽培評価	ノート 授業への取り組み スケッチ 定期考査
	麦類	20時間	教科書 「作物」 西畑農場	・栽培的特性 ・栽培管理 ・農業経営の特性	ノート、定期考査 授業への取り組み スケッチ
	豆類	10時間	教科書 「作物」 西畑農場	・豆類の栽培的特性 ・ダイズ ・アズキ	ノート、定期考査 授業への取り組み スケッチ
	いも類	10時間	教科書 「作物」 西畑農場	・いも類の栽培的特性 ・ジャガイモ ・サツマイモ	ノート 授業への取り組み 定期考査

7 課題・提出物等

- ・授業後、毎回ノートを提出する。
- ・稲の各器官をスケッチし提出する。
- ・長期休業中については別途指示します。

8 担当者からの一言

科目「作物」では定期考査により知識・理解を評価するだけでなく、授業態度やノートへの記入内容など、基本的な授業への取り組みについても評価します。後期は内容が専門的になることから、この分野への強い関心や意欲・態度など意欲を持って授業に取り組む姿勢が必要です。後期は技能の習得とともに、思考・判断・問題解決能力も必要です。実習時の協調性などについても大切です。

教科(科目)	農業(野菜)	単位数	4単位	学年(系列)	3年次(農産・加工系列)
使用教科書	実教出版『野菜』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、野菜の生産と経営に必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 野菜の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようとする。</p> <p>(2) 野菜の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 野菜の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>(1) 野菜の特性や栽培方法、活用の仕方について実践的に学び、知識や技術の習得を目指す。</p> <p>(2) 野菜の栽培管理を通じて、協調性や主体性を養い、責任を持って行動する態度を身に付けることを目指す。</p> <p>(3) 生育調査を継続して行い、課題の調査や調査の発表方法を学ぶ。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
野菜の生理・生態について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術が身に付けている。	野菜に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	野菜について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

5 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の生理・生態について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する栽培技術が身についている。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査、観察を継続的に取り組み、問題点や植物の変容に関して思考・判断し、改善（表現）をしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査・観察のレポート作成および提出、授業中のノート作成に主体的に取り組もうとしている。 実習・実験を通して野菜や水稻の栽培への関心や意欲を表現している。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 以上の観点を踏まえ、 ペーパーテストの分析 観察、実験、式やグラフでの表現の観察 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから、評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> 以上の観点を踏まえ、 ペーパーテストの分析 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析などから、評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> 以上の観点を踏まえ、 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価方法
4	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の種類と分類 果実を利用する野菜の栽培 	12	農場, 教科書「野菜」	<ul style="list-style-type: none"> 野菜生産の役割と需給動向 野菜(トマト, ナス, キュウリ, ピーマンなど)栽培の基礎知識 	実習レポート 授業への取組み 実習中の技能
5	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の生育と環境 果実を利用する野菜の栽培 	16	農場, 教科書「野菜」	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の生育と生理 野菜(トマト, ナス, キュウリ, ピーマンなど)栽培の基礎知識 	実習レポート 授業への取組み 実習中の技能
6	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の生育と環境 果実を利用する野菜の栽培 	18	農場, 教科書「野菜」	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の品質管理と栽培管理方法 野菜(トマト, ナス, キュウリ, ピーマンなど)栽培の基礎知識 	定期考査 授業ノート 授業への取組み
7	<ul style="list-style-type: none"> 野菜栽培の実際 果実を利用する野菜の栽培 	18	農場, 教科書「野菜」	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の品質管理と栽培管理方法 野菜(トマト, ナス, キュウリ, ピーマンなど)栽培の基礎知識 	実習レポート 授業への取組み 実習中の技能
9	<ul style="list-style-type: none"> 葉や茎, 根を利用する野菜の栽培 育苗技術の実際と応用 	18	農場, 教科書「野菜」	<ul style="list-style-type: none"> 病害虫の防除 野菜(キャベツ, ハクサイ, ブロッコリー, カリフラワーなど)栽培の基礎知識 	定期考査 授業ノート 実習レポート 授業への取組み
10	<ul style="list-style-type: none"> 葉や茎, 根を利用する野菜の栽培 育苗技術の実際と応用 	18	農場, 教科書「野菜」	<ul style="list-style-type: none"> 野菜(キャベツ, ハクサイ, ブロッコリー, カリフラワーなど)栽培の基礎知識 育苗の意義 	実習レポート 授業への取組み 実習中の技能
11	<ul style="list-style-type: none"> 葉や茎, 根を利用する野菜の栽培 野菜の流通と経営改善 	16	農場, 教科書「野菜」	<ul style="list-style-type: none"> 野菜(キャベツ, ハクサイ, ブロッコリー, カリフラワーなど)栽培の基礎知識 野菜の流通と鮮度保持 	実習レポート 授業への取組み 実習中の技能
12	<ul style="list-style-type: none"> 葉や茎, 根を利用する野菜の栽培 野菜の流通と経営改善 	12	農場, 教科書「野菜」	<ul style="list-style-type: none"> 野菜(キャベツ, ハクサイ, ブロッコリー, カリフラワーなど)栽培の基礎知識 野菜生産の経営改善と課題 	定期考査 授業ノート 実習レポート 授業への取組み 実習中の技能

1	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の流通と経営改善 年間野菜栽培のまとめ 	12	学習用タブレット, 教科書「野菜」	<ul style="list-style-type: none"> 野菜生産の経営改善と課題 年間野菜栽培のまとめ 	授業への取組み 生育調査レポート
2					
3					

計 140 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 実習ごとにレポートの提出があります。
- ・ 定期考査ごとにノート提出があります。
- ・ 単元ごとに、振り返りシートを作成し、提出があります。
- ・ 長期休業中の課題や実習について、別途指示します。

8 担当者からの一言

科目「野菜」は、野菜栽培のための基本的な知識と技術の習得を目指します。また、実験や生育調査等を通して、理解を深めます。主に前期は夏野菜の栽培、後期は秋冬野菜の栽培を行い、技術を習得します。実習中の事故やケガに関して、最善の注意を払います。「安全な実習」を目指しますので、授業者の話や注意点をしっかりと聞き、実習に臨みましょう。(担当：)

教科(科目)	農業(果樹)	単位数	2単位	学年(系列)	2年次(農産・加工系列)
使用教科書	実教出版『果樹』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切に指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、果実の生産と経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 果実の生産と経営について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 果実の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 果実の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> 果樹の特性に合わせた基礎的な栽培技術の習得を目指す。 生育調査を通じて協調性、主体性、継続性をもち、責任をもって行動する態度を身に付ける。 果樹分野の現状を把握し、地域の特産として果樹の利用や地域の在り方を考える。

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
果樹について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	果樹に関する課題を発見し、果樹や果樹関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	果樹について基礎的な知識と技術が、農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

5 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 果樹栽培や果樹の生理・生態（カキ、リンゴ、ミカン、ニホンナシ、ブルーベリー）について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する栽培技術が身についている。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査、観察を継続的に取り組み、問題点や植物の変容に関して思考・判断し、改善（表現）をしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査・観察のレポート作成および提出、授業中のノート作成に主体的に取り組もうとしている。 実習・実験を通して果樹栽培への関心や意欲を表現している。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 観察、実験、式やグラフでの表現の観察 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから、評価します。 	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析などから、評価します。 	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価方法
4	・ 果樹の種類と栽培動向	6	本校果樹園,教科書「果樹」	・ 学校果樹（カキ、リンゴ、ミカン、ニホンナシ、ブルーベリー、クリ、ユズ）の種類と栽培技術	実習レポート 授業への取組み
5	・ 果樹の生育と栽培環境	8	本校果樹園,教科書「果樹」	・ 学校果樹（カキ、リンゴ、ミカン、ニホンナシ、ブルーベリー）の種類と栽培技術	実習レポート 授業への取組み
6	・ 果樹の生育と栽培環境	7	本校果樹園,教科書「果樹」	<ul style="list-style-type: none"> 果実肥大調査 生育と生理生態 本校果樹の栽培技術 	定期考査 授業ノート 実習レポート 授業への取組み
7	・ 果樹の栽培管理	6	本校果樹園,教科書「果樹」	<ul style="list-style-type: none"> 本校果樹の栽培技術の基礎学習 結果習性と花・果実の構造 	実習レポート 授業への取組み
9	・ 果樹の栽培管理	8	本校果樹園,教科書「果樹」	<ul style="list-style-type: none"> 本校果樹の栽培技術の基礎学習 結実管理, 結果調節 	定期考査 授業ノート 実習レポート 授業への取組み
10	・ 果樹の生育と収穫, 調製	7	本校果樹園・教科書「果樹」	<ul style="list-style-type: none"> 収穫物の品質調査, 出荷基準 収穫と調製 	実習レポート 授業への取組み
11	・ 果樹の生育と収穫, 調製	7	本校果樹園・教科書「果樹」	<ul style="list-style-type: none"> 収穫と調製 収穫作業, 構造観察, 糖度調査 	実習レポート 授業への取組み
12	<ul style="list-style-type: none"> 果樹の生育と収穫, 調製 果樹の剪定, 誘引作業 	6	本校果樹園・教科書「果樹」	<ul style="list-style-type: none"> 収穫と調製 剪定と誘引作業 	定期考査 授業ノート 実習レポート 授業への取組み
1	・ 果樹の剪定, 誘引作業	7	本校果樹園,教科書「果樹」	・ 剪定と誘引作業	実習レポート 授業への取組み
2	・ 果樹の流通と経営改善	6	教科書「果樹」	<ul style="list-style-type: none"> 生産者から消費者に届くまでの流通経路 流通改善の方策 	定期考査 授業ノート 授業への取組み

3	<ul style="list-style-type: none"> 果樹の流通と経営改善 施肥 	4	本校果樹園, 教科書「果樹」	<ul style="list-style-type: none"> 流通改善の方策 施肥作業 	実習レポート 授業への取り組み
---	--	---	----------------	---	--------------------

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 実習ごとにレポートの提出があります。
- ・ 定期考査ごとにノートの提出があります。
- ・ 単元ごとに、振り返りシートを作成し、提出があります。
- ・ 長期休業中の課題や実習については別途指示します。

8 担当者からの一言

科目「果樹」とは、果樹に関する知識と、基本的な栽培技術の習得を目指します。また、新潟県佐渡市において「果樹」を学ぶ意義を理解し、積極的な姿勢で授業に取り組むよう期待します。本校の果樹園には、カキ、リンゴ、ミカン、ニホンナシ、ブルーベリー、クリ、ユズの樹があり、その管理を実習で学びながら、座学でも復習・予習し、生徒皆さんの理解度を重視し、授業を進めていきます。また、実習中の事故やケガに関して、最善の注意を払います。「安全な実習」を目指しますので、授業者の話や注意点をしっかりと聞き、実習に臨みましょう。(担当：)

教科(科目)	農業(草花)	単位数	4単位	学年(系列)	2年次(農産加工系列)
教科書	実教出版『草花』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①社会生活に必要な基礎知識と、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>②自らのキャリアを意識し、主体的に学習に取り組み、学び続ける態度を育成します。</p> <p>③他者と協働しながら問題解決を行い自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識が身につく指導の充実・向上を図り、専門科目を通して能力・適性・進路希望に応じた学習内容を編成します。</p> <p>②「課題研究」等により主体的・対話的な学習を柱として生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③地域の関係機関や企業と連携しながら、教科横断的な学習を行います。</p>

1 学習目標

<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、草花の生産と経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>①草花の生産と経営について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>②草花の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>③草花の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
--

2 指導の重点

<p>①草花の特性に合わせた基礎的な栽培技術の習得を目指す。</p> <p>②草花の農場実習を通じて協調性、主体性、継続性を持ち責任をもって行動する態度を身に付ける。</p> <p>③草花栽培の現状を把握し、草花の利用や地域の在り方を考える。</p>

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・草花について体系的、系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。</p>	<p>・草花に関する課題を発見し、草花や草花関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。</p>	<p>・草花について基礎的な知識と技術が、農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。</p>

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	以上の観点を踏まえ、 ・草花栽培や草花の生理、生態について体系的、系統的に理解しているとともに、関連する栽培技術が身に付いている。	以上の観点を踏まえ、 ・調査、観察を継続的に取り組み、問題点や植物の変容に関して思考、判断し、改善（表現）をしようとしている。	以上の観点を踏まえ、 ・調査・観察のレポート作成および提出、授業中のノート作成に主体的に取り組もうとしている。 ・実習、実験を通して果樹栽培への関心や意欲を表現している。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・観察、表、スケッチなどの表現観察 ・レポートや提出物などの内容の確認 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートや提出物などの内容の確認 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートや提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価方法
前期	草花を学ぶにあたって	8時間	教科書「草花」 西畑農場	・草花とプロジェクト活動 ・プロジェクト活動の進め方	ノート 授業への取り組み
	草花生産と消費動向	10時間	教科書「草花」 西畑農場	・草花園芸と特徴 ・草花生産と消費動向	ノート 授業への取り組み
	生活と草花の利用	12時間	教科書「草花」 西畑農場	・草花の多面的利用 ・園芸デザイン	ノート 授業への取り組み スケッチ
	草花の特徴と栽培技術	34時間	教科書「草花」 西畑農場	・草花の生育と環境 ・品種改良と繁殖 ・草花の生育と栽培技術 ・生産施設と栽培環境の調節	ノート 授業への取り組み スケッチ 定期考査
	切り花生産	6時間	教科書「草花」 西畑農場	・草花生産の特徴 ・切り花の品質保持	ノート スケッチ 定期考査

後期	切り花生産	22時間	教科書「草花」 西畑農場	・一、二年草の切り花 ・宿根草の切り花 ・球根の切り花 ・花木の切り花	ノート 授業への取り組み スケッチ 定期考査
	鉢もの生産	30時間	教科書「草花」 西畑農場	・鉢もの生産の特徴 ・鉢物の生産資材と商品化技術 ・花鉢もの ・ラン類 ・観葉植物	ノート 授業への取り組み スケッチ 定期考査
	花壇用草花生産	10時間	教科書「草花」 西畑農場	・花壇用草花生産の特色 ・要花壇用草花の利用と定植後の管理 ・花壇用草花の栽培	ノート 授業への取り組み スケッチ 定期考査
	草花経営の改善	8時間	教科書「草花」 西畑農場	・筆者の主張や論拠を踏まえ、要約等の作業に取り組む。 ・草花の生産と経営 ・ユニバーサル農業の視点	授業への取り組み 定期考査

6 課題・提出物等

- ・授業後、毎回ノートを提出する。
- ・草花のスケッチを提出する。
- ・長期休業中については別途指示します。

7 担当者からの一言

科目「草花」では定期考査により知識・理解を評価するだけでなく、授業態度やノートへの記入内容など、基本的な授業への取り組みについても評価します。後期は内容が専門的になることから、この分野への強い関心や意欲・態度など意欲を持って授業に取り組む姿勢が必要です。後期は技能の習得とともに、思考・判断・問題解決能力も必要です。実習時の協調性などについても大切です。

教科(科目)	農業（農業経営）	単位数	2単位	学年(系列)	3学年(農産・加工系列)
使用教科書	実教出版『食品製造』				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

農業経営の設計と管理に必要な知識と技術を習得させ、コスト管理とマーケティングの必要性を理解させるとともに、経営管理の改善を図る能力と態度を養う。

3 指導の重点

- ①経営の概念・理念を理解させ、経営者として必要な資質、知識、技術を習得させる。
- ②経営と情報活用について実践的な知識、技術を習得する。
- ③実習データを活用し、模擬経営診断を行い、実際の経営活動に生かせるようにする。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・農業経営に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、その意義や役割を理解している。	・知識を有する人や同級生と話し合い考えを深めることができる。 ・様々なデータを基に農業経営に必要な情報を収集することができる。	・農業経営に関する諸課題について関心を持つことができる。 ・諸課題の改善・向上のために主体的に活動に取り組むことができる。

5 評価規準と評価方法

評価の観点の趣旨を踏まえ、以下の方法で評価します。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ペーパーテストの分析 ・実験、実習中の発言や取り組みの観察 ・レポートやワークシート、その他提出物などの内容の確認	・ペーパーテストの分析 ・実験・実習中の発言や取組の観察 ・レポートやワークシート、その他提出物などの内容の確認	・授業中の発言や取り組みの観察 ・実験・実習中の発言や取組の観察 ・課題の提出状況 ・授業ノートの観察

6 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動(指導内容)	評価方法
4	農業の動向と農業経営	7	教科書	・日本と世界の農業 ・農業経営の動向	授業の様子 ノート確認
5		7	教科書	・食料消費の動向と社会経済環境 ・食料・農業・農村政策と関係法規	実習の様子 レポート確認
6	農業のマネジメント	7	教科書	・農業マネジメント ・生産のマネジメント ・組織のマネジメント	授業の様子 ノート確認
	前期中間 考査振り返り	1 1	考査 考査	・考査により、理解度を確認する。 ・考査を用いて学習内容を振り返る。	考査の結果 授業の様子
7	農業のマネジメント	7	教科書	・会計によるマネジメント ・リスクのマネジメント	授業の様子 ノート確認
9	農業のマーケティング	7	教科書	・農業マーケティングの概要 ・農業のマーケティング戦略	授業の様子 ノート確認
	前期期末 考査振り返り	1 1	考査 考査	・考査により、理解度を確認する。 ・考査を用いて学習内容を振り返る。	考査の結果 授業の様子
10	農業のマーケティング	7	教科書	・農業のブランド化	授業の様子 ノート確認
11	農業経営のマーケティング活動	7	教科書	・市場調査と環境分析 ・市場調査・環境分析の進め方	授業の様子 ノート確認
12		7	教科書	・農業経営の設計と診断	授業の様子 ノート確認
1	後期中間 考査	1 1	考査 考査	・考査により、理解度を確認する。 ・考査を用いて学習内容を振り返る。	考査の結果 授業の様子
	1	7	教科書	・会計によるマネジメント	考査の結果 授業の様子
	学年末考査	1	考査	・考査により、理解度を確認する。	考査の結果

計70時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

「農業経営」は、農業情勢の現状把握と理解に加え、農産物販売のためのマーケティング理論を学ぶ科目であり、会計に必要な知識・技術についても実践的に学べる科目です。図表からデータ分析を行うとともに、考察するなど統計に関する知識も必要となります。

(担当：高橋 幸太郎)

教科(科目)	農業（食品製造）	単位数	3単位	学年(系列)	2学年(農産・加工系列)
使用教科書	実教出版『食品製造』				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

1 学習目標

<p>食品製造に必要な知識と技術を習得させ、食品の特性と加工方法及び貯蔵の原理を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てることを目指す。</p> <p>(1) 食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 食品製造に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

2 指導の重点

<p>系列生徒の進路希望の半数が就職、もう半数が専門学校であるため、職業人としての感覚を身につけることを目指し</p> <p>① 安全な食品の製造を実践する。</p> <p>② 食品衛生について実験・実習を通して理解する。</p> <p>③ さまざまな食品加工技術を身につける。</p> <p>④ 作業に必要なコミュニケーション技術を身につける。</p>

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・座学・実験・実習を通して、食品の特性と加工原理を理解している。</p> <p>・食品衛生の重要性を理解し、実践している。</p>	<p>・食品の加工方法について理解し、実習で正しく実践している。</p> <p>・食品衛生及び貯蔵の原理を理解し、実習で正しく実践している。</p> <p>・自分の実践を正確に発信している。</p>	<p>・集団の中で、食品製造の生産性や品質を高めようとしている。</p> <p>・集団の中で、食品製造に必要な知識や技術を習得しようとしている。</p>

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。		
知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテストの分析 ・実験・実習中の発言や取り組みの観察 ・レポートやワークシート、その他提出物などの内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテストの分析 ・実験・実習中の発言や取組の観察 ・レポートやワークシート、その他提出物などの内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言や取り組みの観察 ・実験・実習中の発言や取組の観察 ・出席や提出物の提出状況 ・授業ノートの観察

5 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動(指導内容)	評価方法
4	食品と食品衛生	6	教科書 プリント	<ul style="list-style-type: none"> ・食品衛生の重要性と実践方法を知る。 ・爪や皮膚、埃などを培養し、有害微生物を身近に感じる。 	授業の様子 ノート確認
	食品製造の意義	4	教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・果実類の加工特性を知る。 	授業の様子 ノート確認
5	食品と食品衛生	2	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・食品加工実習室および製パン室の清掃実習で正しい手洗い、清掃の方法を実践する。 	実習の様子 レポート確認
	野菜類の加工	6	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ラッキョウの洗浄、皮むき、塩蔵を通して、ラッキョウの加工特性を理解する。 	実習の様子 レポート確認
	果実類の加工	2	教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・果実類の分類および成分を知る。 	授業の様子 ノート確認
6	果実類の加工	2 6	教科書 プリント 実習	<ul style="list-style-type: none"> ・果実類の加工特性、加工原理を知る。 ・イチゴのへた取り、糖蔵を通してイチゴの加工特性を理解する。 ・ジャム類の製造を通して、ジャム類の加工原理を理解する。 	授業の様子 ノート確認 実習の様子 レポート確認
	食品産業の現状と動向	3	教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・食品産業や食文化の特色、日本の食事の遷移とその背景を理解する。 	授業の様子 ノート確認
	前期中間考査	1	考査	<ul style="list-style-type: none"> ・考査により、理解度を確認する。 	考査の結果
	考査振り返り	1	考査	<ul style="list-style-type: none"> ・考査を用いて学習内容を振り返る。 	授業の様子
7	穀類の加工	6 2	教科書 実習	<ul style="list-style-type: none"> ・世界三大穀物の種類と特徴を知る。 ・小麦の加工特性を知る。 ・マドレーヌの製造を通して小麦の加工特性を理解する。 	授業の様子 ノート確認 実習の様子 レポート確認
	野菜類の加工	4	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・キュウリ味噌漬けの下処理と塩蔵を通して、野菜の加工特性への理解を深める。 	実習の様子 レポート確認
	野菜類の加工	4	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ラッキョウ塩漬けの調整を通し、野菜の加工特性への理解を深める。 	実習の様子 レポート確認
9	果実類の加工	8	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャム類の製造を通して、果実類の加工原理への理解を深める。 	実習の様子 レポート確認
	前期期末考査	1	考査	<ul style="list-style-type: none"> ・考査により、理解度を確認する。 	考査の結果
	考査振り返り	1	考査	<ul style="list-style-type: none"> ・考査を用いて学習内容を振り返る。 	授業の様子
10	野菜類の加工	6	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ラッキョウ甘酢漬け、ダイコン味噌漬け、キュウリ味噌漬けの袋詰めを通し、野菜の加工特性への理解を深める。 	実習の様子 レポートの確認

	身近な食品の科学	4	教科書	<ul style="list-style-type: none"> 食品製造における浸透圧の利用方法、原理を理解する。 微生物と発酵・腐敗について知る。その際、納豆を例に酵素と代謝の関係を理解する。 	授業の様子 ノート確認
11	身近な食品の科学	12	教科書	<ul style="list-style-type: none"> デンプンの加工原理について知る。 油脂の性質と脂肪酸の特性について知る。 	授業の様子 ノート確認
12	穀類の加工 鶏卵の加工	2	プリント	<ul style="list-style-type: none"> スポンジケーキの製造方法を知る。 	授業の様子 ノートの確認 実習の様子 レポートの確認
		7	実習	<ul style="list-style-type: none"> スポンジケーキの製造を通して小麦の加工特性および鶏卵の加工特性について理解を深める。 ケーキのデコレーション実習を通して生クリーム<small>の加工特性について理解を深める。</small> 	
	後期中間考査	1	考査	<ul style="list-style-type: none"> 考査により、理解度を確認する。 	考査の結果 授業の様子
		1	考査	<ul style="list-style-type: none"> 考査を用いて学習内容を振り返る。 	
1	みそ・醤油の製造	3	教科書	<ul style="list-style-type: none"> みその製造手順を知る。 製麴のうち、蒸し米から引き入れの工程を通して製麴の原理を理解する。 	授業の様子 ノートの確認 実習の様子 レポートの確認
		2	実習	<ul style="list-style-type: none"> みそ製造を通して、みそ製造について理解を深める。 	
2	身近な食品の科学	6	教科書	<ul style="list-style-type: none"> 酵素の性質と働きと食品利用の原理について知る。 色素の食品利用の原理について知る。 食品の加熱殺菌やその原理について知る。 免疫とアレルギー、加工食品における表示義務について知る。 	授業の様子 ノートの確認
		1	考査	<ul style="list-style-type: none"> 考査により、理解度を確認する。 	
	学年末考査	1	考査	<ul style="list-style-type: none"> 考査を用いて学習内容を振り返る。 	授業の様子

計 105 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・ 実習後には毎回レポートを提出することとなります。
- ・ 单元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

7 担当者からの一言

「食品製造」は、食品を加工する基礎知識を身につけるとともに、実習を通して社会で必要とされる力を身につける科目です。食品製造実習ではコミュニケーションを取ることが欠かせません。また、一つ一つの作業の流れを考える、または実習全体の流れを考え、より効率的に活動する方法を考える力を身につけましょう。普段口にしてる食事の栄養素や、身近にある食品の科学について理解すると、普段の生活について、考え方が変化します。いろいろな原理を知って、生活への応用力がつくように、実習を通して楽しみながら力を伸ばしていきましょう！

(担当：高橋 幸太郎)

教科(科目)	農業（食品製造）	単位数	4単位	学年(系列)	3学年(農産・加工系列)
使用教科書	実教出版『食品製造』				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

1 学習目標

食品製造に必要な知識と技術を習得させ、食品の特性と加工方法及び貯蔵の原理を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てることを目指す。

- (1) 食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 食品製造に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 指導の重点

系列生徒の進路希望の半数が就職、もう半数が専門学校であるため、職業人としての感覚を身につけることを目指し

- ① 安全な食品の製造を実践する。
- ② 食品衛生について実験・実習を通して理解する。
- ③ さまざまな食品加工技術を身につける。
- ④ 作業に必要なコミュニケーション技術を身につける。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・座学・実験・実習を通して、食品の特性と加工原理を理解している。 ・食品衛生の重要性を理解し、実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の加工方法について理解し、実習で正しく実践している。 ・食品衛生及び貯蔵の原理を理解し、実習で正しく実践している。 ・自分の実践を正確に発信している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の中で、食品製造の生産性や品質を高めようとしている。 ・集団の中で、食品製造に必要な知識や技術を習得しようとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。		
知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 実験・実習中の発言や取り組みの観察 レポートやワークシート、その他提出物などの内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 実験・実習中の発言や取組の観察 レポートやワークシート、その他提出物などの内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言や取り組みの観察 実験・実習中の発言や取組の観察 出席や提出物の提出状況 授業ノートの観察

5 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動(指導内容)	評価方法
4	食品製造の基礎	6	教科書	・身近な食品に関する疑問を題材に加工の原理を学ぶ。	授業の様子 ノート確認
	果実類の加工	6	実習	・マーマレード製造をとおして、夏みかんの加工特性について理解を深める。	実習の様子 レポート確認
		2	実習	・キウイジャムの製造をとおして、ジャム製造について理解を深める。	
5	食品の変質とその原因	6	教科書	・食品が変質する原因について知る。	授業の様子 ノート確認 実習の様子 レポート確認
		10	実習	・イチゴジャムの下処理作業を通して、有害微生物を排除する製造工程について理解を深める。 ・ラッキョウの洗浄、皮むき、塩蔵を通して、有害微生物を排除する製造工程について理解を深める。	
6	食品の貯蔵法	6	教科書	・食品の貯蔵法を知る。	授業の様子 ノート確認 実習の様子 レポート確認
		8	プリント 実習	・イチゴのへた取り、糖蔵を通してイチゴの加工特性と、ジャム類の加工原理を理解する。 ・ラッキョウの製造をとおして、甘酢漬の加工原理を知る。	
	前期中間考査 考査振り返り	1 1	考査 考査	・考査により、理解度を確認する。 ・考査を用いて学習内容を振り返る。	考査の結果 授業の様子
7	食中毒	8	教科書	・食中毒の概要と種類、各種食中毒の特徴を知る。	授業の様子 ノート確認
	牛乳の加工	2	実習	・アイスクリームの製造(小規模)を通して、牛乳の加工特性への理解を深める。	実習の様子 レポート確認
9	野菜類の加工	4	実習	・ラッキョウ塩漬の調整を通し、野菜の加工特性への理解を深める。	実習の様子 レポート確認
	果実類の加工	8	実習	・ジャム類の製造を通して、果実類の加工原理への理解を深める。	実習の様子 レポート確認
	前期期末考査 考査振り返り	1 1	考査 考査	・考査により、理解度を確認する。 ・考査を用いて学習内容を振り返る。	考査の結果 授業の様子
10	野菜類の加工	10	実習	・ラッキョウ甘酢漬、ダイコン味噌漬、キュウリ味噌漬の袋詰めを通し、野菜の加工特性への理解を深める。	実習の様子 レポートの確認
11	食品による危害と安全確保	4	教科書	・普段口にしてる食品にどのような危害の可能性があるか理解する。	授業の様子 ノート確認
	食品添加物	2	教科書	・教科書を中心に食品添加物の用途と安全性について理解する。	授業の様子 ノートの確認
	鶏卵の加工	6 4	教科書 実験	・鶏卵の加工特性について知る。 ・鶏卵の熱凝固性と乳化性を実験により再現することで、目で見て理解する。	授業の様子 ノートの確認 実験の様子 レポート確認

12	穀類の加工 鶏卵の加工	2	プリント	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポンジケーキの製造方法を知る。 ・ スポンジケーキの製造を通して小麦の加工特性および鶏卵の加工特性について理解を深める。 ・ ケーキのデコレーション実習を通して生クリームの加工特性について理解を深める。 	授業の様子 ノートの確認 実習の様子 レポートの確認
		4	実習		
		3	実習		
	後期中間考査	1	考査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考査により、理解度を確認する。 ・ 考査を用いて学習内容を振り返る。 	考査の結果 授業の様子
		1	考査		
1	みそ・醤油の製造	4	実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製麴のうち、蒸し米から引き入れの工程を通して製麴の原理を理解する。 ・ みそ製造実習で、みそ製造について理解を深める。 	実習の様子 レポートの確認
	加工食品の表示制度	2	教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食品表示の根拠や法律について知る。 	授業の様子 ノートの確認

計 140 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・ 実習後には毎回レポートを提出することとなります。
- ・ 单元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

7 担当者からの一言

「食品製造」は、食品を加工する基礎知識を身につけるとともに、実習を通して社会で必要とされる力を身につける科目です。食品製造実習ではコミュニケーションを取ることが欠かせません。また、一つ一つの作業の流れを考える、または実習全体の流れを考え、より効率的に活動する方法を考える力を身につけましょう。普段口にしてる食事の栄養素や、身近にある食品の科学について理解すると、普段の生活について、考え方が変化します。いろいろな原理を知って、生活への応用力がつくように、実習を通して楽しみながら力を伸ばしていきましょう！

(担当：高橋 幸太郎)

教科(科目)	生物活用(作物)	単位数	3単位	学年(系列)	3年次(農産加工系列)
教科書	実教出版『生物活用』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①社会生活に必要な基礎知識と、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>②自らのキャリアを意識し、主体的に学習に取り組み、学び続ける態度を育成します。</p> <p>③他者と協働しながら問題解決を行い自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識が身につく指導の充実・向上を図り、専門科目を通して能力・適性・進路希望に応じた学習内容を編成します。</p> <p>②「課題研究」等により主体的・対話的な学習を柱として生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③地域の関係機関や企業と連携しながら、教科横断的な学習を行います。</p>

2 学習目標

園芸作物や社会動物の活用に必要な知識と技術を習得し、それらの生物の特性を活用した活動や療法の特質を理解するとともに、生活の質の向上を図る能力と態度を育てる。

3 指導の重点

- ①園芸作物やその活用について興味・関心を持ち、生物を活用する活動の現状や今日的な課題の改善と生活の質の向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けさせる。
- ②協調性、主体性、継続性を持ち責任ある行動を身に付けさせる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・園芸作物、社会動物の活用について体系的、系統的に理解している。	・園芸作物、社会動物の活用に関する課題を発見し、関連産業に携わる者のかつ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	・園芸作物、社会動物の基礎的な知識と技術が農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

5 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	以上の観点を踏まえ、 ・園芸作物、社会動物の活用について体系的、系統的に理解しているとともに、関連する栽培技術が身に付いている。	以上の観点を踏まえ、 ・園芸作物、社会動物の活用について問題点や活用に関して思考、判断し、改善(表現)をしようとしている。	以上の観点を踏まえ、 ・活用のレポート作成および提出、授業中のノート作成に主体的に取り組もうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートや提出物などの内容の確認などから評価	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートや提出物の内容確認

法	します。	・レポートや提出物などの内容の確認などから評価します。	・振り返りシートの記述の分析などから評価します。
---	------	-----------------------------	--------------------------

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価方法
前期	生物活用の意義と役割	25時間	教科書「生物活用」西畑農場	・生物活用の意義と役割 ・生物活用とプロジェクト学習	ノート 授業への取り組み
	園芸作物の栽培と活用	45時間	教科書「生物活用」西畑農場	・植物・園芸と人間生活 ・草花の栽培と活用 ・野菜、ハーブの栽培と活用	ノート 授業への取り組み 定期考査

後期	動物の飼育と活用	30時間	教科書「生物活用」西畑農場	・動物と人間生活 ・イヌの飼育と活用 ・ウマの飼育と活用 ・ネコの飼育と活用 ・そのほかの動物の飼育と活用	ノート 授業への取り組み スケッチ 定期考査
	生物を活用した療法	20時間	教科書「生物活用」西畑農場	・生物を活用して療法 ・園芸療法 ・動物介在療法	ノート 授業への取り組み 定期考査
	生物活用の実践	10時間	教科書「生物活用」西畑農場	・交流活動の心構え ・交流活動の実際	ノート 授業への取り組み

7 課題・提出物等

- ・授業後、毎回ノートを提出する。
- ・園芸作物について図をスケッチし提出する。

8 担当者からの一言

科目「生物活用」では定期考査により知識・理解を評価するだけでなく、授業態度やノートへの記入内容など、基本的な授業への取り組みについても評価します。後期はこの分野への強い関心や意欲・態度など意欲を持って授業に取り組む姿勢が必要です。後期は技能の習得とともに、思考・判断・問題解決能力も必要です。

教科(科目)	農業 (地域資源活用)	単位数	4 単位	学年(系列)	3 学年(農産・加工系列)
使用教科書	実教出版『地域資源活用』				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどとおして、地域資源の活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを次のとおり目指す。</p> <p>(1) 地域資源の活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 地域資源の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>系列生徒の進路希望の半数が就職、もう半数が専門学校であるため、職業人としての感覚を身につけることを目指し</p> <p>①農林業・農山村の特色や地域資源に興味・関心を持ち、現状と課題について探求する態度を身に付ける。</p> <p>②農山村活性化の方策について思考することを身に付ける。</p> <p>③農山村の景観や景観を生かしたツーリズムや商品開発について関心を持ち、景観を資源として捉え、その価値について理解する。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・座学・実習を通して、農林業・農山村の特色を理解している。</p>	<p>・農山村の特徴について考え、魅力について考えることができる。</p> <p>・農林業・農山村を活発にするための方策を自分なりに考え表現している。</p> <p>・自分の実践を正確に発信している。</p>	<p>・農林業・農山村の現状と課題について理解しようとしている。</p> <p>・農山村の景観を活かした地域開発に必要な知識や技術を習得しようとしている。</p>

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 グループワーク、実習中の発言や取り組みの観察 レポートやワークシート、その他提出物などの内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 グループワーク・実習中の発言や取組の観察 レポートやワークシート、その他提出物などの内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言や取り組みの観察 グループワーク・実習中の発言や取組の観察 出席や提出物の提出状況 授業ノートの観察

6 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動(指導内容)	評価方法
4	地域資源とその活用	4	教科書	<ul style="list-style-type: none"> 自然や農業が人間生活に必要なとされる理由と、農業・農村に注目が集まる理由を理解する。 地域資源と地域資源活用について知る。 	授業の様子 ノート確認
	農山村と都市の現状と変化	4	教科書	<ul style="list-style-type: none"> 農山村と都市の関係性が変容するにつれ、人々の意識がどのように変化してきたか知る。 	授業の様子 ノート確認
5	農山村と都市の現状と変化	2	教科書 実習	<ul style="list-style-type: none"> 農業や農村の保全や多面的機能の活用について理解する。 フィールドワークを通して、農山村の魅力や農業・農村の多面的機能について知る。 	授業の様子 ノート確認 実習の様子 レポート確認
	地域活性化に向けた施策・取り組み	5	教科書	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会の現状と課題、行政、その他企業や団体による地域活性化について知り、地域づくりについて考える。 	授業の様子 ノート確認
6	地域資源の魅力と価値	4	教科書	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源の魅力を理解し、その発見と保全および活用方法について知る。 自身の住む地域の歴史や文化、その地域で生活を営んできた様子について調べ、内容をまとめて発表する。 	授業の様子 ノート確認 発表への取り組み
	地域振興に向けた施策と取り組み	2	教科書	<ul style="list-style-type: none"> 地域活性化のための方策を、農村側と都市側の両方の視点から考える。 	授業の様子 ノート確認
	前期中間考査 考査振り返り	1 1	考査 考査	<ul style="list-style-type: none"> 考査により、理解度を確認する。 考査を用いて学習内容を振り返る。 	考査の結果 授業の様子
7	異業種連携と商品価値の創造	2	教科書	<ul style="list-style-type: none"> 6次産業化やヘルスツーリズム、農福連携について知る。 	授業の様子 ノート確認
	地域資源活用の実践と課題	6	教科書 実習	<ul style="list-style-type: none"> 社会的起業家、地域活性化の核となる人材、ワークショップの方法、インタープリター、対人サービスのマナーと安全管理について知る。 講師を招き、対人サービスのマナーについて実際に体験する。 	授業の様子 ノートの確認 実習の様子 ワークシート確認
9	商品開発への活用	4	教科書	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源を商品開発へとつなげる手法を知り、実際に新商品案を考案する。 	実習の様子 レポート確認
	地域資源の見つけ方と活用	2	教科書	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源の発見・活用・評価のサイクルを知る。 	授業の様子 ノート確認
	前期期末考査 考査振り返り	1 1	考査 考査	<ul style="list-style-type: none"> 考査により、理解度を確認する。 考査を用いて学習内容を振り返る。 	考査の結果 授業の様子

10	商品開発への活用	4	実習 グループ ワーク	・自分たちが考案した商品の試作を振り返り、改善する。	実習の様子 グループワークの様子 レポートの確認
	観光への活用	4	教科書	・グリーン・ツーリズムと、そこから派生した観光産業について知る。	授業の様子 ノート確認
11	商品開発への活用	4	実習 グループ ワーク	・自分たちが考案した商品の試作を振り返り、改善する。	実習の様子 グループワークの様子 レポートの確認
	サービス業への活用	2	教科書	・地域資源が直売所や農家レストランなどのサービス業でどのように活用されているか知る。	授業の様子 ノートの確認
	前期期末考査 考査振り返り	1 1	考査 考査	・考査により、理解度を確認する。 ・考査を用いて学習内容を振り返る。	考査の結果 授業の様子
12	教育・福祉への活用	2	教科書	・地域資源の教育・福祉への活用例を知る。	授業の様子 ノートの確認
	商品開発	6	実習 グループ ワーク	・自分たちが考案した商品の試作を振り返り、改善する。商品化できるよう、パッケージについても考える。 ・考案したものを島内企業の方へ発表・提案する。	実習の様子 グループワークの様子 レポートの確認
1	農業のユニバーサルデザイン化	3	教科書	・誰もが取り組み可能な農業を目指した取り組みを知る。	授業の様子 ノートの確認
	地域資源のマーケティングとブランドづくり	3	教科書	・マーケティングの重要性を知り、それを踏まえたブランディングを知る。	授業の様子 ノートの確認
	学年末考査	1	考査	・考査により、理解度を確認する。	考査の結果

計70時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・実習後には毎回レポートを提出することとなります。
- ・単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

「地域資源活用」は、地域を知り、地域の盛り上げ方を考える科目です。佐渡の現状を踏まえ、課題、魅力について考えます。そのうえで、みんなで佐渡を盛り上げられるアイデアを創造していきましょう。この科目は、今後佐渡に関わる皆さんと一緒に作り上げていく科目です。様々な物事の進め方を知る良い機会にしましょう。商品開発を行う上で、検便が必要になります。

(担当：高橋 幸太郎)

教科（科目）	工業（工業技術基礎）	単位数	4 単位	学年（コース）	2 年次（環境工学系列）
使用教科書	実教出版『工業技術基礎』				
副教材等	関数電卓、実習服上下、帽子、				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活で必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必履修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>工業技術の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の諸課題を適切に解決することに必要な、基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 工業技術について、工業のもつ社会的な意義や役割と、人間の生活と工業技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する工業技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 工業技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき、工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む姿勢を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>① 工業技術と人間の関わり及び、工業技術が日本の発展に果たした役割についての理解を目指す。</p> <p>② 技術者に求められる職業人としての倫理観や使命と責任について理解できるよう工夫して指導する。</p> <p>③ 更に、実習として学んだ知識や技術を総合的に理解し、工業技術を習得した人材を育成する。</p>

4 評価規準と評価方法

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
工業の各分野に関する基礎的な知識と技術を身につけ、工業と環境の調和及び、現代社会における工業の意義や役割を理解し、実際の仕事に必要な技術を身につけようとしている。	工業の基礎的な実習をとおして、自ら考えながら作業することにより、作業内容を理解し、その結果を考察する力を身につけようとしている。	工業技術に興味・関心を持ち、その技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、安全、規範を身に付けた態度で実習に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 A	思考・判断・表現 B	主体的に学習に取り組む態度 C
評価の観点	工業の各分野について体系的・系統的に役割を理解するとともに、関連する技術を身につけている。	実習をとおして、工業技術を体感することでより深く理解し、その後、考察により要点を報告書にまとめる能力を身につけている。	工業技術の習得に意欲的で、安全、規範を身に付けた態度で実習に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価方法	以上の観点について総合的に判断し、各観点を「A：十分満足できる」「B：おおむね満足できる」「C：努力を要する」で評価します。		

5 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動（指導内容）	評価	評価方法
4 5	・オリエンテーション	2	・教科書 ・関数電卓	・実習をする心構え、報告書の書き方、電卓の使い方、図面の表し方、安全管理の必要性と方法を理解する。	A,B,C	・実習態度 ・出欠席 ・作品評価 ・報告書など
	・計測の基礎	10	・教科書	・実習に必要な計測器具の使用法、測定方法を理解する。	A,B,C	
	・図面の基礎	20	・自作プリント	・基礎的な図面の読み方を身につける。 ・第3角法により、図面を表現する方法を学ぶ。	A,B,C	
6 8 9 10	・組木細工	20	・自作プリント	・計測・製図・3D-CAD・CNCの技術を用いて、木材を自動加工し6本の直方体をくみ上げる。	A,B,C	
	・測量	20	・自作プリント	・器具の安全な取り扱い方法を身につける。 ・器具を用いた測量をおこない、結果をまとめ、考察する。	A,B,C	

11	・手仕上げ	20	・自作プリント	・基本的な道具の使い方などを理解する。 ・切削などにより成形する技術を身につける。	A,B,C
12					
1					
2	・電子制御	20	・自作プリント	電子回路を作成し、自作プログラムを入力することで、LED やモータなどを制御する。	A,B,C
	・汎用エンジン	20	・自作プリント	・内燃機関の分解・組立をとおして、安全に作業を行うことを理解する。	A,B,C
	・電気工事	20	・自作プリント	・電気工事における基本的な道具、器具の取り扱い方法を実践的に身につける。 ・簡単な配線図を適切に理解し読む、描く。	A,B,C
3	・まとめ	8	・作文等	・1年間の実習内容の振り返りをする。	A,B,C

計 140 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

・課題として各実習の最後に報告書の提出を求める。

7 担当者からの一言

・工業における基本的な実習科目であり、3年次の実習や他の科目と接続的な役割をもつ。

教科（科目）	工業（実習）	単位数	4 単位	学年（コース）	3 年次（環境工学系列）
使用教科書	なし				
副教材等	関数電卓、実習服上下、帽子				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活で必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切に指し導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

工業の各専門分野に関する技術を実際の作業を通して総合的に習得し、技術革新に主体的に対応できる能力と態度を身につける。

3 指導の重点

- ① 作業をとおして工業のいろいろな専門分野に関する基本的な知識と技術を総合的に習得する。
- ② 将来の産業社会に貢献し、技術革新に対応できるように能力と態度を身につける。

4 評価規準と評価方法

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
工業の各分野に関する基礎的な知識と技術を身につけ、工業と環境の調和及び、現代社会における工業の意義や役割を理解し、実際の仕事に必要な技術を身につけようとしている。	工業の基礎的な実習をとおして、自ら考えながら作業することにより、作業内容を理解し、その結果を考察する力を身につけようとしている。	工業技術に興味・関心を持ち、その技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、安全、規範を身に付けた態度で実習に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 A	思考・判断・表現 B	主体的に学習に取り組む態度 C
評価の観点	工業の各分野について体系的・系統的に役割を理解するとともに、関連する技術を身につけている。	実習をととして、工業技術を体感することでより深く理解し、その後、考察により要点を報告書にまとめる能力を身につけている。	工業技術の習得に意欲的で、安全、規範を身に付けた態度で実習に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価方法	以上の観点について総合的に判断し、各観点を「A：十分満足できる」「B：おおむね満足できる」「C：努力を要する」で評価します。		

5 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動（指導内容）	評価	評価方法
4	・オリエンテーション	2	・教科書 ・関数電卓	・実習をする心構え、報告書の書き方、電卓の使い方、図面の表し方、安全管理の必要性と方法を理解する。	A,B,C	・実習態度 ・出欠席 ・作品評価 ・報告書 など
4	自動車エンジン	16	・自作プリント	・自動車用のエンジンを分解・組立することにより、機関の原理を理解する。 ・安全に作業を進めることを実践する。	A,B,C	
5	シーケンス制御	16	・シーケンス制御シミュレーションソフト	・シーケンス制御シミュレーションソフトを用いて、信号機や工場のライン加工などの制御方法を学ぶ。	A,B,C	
6			・自作プリント			
7	マインドストーム	16	・レゴ® マインドストーム ・自作プリント	・レゴ社のマインドストームを用いて、プログラミングのアルゴリズムを学び、ライントレーサーや自立走行ロボットの制御などを行う。	A,B,C	
8	・文化祭出展 作品製作	28	・木材等材料	・各班がテーマを決めて文化祭に出展するための作品を製作する。	A,B,C	
9			・部品			
10			・各種工具			
11	・実習発表	40	・木材等材料	・各班が課題を決めて作品を製作し、その過程及び成果を発表する	A,B,C	
12			・部品			
1			・各種工具 ・パソコン ・プロジェクター			

1	まとめ	2	・作文等	・1年間の実習内容の振り返りをする。	A,B,C	・作文課題
---	-----	---	------	--------------------	-------	-------

計 120 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

・課題として各実習の最後に報告書の提出を求める。

7 担当者からの一言

・2学年次で習得した基本的な知識・技能を発展させたものづくりができるように、安全に気をつけ、規範を身に付けた態度で実習を行なう。

教科(科目)	工業（製図）	単位数	4単位	学年（系列）	3学年（環境工学系列）
使用教科書	実教出版『製図』				
副教材等	全国工業高等学校長協会『基礎製図検定問題集』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の各分野の製図に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 工業の各分野に関する製図について日本工業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>工業の各分野の製作図や設計図などを正しく読み、図面を構想し作成する視点で捉え、日本工業規格（JIS）など製図に関する規格と関連付けて考察し、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取ることができるようになります。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
製図に関する事象について、基本的な概念や基礎的な知識を理解し、読図・作図の技能を身につけている。	製図に関する事象について、論理的に考えたり、分析したりして、総合的に判断できる。また、その過程や結果および考え方を的確に表現できる。	製図に関する事象について関心をもち、主体的・協働的に取り組む態度を身につけようとする。

5 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	製図に関する事象について、基本的な概念や基礎的な知識を理解し、読図・作図の技能を身につけている。	製図に関する事象について、論理的に考えたり、分析したりして、総合的に判断できる。また、その過程や結果および考え方を的確に表現できる。	製図に関する事象について関心をもち、主体的・協働的に取り組む態度を身につけようとする。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 表現の観察 ・ 課題、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ 課題、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ 課題、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	製図の基礎	36 製図を学ぶにあたって		・ 図面の歴史・役割および製図の規約について理解させる。	a・b	提出物の分析 定期テスト
		製図用具		・ 製図に用いる用具や用紙の正しい使い方について理解させる。	a・b	
		線		・ 線の種類と使い方について理解させる。	a・b	
		図面に用いる文字		・ 図面に用いる文字や記号の書き方について理解させる。	a・b	
5		平面図形のかき方		・ 定規とコンパスを用いて、平面図形を正確にかけるようにする。	a・b・c	
		立体を平面で表す方法		・ 品物の形状を平面上に表す投影法について理解させる。 ・ 第三角法による投影を理解させる。	a・b・c	
		品物の形状が一目でわかる方法		・ 品物の形状をわかりやすく立体的に図示する方法として、キャビネット図と等角図のかき方について理解させる。	a・b・c	
6	前期中間 考査					

7	製図の基礎	28 展開図		・角柱・円柱・角すい台の側面の展開図のかき方について理解させる。	a・b	提出物の分析定期テスト
8		図形の表し方		・主投影図の選び方を理解させる。	a・b・c	
9		品物の内部の表し方		・全断面図と片側断面図のかき方を理解させる。	a・b・c	
	前期期末 考査					
10	製図の基礎	10 大きさの表し方		・基本的な寸法記入の方法について理解させる。 ・直径・半径・円弧などの形状や加工方法を表す寸法記入の方法を理解させる。	a・b・c	提出物の分析定期テスト
		図面		・図面の様式、図面をかく手順および図面の管理・保存について理解させる。	a・b	
11	製図の応用	30 平面曲線のかき方		・だ円・インボリュート曲線・サイクロイド曲線のかき方を理解させる。	a・b	
		図形の表し方		・品物の内部の形状を正確に表すための断面図のかき方を理解させる。 ・特別な図示法および線・図形の省略のし方について理解させる。	a・b・c	
		特殊な寸法記入		・補助投影図・部分投影図・局部投影図・回転投影図の利用について理解させる。 ・曲線の寸法記入、連続する穴の寸法記入およびテーパ・勾配の記入のし方を理解させる。 ・寸法記入上の留意事項について理解させる。	a・b・c	
	後期中間 考査					

12		6 表面の粗さなどの状態の表し方		・機械部品の微細な幾何学的特性を表す表面性状の図示方法について理解させる。	a・b	提出物の分析定期テスト
		許される誤差の大きさの表し方		・サイズの許容限界およびはめあい方式について理解させる。 ・サイズ公差・許容サイズ・サイズ許容区間などの意味を理解させる。	a・b・c	
		幾何公差		・代表的な幾何公差の公差領域の定義およびその指示方法とその説明について理解させる。	a・b	
1	機械要素の製図	30 ねじ ボルト・ナット・小ねじ・止めねじ・座金		・ねじの名称と種類、ねじの図示法、JISに基づくねじの表し方について理解させる。 ・ボルトの種類、六角ボルト・ナットの呼び方、ボルト・ナットの略画法について理解させる。 ・小ねじ、止めねじ・座金などの表し方を理解させる。 ・キー・ピン・止め輪の表しかたを理解させる。	a・b a・b a	
2		キーとピン・止め輪 軸受と軸継手の製図 Vプーリ・Vベルト、歯付プーリ・歯付ベルト 歯車の製図 溶接継手 ばねの製図 管・管継手とバルブ・コック スケッチ図		・軸受の種類および軸継手の種類や呼び方について理解させる。 ・プーリ・ベルトの種類や呼び方について理解させる。 ・歯車の種類やかき方について理解させる。 ・溶接継手の指示のし方について理解させる。 ・ばねの種類と図示方法について理解させる。 ・管・管継手の種類について理解させる。 ・バルブおよびコックの種類や呼び方を理解させる。 ・スケッチ作業の手順を理解させる。	a a a a a a a a a a・b・c	
3	学年末考査					

7 課題・提出物等

- ・ 9月の基礎製図検定を受検します。
- ・ 単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

技術の表現である図面は、工学言語ともいわれ、しかも言葉の違う人々にも通じる国際言語です。明りょうで正確な図面をかくための知識・技術を高めていきましょう。

(担当：山岸 和重)

教科(科目)	工業（工業情報数理）	単位数	2単位	学年（系列）	2学年（環境工学系列）
使用教科書	実教出版『工業情報数理』				
副教材等	全国工業高等学校長協会『3級計算技術検定標準問題集』 全国工業高等学校長協会『3級情報技術検定標準問題集』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>工業に関する見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動などを通して、工業の各分野における情報技術の進展への対応、事象における数理処理に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な工業に関する知識や技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 情報リテラシー及び数理処理の手段を活用する力の向上を目指して、自ら学び、工業界の発展のために主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、</p> <p>① 社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解できるようにすることを目指します。</p> <p>② 情報モラルに関して、事例を挙げながら自ら判断する態度を育てます。</p> <p>③ プログラミングや数理処理では演習を重視し、実際に活用できるようにします。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実社会に必要な情報に関する知識や技能を身につけるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報技術を活用して情報を処理・表現ができるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報技術に関心をもち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用するために、創造的・実践的な態度を身につけている。

5 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実社会に必要な情報に関する知識や技能を身につけるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報技術を活用して情報を処理・表現ができるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報技術に関心をもち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用するために、創造的・実践的な態度を身につけている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ ペーパーテストの分析 ・ 実験、式やグラフでの表現の観察 ・ 課題、提出物などの内容の確認などから、評価します。 	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ ペーパーテストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ 課題、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析などから、評価します。 	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ 課題、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	産業社会と情報技術	10 コンピュータの構成と特徴 情報化の進展と産業社会 情報化社会の権利とモラル 情報のセキュリティ管理		<ul style="list-style-type: none"> ・ コンピュータの基本構成等を理解させる。 ・ コンピュータが身のまわりのものに組み込まれ、さらにインターネットなどに接続されていることなどについて理解させる。 ・ 知的財産権、プライベートの保護、ネチケットなど自分と他人の権利を守ることやモラルの重要性などを理解させる。 ・ コンピュータウイルス対策や情報の不正利用防止のための基本的な技術等を理解させる。 	a・c a・b a・c a・b	提出物の分析 定期テスト
5	コンピュータの基本操作とソフトウェア	3 コンピュータの基本操作 ソフトウェアの基礎		<ul style="list-style-type: none"> ・ コンピュータの正しい利用手続き、キーボードやマウスの基本的な操作について等理解させる。 ・ ソフトウェアの分類とオペレーティングシステムの目的および基本操作等について理解させる。 	a・c b・c	
6	プログラミングの基礎	5 プログラム言語 プログラムの作り方 流れ図とアルゴリズム		<ul style="list-style-type: none"> ・ どのようなアプリケーションソフトウェアがあるのかを理解させ、実際に使えるようにする。 ・ プログラム言語の種類等を理解させる。 ・ 問題解決の手段としてアルゴリズムやプログラム作成の意味を理解させる。 ・ 基本的な流れ図と構造化プログラミングの意義について理解押させる。 	a・b a・c a・c	
	前期中間考査					

7	BASIC による プログラミング	5 BASIC の特徴 四則計算のプログラム 文字データの取り扱い データの読取り 選択処理・繰返し 処理・配列処理・ 外部関数・グラフ ィックス		<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なプログラムによって BASIC の特徴を理解させる。 ・データの入力・出力、関数の計算について理解させる。 ・文字データの取り扱いについて理解させる。 ・プログラム中にデータを設定する方法を理解させる。 ・選択処理・繰返し処理・配列処理・外部関数・グラフィックスについて理解させる。 	a・c a・b・c c a a・b・c	提出物の 分析定期 テスト 提出物の 分析定期 テスト
8 9	C によるプロ グラミング	9 C の特徴 四則演算のプログラム 選択処理・繰返し 処理・配列・関数 C による数値処理		<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なプログラムによって C の特徴を理解させる。 ・簡単な計算プログラムによって、データ型やデータの入出力方法などを理解させる。 ・選択処理・繰返し処理・配列・関数について理解させる。 ・答えを近似的に求める数値計算プログラム等 を理解させる。 	a・c a・b・c a・b・c a・b・c	
10	ハードウェア コンピュータ ネットワーク コンピュータ 制御	4 データの表し方 論理回路の基礎 処理装置の構成 と動作 3 コンピュータネ ットワークの概 要 コンピュータネ ットワークの通 信技術 4 コンピュータ制 御の概要 制御プログラミ ング 組込み技術		<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータで用いるデータの表し方について理解させる。 ・2 値で演算や制御を行う論理回路の基本について理解させる。 ・コンピュータの構成、処理装置、入出力装置、補助記憶装置について理解させる。 ・コンピュータネットワークを利用したデータ通信の利点等について理解させる。 ・ネットワーク機器とネットワークの形態等について理解させる。 ・コンピュータ制御の考え方について理解させる。 ・コンピュータ制御の具体的な方法について理解させる。 ・身のまわりの組込み技術の概要を知り、特徴を理解させる。 	a・c a・b a・b・c a・c a・b b・c a b・c	

11	情報技術の活用と問題の発見・解決	9 マルチメディア プレゼンテーション 文書の電子化 問題の発見・解決		<ul style="list-style-type: none"> マルチメディアの概要と情報のデジタル化等について理解させる。 収集した情報をもとに、他人にわかりやすく効果的に伝える方法を身に付けさせる。 まとめた情報を文書として保管、活用する方法について理解させる。 問題を見だし、それを解決する手順および方法を理解させる（コンピュータの操作を含む）。 	a・c a・b a・b a・b・c	
	後期中間考査					
12	数理処理	1 8 単位と数理処理		<ul style="list-style-type: none"> 量の名称・量記号・単位 (SI) について理解させる。 実験データをグラフによって可視化し、データの特徴を見いだす方法を身につけさせる（電卓の操作方法を含む）。 いろいろな事象が、モデル化によって数式として扱えることを理解させる。 	a・b a・b・c a・b・c	提出物の分析定期テスト
1		実験と数理処理				
		モデル化とシミュレーション				
2						
3	学年末考査					

7 課題・提出物等

- 6月・11月の計算技術検定、6月・1月の情報技術検定、7月・12月のパソコン利用技術検定の受検をすることができます。
- 単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- 長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

現代は多くの情報がコンピュータによって処理されています。技術の高度化が進み、私たちの生活に欠かせないものとなっています。また学習活動を通して、数理処理を利用した問題解決能力や応用力を高めていきましょう。
(担当：山岸 和重)

教科（科目）	工業（工業材料技術）	単位数	2単位	学年（コース）	3年次（環境工学系列）
使用教科書	実教出版『工業材料技術』				
副教材等	関数電卓、実習服上下、帽子				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活で必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切に指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必履修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

工業の各分野に用いられる材料の製造、組織、性質及び用途に関する基礎的な知識と技術を習得する。

3 指導の重点

- ① 身の回りにある製品の材料について、関心と理解を深めます。
- ② 工業材料の製造法や特性を理解し、適切な材料の選定や有効に利用する方法を考察し表現する力を育てます。
- ③ 更にこれらに対して主体的かつ協働的に取り組む態度を育てます。

4 評価規準と評価方法

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
工業材料に関する学習や実習をとおして、基本的な概念や知識を身につけ、材料特性に応じた加工方法を理解、実施できる。	工業材料に関する知識・技術を活用し、適切な判断のもと、諸問題を検証し改善案を創意工夫しながら考え表現できる。	工業材料全般に対する主体的な関心や探究心を持ち、他者と協働的に諸問題の解決に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	A 知識・技術	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査の分析 ・ 小テストの分析 ・ 授業中の知識・技能の確認 ・ 提出物や製作物の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査の分析 ・ 小テストの分析 ・ 授業中の創意工夫の観察 ・ 提出物や製作物の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の取り組みの観察 ・ 提出物の提出状況 ・ 課題への協働的な取り組みの観察 などから、評価します。
評価方法	以上の観点について総合的に判断し、各観点を 「A：十分満足できる」「B：おおむね満足できる」「C：努力を要する」 で評価します。		

5 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
4	第1章「工業材料と社会生活」 第2章「工業材料の構造と性質」	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書 ・ プリント ・ 小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身のまわりの道具や製品、機械はさまざまな材料で作られていることを理解する。 ・ 化学結合の違いによって材料の分類や異なる特性を持つことを理解する。 ・ 小テストによる学習の理解度を確認する。 	A B C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期テスト ・ 小テスト ・ 実技テスト ・ 授業態度 ・ 提出物
5		9				
6	【定期考査】 第3章「金属材料」	8				
7	第4章「セラミックス材料」	7				
8		2				
9	【定期考査】 第5章「高分子材料」 第6章「複合材料・機	8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高分子材料の特性や加工方法を理解する。 ・ 複合材料の定義や特徴的な機能 			

10	能性材料・新材料・生 体用材料」	8		を 理解し、代表的な利用例につい て考える。 ・材料を検査するための試験装置 や器具についての原理や試験方法 を理解する ・小テストによる学習の理解度を 確認する。			
11	第7章 「工業材料の検査」	8					
12	【定期考査】 第8章「工業材料と環 境」	7					
1	【定期考査】	6					・持続可能な社会・循環型社会を 実現するために、工業材料の課題 と材料技術にかかわる技術者のあ りかたを考える。
2							
3							

計 70 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・ 日頃の学習の理解度を量るために小テストを実施しますので、全ての小テストに解答が必要です。
- ・ 定期的にノート提出を求めます。
- ・ 授業は実習・実技的内容を含みます。終了後は原則的に報告書の提出を求めます。

7 担当者からの一言

学習内容には基礎的な化学、物理学、数学の知識を含むことから、これまでの学習を振り返り、より理解を深めていくことが大切です。また私たちの身の回りにある工業製品の材料について、その特性や性質を理解する態度を身につけ、作品作りをおしてもものづくりに対する興味をもってもらいたいと考えています。

(担当：茂野知弘)

教科（科目）	工業（工業環境技術）	単位数	2単位	学年（コース）	3年次（環境工学系列）
使用教科書	実教出版『工業環境技術』				
副教材等	関数電卓、実習服上下、帽子				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必履修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<ul style="list-style-type: none"> ・工業的な見地に立ち、実践的・体験的な学習活動を通して環境に関する調査や評価、管理に必要な知識・技術を身に付ける。 ・環境問題や環境技術に関する諸課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づいて解決策を表現する力を養う。 ・環境技術を活用し、持続可能な社会を構築する力を高めるとともに、工業の発展に主体的・協働的に取り組む態度を養う。

3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ① 工業の各分野における産業と環境との関係を理解し、環境保全に関する基礎的な知識と技術を育てます。 ② 環境問題や環境技術に関する諸課題を考え、科学的な根拠に基づいて解決策を考察し表現する力を育てます。 ③ 更にこれらに対して主体的かつ協働的に取り組む態度を育てます。
--

4 評価規準と評価方法

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
環境問題の種類やその特徴を理解し、環境保全に求められる基礎的な環境技術や方策に関する知識を身に付けている。また、環境問題や環境技術を理解するために、情報の検索と選択や資料の活用のほか、調査・実験についても適切に行うことができる。	身近な環境問題から地球環境問題までを系統的にとらえ、人類が環境に与える影響や人間と環境技術が果たす役割について思考・判断することができる。また、環境問題を解決するための方策や考え方を論理的かつ創造的に表現することができる。	環境問題や環境保全技術に関心をもち、環境にかかわる諸課題の探求と問題解決のため主体的に学習することができる。また、環境問題と環境保全技術を理解するために既存の知識と新たに習得した知識を融合して探求的な学習活動を行うことができる。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	A 知識・技術	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査の分析 ・ 小テストの分析 ・ 授業中の知識・技能の確認 ・ 提出物の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査の分析 ・ 小テストの分析 ・ 授業中の創意工夫の観察 ・ 提出物の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の取り組みの観察 ・ 提出物の提出状況 ・ 課題への協働的な取り組みの観察 などから、評価します。
評価方法	以上の観点について総合的に判断し、各観点を 「A：十分満足できる」「B：おおむね満足できる」「C：努力を要する」 で評価します。		

5 学習計画

月	単元名	授業時 数と領 域	教材名	学習活動（指導内容）	評価の 観点	評価方法
4	第1章「地球と人類」 第2章「社会と環境」	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書 ・ プリント ・ 小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球の成り立ちと地球の構造および物質の循環のしくみを理解する。 ・ 公害問題とその対策および地球規模の環境問題に対する国際的な取り組みを法律や制度の主旨と併せて理解する。 ・ 地球温暖化の要因と地球温暖化の防止策および適応策について理解する。 ・ エネルギー資源の利用形態および高効率な利用技術を理解する。 ・ 人間の経済活動にともなうごみ問題について考察する。 ・ 大気、水質、土壌、騒音の環境問題に関与する物質の種類と特徴および環境基準の概要を理解する 	A B C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期テスト ・ 小テスト ・ 実技テスト ・ 授業態度 ・ 提出物
5		9				
6	【定期考査】 第3章「地球温暖化とエネルギー」	8				
7	第4章「廃棄物とリサイクル」	7				
8		2				
9	【定期考査】 第5章「地域環境の保全」	8				

10	第6章「産業と環境」	8		<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境マネジメントシステムやライフサイクルアセスメントの目的を理解する。 ・国内企業と行政が取り組む環境への施策を法的な見地を含めて理解する。 			
11		8					
12	【定期考査】 第7章「都市・生活と環境」	7					<ul style="list-style-type: none"> ・都市化や生活の近代化、地域の高齢化にともなう災害リスクと、災害への備えや防災・減災に向けた基本的な取り組みについて理解する。
1	【定期考査】	6					
2							
3							

計 70 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・ 日頃の学習の理解度を量るために小テストを実施しますので、全ての小テストに解答が必要です。
- ・ 定期的にノート提出を求めます。
- ・ 授業は実習・実技的内容を含みます。終了後は原則的に報告書の提出を求めます。

7 担当者からの一言

私たちの生活における諸活動が環境に与える影響を、様々な工業的視点から考えていきます。身の回りの環境を地球全体に置き換え、自ら持続可能な社会を構築していく担い手であることに気付き、技術者としての態度と関心を身に付けてもらいたいと考えています。

(担当：茂野知弘)

教科（科目）	工業（生産技術）	単位数	4 単位	学年（コース）	2 年次（環境工学系列）
使用教科書	実教出版『生産技術』				
副教材等	実教出版「生産技術 演習ノート」、実教出版「工業高校生のための基礎数学」、関数電卓				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にしながら指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>我々の暮らしの中で使用されている電気・電子に関する知識を身に付け、必要とされる計算能力を身に付ける。</p> <p>生産に関する技術について自動化やネットワーク化を軸に関連する知識と技術を習得させる。</p>

3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・ 計算問題が多数あることから、基本的な数値、単位の取り扱い方の習得を重視します。 ・ 電気・磁気・静電気などの専門用語や知識の習得を重視します。 ・ 更にこれらに対して主体的かつ協働的に取り組む態度を育てます。
--

4 評価規準と評価方法

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生産技術の各分野に関する基礎的な技術を身に付け、生産者（技術者）としての責任ある取り組み、安全作業や事故防止の手法を実験・実習で体得し、実際の課題を適切に処理する技能を身に付けている。 ・ 生産技術について自動化やネットワーク化を軸に理解するとともに、関連する生産の合理化や統括生産の意義や役割を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生産技術に関する諸問題の適切な課題解決をめざし、基礎的な知識と技術を活用して判断し、工業技術の進展を的確に解決する能力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生産技術に興味・関心をもち、生産性を改善する能力を有することを目指して、生産工業と社会とのかかわりについて主体的に取り組む、実践的で真剣な態度を身に付けている。

5 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	A 知識・技術	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> 定期考査の分析 小テストの分析 授業中の知識・技能の確認 提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> 定期考査の分析 小テストの分析 授業中の創意工夫の観察 提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> 授業中の取り組みの観察 提出物の提出状況 課題に対する協働的態度の観察 などから、評価します。
評価方法	以上の観点について総合的に判断し、各観点を 「A：十分満足できる」「B：おおむね満足できる」「C：努力を要する」 で評価します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動（指導内容）	評価の 観点	評価方法
4	「生産技術」を学ぶにあたって 第1章 直流回路	12	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 プリント 小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 直流と交流の違いと理解させ、起電力・電位差・電圧を正しく取り扱えるようにする。 オームの法則、電圧降下、電池の内部抵抗を用いた回路計算について理解させる。 抵抗の接続とキルヒホッフの法則を用いた回路計算等について理解させる。 小テストや実験などを授業内で行い、理解度・意欲・態度などを確認する 	A B C	<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト 小テスト 実技テスト 授業態度 提出物
5	1. 電気回路 2. オームの法則	16				
6	3. 抵抗の性質 4. 電力と電流の熱作用	15				
7	5. 電流の化学作用と電池	12	<ul style="list-style-type: none"> 抵抗率とは何か、温度による抵抗の変化について理解させる。 ジュール熱とは何か、電力および電力量、許容電流について理解させる。 化学反応およびイオンのふるまいについて理解させ、鉛蓄電池・太陽電池・燃料電池について解説する。 小テストや実験などを授業内で行い、理解度・意欲・態度などを確認する 	A B C	<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト 小テスト 実技テスト 授業態度 提出物 	

8	第2章 磁気と静電気 1. 電流と磁気 2. 磁気作用の応用 3. 静電気	2	<ul style="list-style-type: none"> ・磁気について正しく理解させ、磁気に関するクーロンの法則を用いて計算できるようにする。 ・アンペアの右ねじの法則について理解させる。 ・電流による磁界の発生、磁界中の電流に働く力の大きさと向きについて理解させ、直流電動機および直流発電機の原理を理解させる。 ・静電気と静電力について理解させ、静電気に関するクーロンの法則を用いて計算ができるようにする。 ・コンデンサの構造および機能について理解させる。 ・直列接続・並列接続において、電荷・電圧・静電容量にかかわる計算ができるようにする。 ・小テストや実験などを授業内で行い、理解度・意欲・態度などを確認する 	A B C	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・小テスト ・実技テスト ・授業態度 ・提出物
9		15			
10		15			
11	第3章 交流回路 1. 交流の取り扱い 2. 交流回路 3. 交流電力	15	<ul style="list-style-type: none"> ・周期・周波数・位相・瞬時値・実効値について理解させ、R、L、Cの単独回路における電圧・電流・インピーダンスに関する計算ができるようにする。 ・RLC直列回路のインピーダンス・電流・電圧および位相差の関係を理解させ、計算できるようにする。 ・共振回路について理解させる。 ・交流回路における電力としての皮相・有効・無効電力を、それぞれの単位とともに理解させ、計算できるようにする。 ・力率について改善を含め理解させる。 ・小テストや実験などを授業内で行い、理解度・意欲・態度などを確認する 	A B C	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・小テスト ・実技テスト ・授業態度 ・提出物
12		12			

1	4. 三相交流	11	<ul style="list-style-type: none"> ・三相交流の結線方法を理解させ、三相交流の電圧・電流の計算ができるようにする。 ・回転磁界と三相誘導電動機の原理を理解させる。 ・法律や資格によって安全を確保していること、事故の種類と安全策、特殊な場所で使用する機器の安全策について理解させる。 ・小テストや実験などを授業内でを行い、理解度・意欲・態度などを確認する 	A B C	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・小テスト ・実技テスト ・授業態度 ・提出物
2	5. 回転磁界と 三相誘導電動機	11			
3	6. 電気設備	4			

計 140 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 日頃の学習の理解度を量るために小テストを実施しますので、全ての小テストに解答が必要です。
- ・ 定期的にノート提出を求めます。
- ・ 授業内容に実験などを含みます。別個に報告書を作成する場合があります。

8 担当者からの一言

学習内容には中学校までで学んだ「理科」及び、高校で学ぶ「数学」「化学」「物理」の内容を含むことから、他教科で学ぶ知識との関連を意識することで、より理解を深めていくことができます。私たちが日常で気に使用している電気の内容を理解し、うまく制御することで実社会での生産活動につながっていることを確認します。

(担当：山田友貴)

教科（科目）	工業（電気回路）	単位数	4 単位	学年（コース）	3 年次（環境工学系列）
使用教科書	実教出版『電気回路1』『電気回路2』				
副教材等	関数電卓				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活で必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切に指し導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

我々の暮らしの中で使用されている電気・電子に関する知識を身に付け、必要とされる計算能力を身に付ける。
生産に関する技術について自動化やネットワーク化を軸に関連する知識と技術を習得させる。

3 指導の重点

- ・ 計算問題が多数あることから、基本的な数値、単位の取り扱い方の習得を重視します。
- ・ 電気・磁気・静電気などの専門用語や知識の習得を重視します。
- ・ 更にこれらに対して主体的かつ協働的に取り組む態度を育てます。

4 評価規準と評価方法

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 基本的な電気現象、電気現象を量的に取り扱う方法、電氣的諸量の相互関係について原理・法則を理解し、知識と技術を身につけている。	・ 基本的な電気現象の意味を考え、変化に対する結果を電気に関する知識と技術を活用して考察し、導き出した考えを的確に表現することができる。	・ 基本的な電気現象と、その現象が数式により表現できることに興味をもち、新しい事柄に対して意欲的に学習に取り組んでいる。

5 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	A 知識・技術	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査の分析 ・ 小テストの分析 ・ 授業中の知識・技能の確認 ・ 提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査の分析 ・ 小テストの分析 ・ 授業中の創意工夫の観察 ・ 提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の取り組みの観察 ・ 提出物の提出状況 ・ 課題に対する協働的態度の観察 などから、評価します。
評価方法	以上の観点について総合的に判断し、各観点を 「A：十分満足できる」「B：おおむね満足できる」「C：努力を要する」 で評価します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時 数と領 域	教材名	学習活動（指導内容）	評価の 観点	評価方法
4	第8章 電気計測 1. 測定量の取り扱い	12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書 ・ プリント ・ 小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際単位系、標準器、誤差、有効数字などについて理解させる。 ・ 測定量、計器姿勢などの記号、精度階級などについて理解させる。 ・ 永久磁石可動コイル形計器、可動鉄片形計器、電流計形計器、デジタル計器の動作原理及び特徴などについて理解させる。 ・ 直接測定と間接測定、偏位法と零位法の意味について理解させる。 	A B C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期テスト ・ 小テスト ・ 実技テスト ・ 授業態度 ・ 提出物
5	2. 電気計測の原理と構造 3. 基礎量の測定	16				
6	第1章 直流回路 1. 電気回路	15	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直流と交流の違いと理解させ、起電力・電位差・電圧を正しく取り扱えるようにする。 ・ オームの法則、電圧降下、電池の内部抵抗を用いた回路計算について理解させる。 ・ 抵抗の接続とキルヒホッフの法則を用いた回路計算等について理解させる。 ・ 小テストや実験などを授業内で行い、理解度・意欲・態度などを確認する ・ 抵抗率とは何か、温度による抵抗の変化について理解させる。 	A B C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期テスト ・ 小テスト ・ 実技テスト ・ 授業態度 ・ 提出物 	
7	2. オームの法則 3. 抵抗の性質 4. 電力と電流の熱作用	12				

				<ul style="list-style-type: none"> ・ジュール熱とは何か、電力および電力量、許容電流について理解させる。 		
8	第3章 交流回路 1. 交流の取り扱い 2. 交流回路 3. 交流電力	2		<ul style="list-style-type: none"> ・周期・周波数・位相・瞬時値・実効値について理解させ、R、L、Cの単独回路における電圧・電流・インピーダンスに関する計算ができるようにする。 ・RLC直列回路のインピーダンス・電流・電圧および位相差の関係を理解させ、計算できるようにする。 ・共振回路について理解させる。 ・交流回路における電力としての皮相・有効・無効電力を、それぞれの単位とともに理解させ、計算できるようにする。 ・力率について改善を含め理解させる。 ・小テストや実験などを授業内で行い、理解度・意欲・態度などを確認する 	ABC	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・小テスト ・実技テスト ・授業態度 ・提出物
9		15				
10		15				
11	4. 三相交流 5. 回転磁界と三相誘導電動機 6. 電気設備	15		<ul style="list-style-type: none"> ・三相交流の結線方法を理解させ、三相交流の電圧・電流の計算ができるようにする。 ・回転磁界と三相誘導電動機の原理を理解させる。 ・法律や資格によって安全を確保していること、事故の種類と安全策、特殊な場所で使用する機器の安全策について理解させる。 ・小テストや実験などを授業内で行い、理解度・意欲・態度などを確認する 	ABC	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・小テスト ・実技テスト ・授業態度 ・提出物
12		12				
1		11				
2		11				
3	4					

計 140 時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 日頃の学習の理解度を量るために小テストを実施しますので、全ての小テストに解答が必要です。
- ・ 定期的にノート提出を求めます。
- ・ 授業内容に実験などを含みます。別個に報告書を作成する場合があります。

8 担当者からの一言

昨年度学んだ「生産技術」の内容をより深く学びます。私たちが日常で気に使用している電気の内容を理解し、うまく制御することで実社会での生産活動につながっていることを確認します。

(担当：山田友貴)

教科(科目)	工業（プログラミング技術）	単位数	2単位	学年（系列）	3学年（環境工学系列）
使用教科書	実教出版『プログラミング技術』				
副教材等	全国工業高等学校長協会『3級情報技術検定標準問題集』 全国工業高等学校長協会『パソコン利用技術検定試験演習問題集3級【ワープロ】』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

コンピュータのプログラミングをアルゴリズムとプログラム技法の観点から捉え、工業生産や社会生活に関連付けて考察し、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、コンピュータのプログラミングができるようになる。そのためにまず、コンピュータによる問題処理の手順を理解し、次に実際のプログラムを作成するための技法を身につける。さらに、ファイル処理、ネットワーク処理、機器制御処理、グラフィック処理などの実際的な応用プログラムによりプログラムの開発方法を体験的に学習する。

3 指導の重点

情報技術の進展にも留意し、進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、プログラミング言語としてC言語を選択し、演習や実習などを通して、具体的に理解できるように指導します。

アルゴリズムについては、プログラム言語の規則の習得に偏ることのないよう、適切な事例を活用した演習や実際にコンピュータを活用した実習を取り入れ、アルゴリズムの基本構造である順次型、選択型、繰り返し型の構造などの論理的な思考を重視します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> コンピュータを使用して問題を解決するための処理手順を理解している。 文書化、システムの開発手順、プログラムの構造化、モジュール化などの実践的な知識を持ち、効率的な開発の技法を理解している。 コンパイラなどの開発用ソフトウェアを適切に操作し、プログラムを作成できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的なアルゴリズムと処理手順を実際にプログラミングすることを通して理解している。 処理の対象となる問題を正確に分析し、適切な処理手順を考え、プログラムを作成する実践的な能力を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータによる問題処理の手段としてのプログラミングに興味・関心を持っている。 基本的なプログラミング言語の知識を学習し活用する意欲を持ち、実際のプログラム開発に主体的に取り組む態度を身につけている。 デバッグ、トレースなどの操作を通じて、プログラムが正しく動作しているかの確認を行える技能を有し、期待通りの動作を行うプログラムの作成に主体的に取り組むことができる。

5 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータを使用して問題を解決するための処理手順を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的なアルゴリズムと処理手順を実際にプログラミングすることを通して理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータによる問題処理の手段としてのプログラミングに興味・関心を持っている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 実験、式やグラフでの表現の観察 課題、提出物などの内容の確認などから、評価します。 	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 課題、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析などから、評価します。 	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 課題、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	アルゴリズムとシステム開発	5 アルゴリズム プログラム開発環境		<ul style="list-style-type: none"> 身近な例を用いてアルゴリズムの役割を理解させる。 流れ図に用いる主な図記号を理解させる。 順次型・選択型・繰返し型のアルゴリズムを理解させる。 システム開発の流れと各段階の作業内容を理解させる。 システム開発における文書化の意味とその重要性を理解させるとともに、アローダイアグラムなどの図表について理解させる。 OSの機能を理解させる。 	a・b・c	提出物の分析 定期テスト
5	プログラミング技法	13 基本的なプログラム		<ul style="list-style-type: none"> 実習が中心となるので、コンパイラの使い方などの基本的な操作方法を覚えさせる。 C言語のプログラムの書き方について理解させる。 定数の種類、変数の型と記憶領域の関係を理解させ、取り得る値の範囲や変数名の付け方および型宣言について理解させる。 デバッグの概要を理解させ、プログラムの誤りを修正できるようにする。 標準入出力関数の使い方を理解させ、簡単な入出力のプログラムを書けるようにする。 	a・c	
6	前期中間 考査	プログラムの制御構造		<ul style="list-style-type: none"> 選択における制御文の使い方を理解させる。 関係演算子・等価演算子を利用した条件式の書き方を理解させる。 論理演算子の働きについて理解させ、二つ以上の条件式を組み合わせる方法を理解させる。 演算子の優先順序と結合規則について理解させ、分かりやすい条件式を書けるようにする。 繰返しにおける制御文の使い方を理解させる。 	a・b・c	

7	プログラミング技法	14 配列とポインタ		<ul style="list-style-type: none"> ・配列を用いる利点を理解させ、配列の宣言について説明し、配列のサイズと要素の添え字の関係を理解させる。 ・文字型配列と文字列の関係およびナル文字の意味とその働きについて理解させる。 ・多次元配列について理解させる。 ・ポインタによりメモリ上のアドレスを扱えることを理解させ、アドレス演算子・間接参照演算子の働きを理解させる。 ・配列とポインタの関係を理解させる。 	a・b・c	提出物の分析定期テスト
8 9		関数		<ul style="list-style-type: none"> ・関数の概念とC言語における関数の意味を理解させる。 ・関数の型と引数について説明し、プロトタイプ宣言がなぜ必要か理解させ、関数の作り方を理解させる。 ・プリプロセッサの種類と働きを理解させる。 ・数学関数の種類と使い方について理解させる。 ・変数の有効範囲と記憶域クラスについて説明する。 ・関数には値を渡す関数と、アドレスを渡す関数があることを理解させる。 	a・b	
	前期期末 考査					
10	プログラミング技法	6 標準化とテスト技法		<ul style="list-style-type: none"> ・標準化の必要性を理解させ、プログラム処理の流れを分析するために、状態遷移図などの図表が使用されることを理解させる。 ・開発効率について理解させ、構造化プログラミングの必要性和モジュール化について理解させる。 ・構造化プログラムの基本構造を理解させる。 	b	提出物の分析定期テスト
11	応用的プログラム	5 構造体とデータ構造		<ul style="list-style-type: none"> ・構造体の概念を理解させ、その宣言や初期化の方法を理解させるとともに、構造体の参照や構造体を利用した演算ができるようにする。 ・具体的な利用例を示して連結リストの概念を理解させる。 ・二分探索の原理を理解させ、双方向リストの違いを認識させる。 	b・c	
	後期中間 考査					

12	応用的プログラム	9 ファイル処理		<ul style="list-style-type: none"> ・ファイルの構造およびファイル処理の概念を理解させる。 ・シーケンシャルファイルとランダムファイルについて、ファイルのオープンとクローズ、書込み方法、追加更新方法などを理解させる。 	a	提出物の分析定期テスト
1	入出力設計	18 ネットワークの利用		<ul style="list-style-type: none"> ・クライアントとサーバの役割など基本的なLANに関する知識を確認させる。 ・階層的なファイル管理システムについて説明し、ファイルやディレクトリの性質を理解させる。 ・ネットワーク用のプログラムを作成し、クライアントとサーバ間でのデータ送受信の仕組みについて理解させる。 	a	
2		制御用 IC の活用		<ul style="list-style-type: none"> ・ftpについて説明し、実習により理解を深める。 ・制御用ICの構成を理解させ、制御用プログラムの開発手順や入出力ポートの設定について理解させる。 	a・b・c	
3		グラフィック		<ul style="list-style-type: none"> ・制御用プログラムを作成し、実際に制御を行うことにより、C言語による制御技術を理解させる。 ・ウインドウ画面の構成およびフレームウインドウとビューウインドウの関係について理解させる。 ・ビューウインドウにグラフィックを描画させるときの手続きを理解させ、基本的なプログラムの記述のしかたを理解させる。 ・点の描画、四角やだ円などの基本的な図形を描くための方法と関数を理解させ、プログラムによる図形の組合せや塗りつぶしなどができるようにする。 ・関数のグラフや幾何図形を描画するプログラムの考え方を理解させる。 ・静止画像をオブジェクトとしてプログラムで利用するときの手順について理解させる。 	a・c	
学年末考査						

7 課題・提出物等

- ・ 6月・11月の計算技術検定、6月・1月の情報技術検定、7月・12月のパソコン利用技術検定の受検をすることができます。
- ・ 単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

現代は多くの情報がコンピュータによって処理されています。技術の高度化が進み、私たちの生活に欠かせないものとなっています。そして社会人として活躍していくために、プログラミングやネットワークの活用能力を高めていきましょう。

(担当：山岸 和重)

教科（科目）	工業（ハードウェア技術）	単位数	4 単位	学年（コース）	3 年次（環境工学系列）
使用教科書	実教出版『ハードウェア技術』				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活で必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>コンピュータのハードウェアに関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。コンピュータを効率よく動作させるプログラムについて学び、作成する技術を身に付ける。</p>

3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの動作に関する様々な電子機器について学びます。 ・コンピュータが動作する仕組みについて学びます。 ・コンピュータを動作させているプログラムの仕組みを作成について学びます。
--

4 評価規準と評価方法

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>コンピュータのハードウェアについて機能や構成及び制御技術を工業生産や社会生活と関連づけて理解するとともに、コンピュータのハードウェアに関わる様々な状況に対応できる技術を身につけている。</p>	<p>コンピュータの構成やコンピュータによる制御などに着目して、コンピュータのハードウェアに関する課題を見だし、単に生産性や効率だけを優先するのではなく、科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身につけている。</p>	<p>コンピュータのハードウェアの開発を目指し、コンピュータのハードウェアの機能や構成及び制御技術について意欲的に取り組んでいる。また、情報技術の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。</p>

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。		
A 知識・技術	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度

<p>評価の観点</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査の分析 ・ 小テストの分析 ・ 授業中の知識・技能の確認 ・ 提出物の内容の確認 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査の分析 ・ 小テストの分析 ・ 授業中の創意工夫の観察 ・ 提出物の内容の確認 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の取り組みの観察 ・ 提出物の提出状況 ・ 課題に対する協働的態度の観察 <p>などから、評価します。</p>
<p>評価方法</p>	<p>以上の観点について総合的に判断し、各観点を 「A：十分満足できる」「B：おおむね満足できる」「C：努力を要する」 で評価します。</p>		

6 学習計画

月	単元名	授業時 数と領 域	教材名	学習活動 (指導内容)	評価の 観点	評価方法
4	1章 コンピュータの 電子回路 1節 データの表現 2節 論理回路の基 礎 3節 電子素子とデ ィジタル回路	12	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・プリント ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・数の変換および2進数の演算の基 本的な概念とそれぞれの数の変換に ついて理解し, その方法を適切に身 につける。 ・数値データおよび文字データの表 現法を理解し, その方法を身につけ る。 ・基本的な論理素子の真理値表, 論 理式, 図記号を理解する。 ・基本的な電子素子の性質やディジ タル回路の特性を理解する。 ・ブール代数やカルノー図を活用し た論理回路の単純化を理解する。 ・目的とする組合せ回路をより簡単 な論理回路で構成できる。 	A B C	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・小テスト ・実技テスト ・授業態度 ・提出物
	5	4節 論理式の簡単 化 5節 論理回路の設 計 6節 演算回路 2章 コンピュータに よる構成 1節 コンピュータ の種類と基本機能				
6		2節 コンピュータ の動作と中央処理装置 3節 主記憶装置 4節 補助記憶装置 5節 入出力装置"				
	7	6節 パーソナルコ ンピュータの構成と管 理 3章 コンピュータに よる制御 1節 コンピュータ による制御の概要				
8		2節 インタフェー ス 3節 センサとアク チュエータ 4節 割込み処理				

9	4章 制御プログラム 1節 プログラム言語	15	<p>原理を理解し、コンピュータ制御システムを設計する技術を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センサ・アクチュエータのしくみや働きを理解する。 ・割込処理の概要を理解する。 ・プログラム言語の分類とそれぞれの特徴、インタプリタとコンパイラの特徴、流れ図を理解する。 ・アセンブリ言語による演算の仕組みを理解する。 ・Cを用いて選択、繰返し、配列、探索等処理のアルゴリズムを理解する。 ・マイクロコンピュータによって制御される組み込みシステムの構成を理解する。 ・製品の用途や条件に応じたハードウェアの設計、開発について理解する。 		
10	2節 アセンブリ言語によるプログラミング	15			
11	3節 Cによるプログラム 4節 制御プログラム	15			
12	5章 マイクロコンピュータの組み込み技術	12			
1	1節 組み込みシステム	11			
2	2節 組み込みハードウェア 3節 組み込みソフトウェア	11			
3	ウェア	4			

計 140 時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 日頃の学習の理解度を量るために小テストを実施しますので、全ての小テストに解答が必要です。
- ・ 定期的にノート提出を求めます。
- ・ 授業内容に実験などを含みます。別個に報告書を作成する場合があります。

8 担当者からの一言

コンピュータが動作する仕組みをこの電子機器について学び知識を習得するとともに、自分たちでプログラムを作成し動作させることでプログラムについての知識と技能を習得します。

(担当：山田友貴)

教科（科目）	工業（測量）	単位数	3単位	学年（コース）	2年次（環境工学系列）
使用教科書	実教出版『測量』				
副教材等	関数電卓、実習服上下、帽子、測量器械（セオドライト等）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活で必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切に指し導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

我々の暮らしにおいて、測量技術が担う役割を主体的に理解するとともに、実践的・体験的な学習活動をととして協働的な態度と課題解決に向かう資質と能力を育てる。

3 指導の重点

- ① 計算問題が多数あることから、基本的な数値、角度および単位の取り扱い方の習得を重視します。
- ② 測量器具の取り扱い・操作について、安全に配慮しながら、関連する技術の習得に取り組みます。
- ③ 更にこれらに対して主体的かつ協働的に取り組む態度を育てます。

4 評価規準と評価方法

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
測量に関する学習や実習をととして、基本的な概念や知識を身につけ、安全に観測する方法を理解、実施できる。	測量に関する知識・技術を活用し、適切な判断のもと、諸問題を検証し改善案を創意工夫しながら考え表現できる。	測量全般に対する主体的な関心や探究心を持ち、他者と協働的に諸問題の解決に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	A 知識・技術	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査の分析 ・ 小テストの分析 ・ 授業中の知識・技能の確認 ・ 提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査の分析 ・ 小テストの分析 ・ 授業中の創意工夫の観察 ・ 提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の取り組みの観察 ・ 提出物の提出状況 ・ 課題に対する協働的態度の観察 などから、評価します。
評価方法	以上の観点について総合的に判断し、各観点を 「A：十分満足できる」「B：おおむね満足できる」「C：努力を要する」 で評価します。		

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動（指導内容）	評価の 観点	評価方法
4	「測量を学ぶにあたって」 第1章「距離測量」	9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書 ・ プリント ・ 小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 測量とは何かを考える。 ・ 器械、器具を用いた直接実習を踏まえながら、測定原理や補正方法を理解する。 ・ 小テストによる学習の理解度を確認する。 	A B C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期テスト ・ 小テスト ・ 実技テスト ・ 授業態度 ・ 提出物
5	第2章「角測量」	12				
6	第3章 「トラバース測量」 【定期考査】 第4章「細部測量」	10		<ul style="list-style-type: none"> ・ 角度の計算を十分に理解し、誤差の算出、調整方法を理解する。 ・ 小テストによる学習の理解度を確認する。 	A B C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期テスト ・ 小テスト ・ 実技テスト ・ 授業態度 ・ 提出物
7	第5章「水準測量」 第6章「測量の誤差」	9		<ul style="list-style-type: none"> ・ 器械、器具を用いて、構造や検査・調整方法を理解する。野帳の記入方法を理解する。 ・ 誤差の種類と発生原因を考え除去もしくは軽減する方法を考える。 ・ 小テストによる学習の理解度を確認する。 	A B C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期テスト ・ 小テスト ・ 実技テスト ・ 授業態度 ・ 提出物
8		1				

9	第7章 「面積および体積」 【定期考査】 第8章「基準点測量」	10		<ul style="list-style-type: none"> ・土地の面積、土量と結びつけて数学的原理に基づき理解する。 ・測量士補試験過去問題と関連付けて体系的に測量の内業、外業を理解する。 ・小テストによる学習の理解度を確認する。 	A B C	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・小テスト ・実技テスト ・授業態度 ・提出物
10		10				
11	第9章「地形測量」 第10章「写真測量」 【定期考査】	12		<ul style="list-style-type: none"> ・地形図および地図投影法について、その特徴を考える。 ・実際に撮影された空中写真や測量士補試験過去問題と関連付けて基礎的な理解を深める。 ・小テストによる学習の理解度を確認する。 	A B C	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・小テスト ・実技テスト ・授業態度 ・提出物
12		9				
1	第11章「路線測量」 第12章「河川測量」 【定期考査】	10		<ul style="list-style-type: none"> ・各種用語や記号について学習し測量士補試験過去問題と関連付けて基礎的な理解を深める。 ・小テストによる学習の理解度を確認する。 	A B C	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・小テスト ・実技テスト ・授業態度 ・提出物
2		10				
3	第13章 「測量技術の応用と自然災害」	3		<ul style="list-style-type: none"> ・測量技術が応用される分野を知り、それらが我々の生活をどのように支えるか考える。 	A B C	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・提出物

計 105 時間 (50分授業)

6 課題・提出物等

- ・ 日頃の学習の理解度を量るために小テストを実施しますので、全ての小テストに解答が必要です。
- ・ 定期的にノート提出を求めます。
- ・ 授業内容は実技を含みます。実技内容終了後は原則的に報告書の提出を求めます。

7 担当者からの一言

学習内容には「数学Ⅰ」の内容を含むことから、これまでの学習を振り返り、より理解を深めていくことが大切です。また「測量」は実社会において、我々の生活と密接につながっています。身近な実例を踏まえながら学習を進めていきますので、ぜひ主体的に学習に取り組みましょう。

(担当：茂野知弘)

教科(科目)	商業(ビジネス基礎)	単位数	3単位	学年(系列)	2年次(ビジネス・情報系列)
教科書	ビジネス基礎(東京法令出版株式会社)				
副教材等	全商ビジネス計算実務検定模擬試験問題集3級(実教出版株式会社)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

<p>グラデュエーション・ポリシー</p>	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
<p>カリキュラム・ポリシー</p>	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。</p> <p>(2) ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として、科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。</p> <p>(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ共同に取り組む態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>本校生徒の学習に対する取り組み姿勢および現状、就職を希望する生徒も多いことを踏まえ、</p> <p>① ビジネスおよび企業活動、組織の一員として必要な知識についての理解と習得を目指します。</p> <p>② ビジネス基礎に対する興味・関心ならびに意欲・継続性を持たせる観点から、</p> <p>1) 課題への取り組みと提出</p> <p>2) 地域社会との連携を通じて、ビジネスおよび地域社会への理解を深めることを目指します。</p> <p>③ 自己肯定感・達成感を育むため、資格取得にも積極的に取り組みます。</p> <p>④ 実務に即した内容を学習するために、社会的事象についても取り上げ、日頃の学習とのリンクを図ります。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

<p>知識・技能</p> <p>ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解している。また、ビジネスに関連する技術を身につけている。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身につけている。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。</p>
--	---	---

5 評価方5法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト、検定試験の分析 ・授業中の発言、発表やディスカッションへの取り組みの観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト、検定試験の分析 ・授業中の発言、発表やディスカッションへの取り組みの観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト、検定試験の分析 ・授業中の発言、発表やディスカッションへの取り組みの観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価方法
4	第1章 商業の学習と ビジネス	6 h	・教科書 ・問題集	・商業の学習についてのガイダンスを行い、学習の動機付けを図る学習活動を行う。	提出物の分析
5	第2章 ビジネスに対する心構え	10 h	・教科書 ・問題集	・ビジネスを主体的、合理的に行う上での望ましい信頼関係を構築することの意義および職業人に求められる信頼関係について学習する。	観察の分析 提出物の分析
6 7	第3章 経済と流通	25 h	・教科書 ・問題集	・企業活動におけるコミュニケーションの重要性、情報を入力することの重要性を学習する。 ・流通の役割や売買業者のビジネスについて学習する。	ペーパーテスト(定期考査)・検定試験の分析 観察の分析 提出物の分析
8 9 10	第4章 企業活動	20 h	・教科書 ・問題集	・企業の形態と経営組織の種類と特徴、企業活動の進め方、ビジネスにおけるマーケティングの重要性とビジネスの基本的な流れについて学習する。	ペーパーテスト(定期考査)の分析 観察の分析 提出物の分析
11	第5章 身近な地域の ビジネス	10 h	・教科書 ・問題集	・身近な地域について知るとともに、地域が抱える課題を扱い、地域の発展に及ぼす影響等を考察する学習を行う。	観察の分析 提出物の分析
12	第6章 取引とビジネス計算	34 h	・教科書 ・問題集	・売買契約を締結する際の条件や締結と履行の流れについて学習する。	ペーパーテスト(定期考査)・検定試験の分析 観察の分析 提出物の分析
1 2 3					

7 課題・提出物等

- ・一定期間ごとに確認テスト等を実施し、理解度の測定を行います。
- ・定期考査前、検定試験前に週末課題等の自宅学習を課します。

8 担当者からの一言

商業の基礎科目であるビジネス基礎の科目を通して、商業科目に対する理解を深め、興味・関心を持って取り組みましょう。また、資格取得にも積極的に取り組み、自己研鑽に努めてください。

教科（科目）	商業 （ビジネス・コミュニケーション）	単位数	2単位	学年（系列）	2年次（ビジネス・情報系列）
教科書	ビジネス・コミュニケーション（実教出版株式会社）				
副教材等	全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集1級（実教出版株式会社）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるコミュニケーションに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) ビジネスにおけるコミュニケーションについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) ビジネスを円滑に展開する力の向上を目指して、自ら学び、ビジネスにおいてコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

3 指導の重点

<p>本校生徒の進路は多岐にわたっており、職業人として求められる倫理や、経済社会の一員としての望ましい心構え、ビジネスの諸活動に適切に対応できる能力と態度について学びます。社会人として必要なマナーやコミュニケーションに関する基礎的な知識・技能を、しっかりと身につけることを目的としています。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>実際のビジネスにおけるコミュニケーションと関連付け、ビジネスの様々な場面で役に立つコミュニケーションに関する知識と技術を身に付けている。</p>	<p>ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見するとともに、コミュニケーションに関する理論、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養っている。</p>	<p>自らコミュニケーションについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的にビジネスにおいて日本語や外国語を用いてコミュニケーションを図る態度を養っている。</p>

5 評価規準と評価方法

	知識・技術 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	実際のビジネスにおけるコミュニケーションと関連付け、ビジネスの様々な場面で役に立つコミュニケーションに関する知識と技術を身に付けている。	ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見するとともに、コミュニケーションに関する理論、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養っている。	自らコミュニケーションについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的にビジネスにおいて日本語や外国語を用いてコミュニケーションを図る態度を養っている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・観察、実習、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表やディスカッションへの取り組みの観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表やディスカッションへの取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	1 編 1 章 企業の組織と人間関係	6 h	教科書	1. 企業の組織と意思決定 2. 業務の進行方法 3. 仕事に対する心がまえ 4. 人的ネットワークの構築	a b c	ノート(記述の点検) 行動観察
5	2 編 2 章 応対に関するビジネスマナー	8 h	教科書	1. 挨拶 2. 身だしなみ・表情・身のこなし 3. 言葉遣い 4. 名刺交換と紹介 5. 訪問・来客の応対 6. 電話の応対 7. 席次のマナー	a b c	ノート(記述の点検) ワークシート(記述の点検) ロールプレイング
6	3 章 交際に関するビジネスマナー 4 章 接客に関するビジネスマナー	8 h	教科書	1. 交際のマナー 2. 食事のマナー 1. 接客 2. ホスピタリティの概念と重要性	a b c	ノート(記述の点検) ワークシート(記述の点検) ロールプレイング グループワーク
7	3 編 5 章 コミュニケーションの役割と思考方法	6 h	教科書	1. コミュニケーションの役割と種類 2. ビジネスコミュニケーションの基本 3. ビジネスにおける思考方法 4. ディベート	a b c	ノート(記述の点検) ワークシート(記述の点検) グループワーク
8 9	6 章 ビジネスにおけるコミュニケーション 前期末考査	8 h	教科書	1. ディスカッション 2. プレゼンテーション 3. 交渉 4. 苦情対応 5. 商品説明とワークショップ 6. ソーシャルメディアを活用した情報発信	a b c	ノート(記述の点検) ワークシート(記述の点検) ペーパーテストの分析
10	7 章 コミュニケー	6 h	教科書	1. 会議	a	ノート(記述の点検)

	ションとビジネススキル			2. 文書におけるコミュニケーション	b c	ワークシート（記述の点検）
11	4編 8章 企業活動のグローバル化	8h	教科書	1. 国際化の進展とビジネス 2. 国際ビジネスにおけるコミュニケーション	a b c	ノート（記述の点検） ワークシート（記述の点検）
12	9章 ビジネスの会話	6h	教科書	1. 国内での接客 2. 入国 3. 商談と会議 4. 帰国	a b c	ノート（記述の点検） ワークシート（記述の点検） ペーパーテストの分析
1	10章 ビジネス文書と電子メール	6h	教科書	1. ビジネスレター Business Letters 2. 電子メールの利用 Using E-mail 3. 貿易取引 Trade Transaction 4. ビジネス文書 Business correspondence	a b c	ノート（記述の点検） ワークシート（記述の点検） ペーパーテストの分析
2 3	11章 ビジネスにおけるプレゼンテーション	8h	教科書	1. プレゼンテーションの構成 Structure of Presentation 2. プレゼンテーションの作成 Making a Presentation	a b c	ノート（記述の点検） ワークシート（記述の点検） ペーパーテストの分析

計 70 時間（50 分授業）

6 課題・提出物等

課題やレポートの提出があります。
単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
長期休業中の課題は別途指示します。

7 担当者からの一言

ノートは板書事項だけでなく、授業中の話題なども簡単にメモするとよく、特に授業中に詳しく説明した箇所はノートの取り方を工夫してください。

配布されたプリントなどは活用できるよう整理して、ストックしておくこと（学習ノート、ワークブックなどに貼付したりファイルを使用する）が大切です。

教科書を中心に基礎的な知識・技術を学習するので、教科書を十分利用しましょう。

教科(科目)	商業（マーケティング）	単位数	4単位	学年(系列)	3学年(ビジネス・情報系列)
教科書	マーケティング 新訂版 (実教出版)	副教材			
履修条件	2年次「ビジネス基礎」を履修				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

3 指導の重点

<p>マーケティングに関する知識と技術を習得させ、マーケティングの意義や役割について理解させるとともに、マーケティング活動を計画的・合理的に行う能力と態度を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・激しく変化する現代市場においてマーケティングが果たす役割とその意義を理解させる。 ・マーケティングに関する体系的な知識と技術を習得させる。 ・マーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を育てる。 ・マーケティングに関連する職業への認識を深めさせ、進路選択の幅を広げる。諸表の意味を理解させ、そこから経営分析をする
--	--

4 指導計画

学期	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前期	現代市場とマーケティング	教科書 問題集 プリント	現代市場におけるマーケティングの意義や役割及びマーケティングの一連の流れについて理解させる。	15	授業態度 出席状況 レポート 課題提出 定期考査 販売実習
	市場調査		情報を収集・分析して報告書を作成し、またプレゼンテーションを行うための基礎的な知識と技術を習得させる。	25	
	消費者の購買行動		消費者の購買行動に関する基礎的な知識を習得させる。	25	

後 期	商品計画	教科書 問題集 プリント	適切な商品計画を立案し実施するための基礎的な知識と技術を習得させる。	25	授業態度 出席状況 レポート 課題提出 定期考査 販売実習
	価格の決定		市場の動向に応じた価格の決定に関する基礎的な知識を習得させる。	15	
	販売経路と 販売促進		適切な販売経路を設定し、効果的な販売促進を行う能力と態度を育てる。	35	

計 140 時間 (50 分授業)

5 評価規準

- ・ 関心・意欲・態度…マーケティングについて関心をもち、マーケティング活動を計画的、合理的に行うことを目指して主体的に取り組もうとするとともに、マーケティング活動を行う実践的な態度を身につけている。
- ・ 思考・判断・表現…適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。
- ・ 技能……………マーケティング活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
- ・ 知識・理解……………基礎的・基本的な知識を身につけ、マーケティングの意義や役割について理解している。

6 備考

教科(科目)	商業（観光ビジネス）	単位数	4単位	学年 (系列)	3年次(ビジネス・情報系列)
教科書	観光ビジネス（実教出版）	副教材	なし		

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、観光ビジネスの展開に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 観光ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観光ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源をベースに情報発信や有効活用方法について理解させる。 ・課題と向き合い活動している企業や団体と連携し、「まちづくり」の手法を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>企業における事例など実際の観光ビジネスと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ観光ビジネスに関する知識と技術を身に付けている。</p>	<p>唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、観光ビジネスをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、観光ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、顧客についての理解、市場の動向、観光ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。</p>	<p>ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら観光ビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、観光資源の効果的な活用、マーケティング、観光の振興策の考案と実施などに責任をもって取り組んでいる。</p>

5 評価規準と評価方法

	知識・技術 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	企業における事例など実際の観光ビジネスと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ観光ビジネスに関する知識と技術を身に付けている。	唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、観光ビジネスをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、観光ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、顧客についての理解、市場の動向、観光ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら観光ビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、観光資源の効果的な活用、マーケティング、観光の振興策の考案と実施などに責任をもって取り組んでいる。
評価方法	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、単元ごとの確認テスト、提出物とその内容などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、単元ごとの確認テスト、提出物とグループワークによる発表、レポート等その内容などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、検定試験に向けた取り組みの態度、定期考査の結果、単元ごとの確認テスト、提出物とその内容などから、評価します。

6 指導計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	Introduction なぜ観光ビジネスを学ぶのか 第1章 観光ビジネスの概要 1. 観光ビジネスの担い手と特徴 2. 観光ビジネスの動向	12h	教科書	観光ビジネスを学ぶ意義を理解する。 観光とビジネスとの関係及び観光ビジネスの概要について学ぶ。 観光ビジネスの意義と課題について理解する	a b c	授業の取り組み 授業時の課題 課題の提出 レポート
5	3. 日本の観光政策 4. 観光ビジネスと地域 第2章 観光ビジネスの主な産業 1. 旅行業 2. 宿泊業	16h	教科書	観光とビジネスとの関係及び観光ビジネスについて自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む。 観光とビジネスとの関係及び観光ビジネスの概要について学ぶ。 観光ビジネスの意義と課題について理解する。 観光とビジネスとの関係及び観光ビジネスについて自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む。	a b c	授業の取り組み 授業時の課題 定期考査 課題の提出 レポート
6 7	第2章 観光ビジネスの主な産業 3. 旅客輸送業 4. 娯楽業 5. その他の産業 第3章 観光ビジネスのマーケティング 1. 観光ビジネスの顧客	32h	教科書	観光とビジネスとの関係及び観光ビジネスの概要について学ぶ。 観光ビジネスの意義と課題について理解する。 観光とビジネスとの関係及び観光ビジネスについて自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む。 観光ビジネスにおけるマーケティングについて学ぶ。 観光ビジネスにおけるマーケティングに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光ビジネスにおけるマーケティング計画を立案して実施し、評価・改善する。 観光ビジネスにおけるマーケティングについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む	a b c	授業の取り組み 授業時の課題 課題の提出 レポート

8 9	第3章 観光ビジネスのマーケティング 2. 観光ビジネスにおけるマーケティングの意義 3. 観光ビジネスのマーケティング戦略 実習 もしあなたが地域の観光マーケティング戦略の立案担当になったら	20h	教科書	観光ビジネスにおけるマーケティングについて学ぶ。 観光ビジネスにおけるマーケティングに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光ビジネスにおけるマーケティング計画を立案して実施し、評価・改善する。 観光ビジネスにおけるマーケティングについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。 実習に主体的かつ協働的に取り組む。	a b c	授業の取り組み 授業時の課題 定期考査 レポート
10 11	第4章 観光資源の発見と活用 1. 観光資源とは何か 2. 観光資源の保護と保全 第5章 地方自治体の観光政策 1. 地方自治体の観光政策の概要 2. 地方自治体の観光政策の実施内容	28h	教科書	観光資源と観光政策について学ぶ。 観光資源の活用に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光資源の活用に関する計画を立案して実施し、評価・改善する。 観光資源と観光政策について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。 地方自治体の観光政策について学ぶ。 地方自治体の観光政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光政策を立案して実施し、評価・改善する。 地方自治体の観光政策について自ら学び、観光による地方創生や地域の活性化などを踏まえ、持続可能な観光政策に主体的かつ協働的に取り組む。	a b c	授業の取り組み 授業時の課題 定期考査 レポート
12 1	第6章 観光ビジネスと観光まちづくり 1. 観光まちづくりとは何か 2. 観光まちづくりと地域の活性化のプロセス 実習 地域の活性化と観光まちづくりの実践	32h	教科書	観光による地域の活性化について学ぶ。 観光による地域の活性化に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光による地域の活性化に関する計画を立案して実施し、評価・改善する。 観光による地域活性化について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む。 実習に主体的かつ協働的に取り組む。	a b c	冬期休業課題 授業の取り組み 授業時の課題 定期考査 レポート

計 140 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

実習を通して課題やレポートの提出があります。
長期休業中の課題は別途指示します。

8 備考

発表やフィールドワークなどを行います。積極的に地域の人と関わる人が多いです。

教科(科目)	商業 (ビジネス法規)	単位数	2単位	学年(系列)	3年次(ビジネス・情報系列)
教科書	実教出版『ビジネス法規』				
副教材等	東京法令出版『ビジネス法規便覧』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、法規に基づくビジネスの展開に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) ビジネスに関する法規について実務に即して体系的・系統的に理解できるようにする。
- (2) 法的側面からビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として法的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、法規に基づくビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 指導の重点

- (1) 企業における事例など実際のビジネスと関連付け、ビジネスの様々な場面で役に立つ法規に関する知識を身につけるようにする。
- (2) ビジネスに関する法規をはじめとした様々な知識を活用し、法的側面からビジネスに関する課題を発見するとともに、ビジネスが社会に及ぼす影響を踏まえ、法的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養う。
- (3) 他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、法規に基づくビジネスに責任をもって取り組む態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・ビジネスに関する法規について実務に即して体系的・系統的に理解することができる。</p> <p>・社会生活において必要な法律知識を身につけている。</p>	<p>法的側面からビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として法的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身につけている。</p>	<p>ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、法規に基づくビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけようとしている。</p>

	知識・技術 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスに関する法規について実務に即して体系的・系統的に理解することができる。 ・社会生活において必要な法律知識を身につけている。 	法的側面からビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として法的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身につけている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、法規に基づくビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、提出物の内容などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、授業の取り組みの様子、提出物の内容などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、学習の取り組みの様子、提出物の内容、定期考査や検定試験の振り返りなどから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	I 法の概要 1 ビジネスにおける法の役割 2 法の体系と解釈・適用	8	教科書 問題集	・ビジネスを適切に行うための法の役割について理解する	a b c	授業の取り組み 授業時の課題 課題の提出
5 6 7	II 権利・義務と財産権 1 権利・義務とその主体 2 物と物権・債権 3 知的財産権	22	教科書 問題集	・権利・義務の概要、権利行使の制限及び物権、債権など財産権の概要について、法規と関連付けて理解する。	a b c	授業の取り組み 授業時の課題 定期考査 課題の提出
8 9	III 財産権の変動 1 契約 2 物の売買 3 物の貸借 4 不法行為 5 時効	10	教科書 問題集	・契約全般について、また雇用契約、売買契約、不動産賃貸契約など企業活動における契約について、法規と関連付けて理解する。 ・契約当事者の不法行為や時効の各関係について、企業活動における具体的な事例を用いて、法規と関係付けて理解する。	a b c	授業の取り組み 授業時の課題 課題の提出
10 11	V 企業責任と法規 1 法令遵守と説明責任 2 労働者の保護 3 消費者の保護	16	教科書 問題集	・法令遵守（コンプライアンス）と説明責任（アカウンタビリティ）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）の意義と重要性について理解する。 ・労働時間、休日、休暇、就業規則及び労働災害に関する規定と考え方を身につける。 ・消費者基本法、消費者契約法、不当景品類及び不当表示防止法、特定商取引法など消費者の保護に関する法規の概要について理解する。 ・個人情報保護法、不正アクセス禁止法、不正競争防止法など企業が扱う情報の保護に関係する法規の概要について理解する。	a b c	授業の取り組み 授業時の課題 課題の提出
12 1	VII 税と法規 1 税の種類と法人の納税義務 2 法人税の申告と納付 3 消費税の申告と納付	14	教科書 問題集	・国税、地方税、直接税、間接税など税の種類と分類、法人税、法人住民税など法人に対する税の概要について理解する。 ・消費税の仕組み、課税事業者と免税事業者の違い、課税対象、税額計算の考え方、消費税の申告・納税の仕組み及び申告書の作成など手続の概要について法規と関連付けて理解する。	a b c	授業の取り組み 授業時の課題 定期考査 課題の提出

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

授業時の課題 レポート 等

8 担当者からの一言

社会生活を送るうえで必要とされる基礎的・基本的な法規を学びます。「法」と聞くと難しく感じるかもしれませんが、まずは自分の生活する社会に興味を持ってください。

教科（科目）	簿記	単位数	4単位	学年(系列)	2年次（ビジネス・情報系列）
教科書	新簿記（実教出版株式会社）				
副教材等	最新段階式簿記検定問題集全商2級 最新段階式簿記検定問題集全商3級				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。</p> <p>(3)企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

3 指導の重点

<p>進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから</p> <p>① 複式簿記を十分に理解し、簿記の5要素の確実な習得を目指します。仕訳を的確に理解したうえで、日々の取引を正確に行えるようになることを目指す。</p> <p>② 財務諸表の作成を正確に行えるようにし、積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てる。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
簿記に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身についている。	簿記をはじめとしたさまざまな知識・技術などを活用し、取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と実務に適用することにもなる課題を見いだすとともに、会計情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、簿記に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠にもとづいて工夫してよりよく課題に対応する力が身についている。	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指してみずから簿記について学ぶ態度および組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、記帳・決算など適正な取引の記録と財務諸表の作成に責任をもって取り組む態度が身についている。

5 評価方法

評価は次の観点から行います。		
知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c

評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・観察、実習、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表やディスカッションへの取り組みの観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表やディスカッションへの取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
------	---	--	--

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価方法
4 5	第1編簿記の基礎 第1章簿記の基礎	4 h	教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> 簿記の意味・目的を明らかにして、記帳の重要性を理解させる。 簿記の種類、前提条件など簿記のアウトラインを理解させて、簿記の学習の心がまえを養う。 	ワークシート(記述の点検)
	第2章資産・負債・純資産と貸借対照表	6 h	教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> 資産・負債・純資産(資本)の意味を明らかにし、これらの相互関係を理解させる。 貸借対照表の意味・形式などを明らかにし、その作り方に習熟させる。 純損益を計算する方法(財産法)を理解させる。 各種の等式を理解させる。 	ワークシート(記述の点検)
	第3章収益・費用と損益計算書	4 h		<ul style="list-style-type: none"> 収益・費用の意味を明らかにし、純損益を計算する方法(損益法)を理解させる。 損益計算書の意味・形式などを明らかにし、その作り方に習熟させる。 等式を覚えさせる。 	
	第4章取引と勘定	5 h		<ul style="list-style-type: none"> 取引により、資産・負債・資本が増減することを理解させる。 勘定・勘定科目・勘定口座などの意味を理解させる。 勘定口座の形式を明らかにする。 勘定の記入法に習熟させる。 取引を分解して、勘定に記入する方法を理解・習熟させる。 貸借平均の原理を理解させる。 	
	第5章仕訳と転記	3 h		<ul style="list-style-type: none"> 仕訳の意味を明らかにし、各種の取引の仕訳に習熟させる。 仕訳を勘定口座に転記する方法を理解させ、習熟をはかる。 	
	第6章仕訳帳と総勘定元帳	5 h		<ul style="list-style-type: none"> 仕訳帳の形式・記入法を理解させ、記帳に習熟させる。 総勘定元帳の意味を明らかにし、仕訳帳からの転記のしかたに習熟させる。 	
	第7章試算表	3 h		<ul style="list-style-type: none"> 試算表の役割・種類・それぞれの特徴などを明らかにし、その作り方に習熟させる。 	
	第8章精算表			<ul style="list-style-type: none"> 精算表の役割を明らかにして、その作 	

6	第9章決算	4 h 10 h		<ul style="list-style-type: none"> り方に習熟させる。 ・精算表から複式簿記のしくみを理解させる。 ・精算表の役割を明らかにして、その作り方に習熟させる。 ・精算表から複式簿記のしくみを理解させる。 	定期テスト
	第2編 取引の記帳(その1) 第10章 現金・預金などの取引	7 h	教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・現金に関する記帳方法と現金出納帳の記帳方法について理解させる。 ・現金過不足の処理法を理解させる。 ・当座預金勘定の記帳方法と当座預金出納帳の記帳方法について理解させる。 ・小口現金のシステムを理解させ、その記帳方法と記帳の習熟をはかる。 ・分記法の復習から3分法による商品売買の記帳方法を理解させる。 ・仕入帳・売上帳・商品有高帳の役割と記帳方法を明らかにし、その記帳の方法に習熟させる。 ・商品有高帳については、先入先出法と移動平均法を理解させる。 ・売上原価を計算し、商品売買損益を計算する方法について明らかにする。 	発表の様子(行動の確認) ノート(記述の点検)
7	第11章 商品売買の取引	7 h	教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・小口現金のシステムを理解させ、その記帳方法と記帳の習熟をはかる。 ・分記法の復習から3分法による商品売買の記帳方法を理解させる。 ・仕入帳・売上帳・商品有高帳の役割と記帳方法を明らかにし、その記帳の方法に習熟させる。 ・商品有高帳については、先入先出法と移動平均法を理解させる。 ・売上原価を計算し、商品売買損益を計算する方法について明らかにする。 	ワークシート(記述の点検)
	第12章 掛け取引	3 h		<ul style="list-style-type: none"> ・掛け取引の意味を明らかにし、売掛金勘定と買掛金勘定の記帳方法を理解させる。 ・人名勘定の意味を明らかにする。 ・売掛金元帳と買掛金元帳の役割を明らかにし、その記帳に習熟させる。 	
9	第13章 手形の取引	5 h		<ul style="list-style-type: none"> ・手形の種類を明らかにする。 ・約束手形のしくみと記帳方法を理解させ、各種取引の記帳方法について習熟させる。 ・手形記入帳の役割と記帳方法を理解させる。 	定期テスト
	第14章 その他の債権・債務の取引	2 h		<ul style="list-style-type: none"> ・売掛金・買掛金・受取手形・支払手形以外の各種の債権・債務について、その記帳方法や違いなどを理解させる。 ・各種の債権・債務の記帳に習熟させる。 	
	第15章 固定資産の取引	2 h		<ul style="list-style-type: none"> ・固定資産の意味と種類を明らかにし、固定資産に関する記帳方法を理解させる。 ・固定資産台帳の役割を明らかにする。 	
	第16章 個人企業の資本の取引	4 h		<ul style="list-style-type: none"> ・個人企業における資本の元入れ、引き出しなどの記帳方法を理解させる。 ・引出金勘定を用いた場合の記帳方法 	

	第17章 販売費と一般管理費、税金の取引	2 h		<ul style="list-style-type: none"> ・理解させる。 ・所得税と住民税の納付は資本の引き出しにあたることを説明し、その記帳方法を理解させる。 ・販売費及び一般管理費の意味と記帳方法を理解させる。 ・個人企業に課せられる税金と消費税の記帳方法を理解させる。 	
10	第3編 決算 (その1) 第18章 決算整理 (その1) 第19章 8桁精算表 第20章 帳簿決算	8 h 4 h 4 h	教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・決算整理の意味とその必要性を理解させる。 ・3分法による商品売買に関する勘定の整理、貸し倒れの見積もり、減価償却の処理法を理解させ、その記帳に習熟させる。 ・8桁精算表の意味を明らかにし、その作成に習熟させる。 ・帳簿決算の意味とその必要性を理解させる。 ・総勘定元帳の締め切りと、繰越試算表・貸借対照表・損益計算書の作成に習熟させる。 	ワークシート (記述の点検)
11	第4編 会計帳簿と帳簿組織 第21章 会計帳簿 第22章 伝票の利用 第23章 会計ソフトウェアの活用	2 h 4 h 7 h	教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・いままで学んだ帳簿の種類をあげ、分類させてみる。 ・分課制度と帳簿組織との関連について理解をはかる。 ・証ひょう・伝票の意味とその役割を明らかにする。 ・3伝票を用いた場合の起票や集計方法のルールを理解させ習熟をはかる。 ・取引の記帳に会計ソフトウェアを活用することによる利点を理解させる。 ・会計ソフトウェアと伝票・証ひょうとの関わりを明らかにし、伝票・証ひょうから会計ソフトウェアに取引を入力する方法に習熟させる。 	ワークシート (記述の点検) ノート (記述の点検) 定期テスト
12	第5編 取引の記帳 (その2) 第24章 特殊な手形の取引	5 h	教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・手形の裏書譲渡・割引・書き換え・不渡りの意味を明らかにし、その記帳方法を理解させる。 ・営業外受取手形と営業外支払手形の意味を明らかにし、その記帳方法を理解させる。 	ワークシート (記述の点検) 定期テスト

1	第25章 有価証券の取引	3 h		<ul style="list-style-type: none"> ・有価証券の意味と計算のしかた、買い入れたとき、売却したときの記帳方法を理解させる。 ・支店会計の独立の意味を理解させる。 ・支店会計が独立している場合の本支店間の取引、支店相互間の取引の記帳方法を理解させる。 ・本支店合併の損益計算書・貸借対照表の作り方を理解させ、その作成に習熟させる。 	
	第26章 本支店会計	7 h			
2	第27章 (発展学習) 最近の実務に広がる取引	4 h		<ul style="list-style-type: none"> ・クレジット売掛金と電子記録債権・電子記録債務の意味を明らかにし、理解させる。 	
	第6編 決算(その2) 第28章 決算整理(その2)	8 h	教科書 副教材		
3	発展編 株式会社の取引 第29章 株式会社の取引と財務諸表	8 h	教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社の設立と株式の発行時の記帳方法を理解させる。 ・純利益の計上と剰余金の配当および処分に関する取引の記帳方法を理解させる。 ・法人税・住民税・事業税の記帳方法を理解させる。 ・株式会社の財務諸表の作成に習熟させる。 	ワークシート(記述の点検) ノート(記述の点検)

計 140 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 課題やレポートの提出があります。
- ・ 单元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

- ・ ビジネス社会の中で働く意義を理解し、それに向けて取り組む真面目な姿勢を身につける努力をしましょう。
- ・ 探究心を持って取り組みましょう。また検定試験もありますので、資格取得に向けて家庭学習も充実させていきましょう。

教科(科目)	商業（財務会計Ⅰ）	単位数	4単位	学年 (系列)	3年次(ビジネス・情報系列)
教科書	新財務会計Ⅰ 新訂版 (実教出版)	副教材	最新段階式簿記検定問題集 1級会計		
履修条件	2年次に「簿記」を履修・「原価計算」同時選択				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を養う。</p> <p>(3) 会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・企業会計の意味と役割について理解させる。 ・財務会計の機能について理解させる。 ・株式会社の基礎的な会計処理について理解させる。 ・会計公準について理解させる。 ・簿記・会計の発達の歴史を明らかにし、会計の歴史について理解させる。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・会計の意味や機能について正しく理解している。 ・会計法規の種類や目的について、どのようなものが正しく理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会計法規の役割を説明できる。 ・財務諸表を作成し、分析できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・財務会計の役割について、自ら進んで実際の事例を調べようとしている。

5 評価規準と評価方法

	知識・技術 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・会計の意味や機能について正しく理解している。 ・会計法規の種類や目的について、どのようなものか正しく理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会計法規の役割を説明できる。 ・財務諸表を作成し、分析できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・財務会計の役割について、自ら進んで実際の事例を調べようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、単元ごとの確認テスト、提出物とその内容などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、単元ごとの確認テスト、提出物とグループワークによる発表、その内容などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、検定試験に向けた取り組みの態度、定期考査の結果、単元ごとの確認テスト、提出物とその内容などから、評価します。

6 指導計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	財務会計の基礎 企業会計制度と会計法規	12h	教科書 問題集	<ul style="list-style-type: none"> ・企業会計の意味と役割について理解する。 ・財務会計の機能について理解する。 	a b c	授業の取り組み 授業時の課題 課題の提出
5 6	貸借対照表のあらまし 資産の意味・分類・評価 負債の意味と分類 純資産の意味と分類 貸借対照表の作成	32h	教科書 問題集	<ul style="list-style-type: none"> ・企業会計制度の意味を明らかにし、会計法規の必要性について理解する。 貸借対照表の作成を通じ、資産、負債、純資産の各項目を理解し、基礎的知識を身につける。 	a b c	授業の取り組み 授業時の課題 定期考査 課題の提出
7 8	損益計算書のあらまし 損益計算の意味と基準 損益計算書の作成	28h	教科書 問題集	<ul style="list-style-type: none"> ・損益計算の意味とその二つの計算方法(財産法と損益法)について理解する。 ・収益・費用の計上時期を定める三つの認識基準(現金主義・発生主義・実現主義)、また測定基準について理解する。 ・費用収益対応の原則の役割について理解する。 	a b c	授業の取り組み 授業時の課題 課題の提出 夏季休業課題
9 10	損益計算書の作成	32h	教科書 問題集	<ul style="list-style-type: none"> ・損益計算の意味とその二つの計算方法(財産法と損益法)について理解する。 ・収益・費用の計上時期を定める三つの認識基準(現金主義・発生主義・実現主義)、また測定基準について理解する。 ・費用収益対応の原則の役割について理解する。 	a b c	授業の取り組み 授業時の課題 定期考査
11 12	その他の会計処理	28h	教科書 問題集	<ul style="list-style-type: none"> ・役務収益・役務原価の意味を理解する。 ・商品の販売とサービスの提供の違いについて理解する。 ・役務収益・役務原価に関する会計処理を身につける。 	a b c	授業の取り組み 授業時の課題 定期考査
1	外貨建取引 税効果会計 財務諸表の活用 連結財務諸表のあらまし 連結財務諸表の作成	8h	教科書 問題集	<ul style="list-style-type: none"> ・外貨建取引の意味を理解する。 ・円換算の意味を理解し、適切な会計処理を身につける。 ・為替予約の会計処理を身につける。 	a b c	冬期休業課題 授業の取り組み 授業時の課題 定期考査

計 140 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

単元ごとに、課題やレポートの提出があります。
随時小テストなどを実施します。
長期休業中の課題は別途指示します。

8 備考

「原価計算」と同時履修すること。
簿記や原価計算同様、分からないところをそのままにしておくと、全てが分からなくなるので、必ず毎時間復習をしてください。

教科(科目)	商業（原価計算）	単位数	4単位	学年 (系列)	3学年(ビジネス・情報系列)
教科書	原価計算（実教出版）	副教材	最新段階式簿記検定問題集1級原価計算		
履修条件	2年次に「簿記」を履修				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、原価情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。</p> <p>(3)企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>製造業における原価計算および簿記に関する基本的な知識と技術を習得させ、原価について理解させ、原価計算から得られる情報を活用する能力と態度を育てる。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
原価計算に関する基礎的、基本的な知識を身につけ、原価計算の必要性を理解することができる。また、原価計算の仕組みを活かし、記帳ができる。	原価計算の仕組みや記帳、様々な計算方法をもとに、原価情報を有効に活用できる。	原価計算の意味や記帳方法に対し、興味、関心をもち主体的に、かつ協働的に取り組むことができる。

5 評価規準と評価方法

	知識・技術 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	原価計算に関する基礎的、基本的な知識を身につけ、原価計算の必要性を理解することができる。また、原価計算の仕組みを活かし、記帳ができる。	原価計算の仕組みや記帳、様々な計算方法をもとに、原価情報を有効に活用できる。	原価計算の意味や記帳方法に対し、興味、関心をもち主体的に、かつ協働的に取り組むことができる。
評価方法	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、単元ごとの確認テスト、提出物とその内容などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、単元ごとの確認テスト、提出物とグループワークによる発表、その内容などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、検定試験に向けた取り組みの態度、定期考査の結果、単元ごとの確認テスト、提出物とその内容などから、評価します。

6 指導計画

月	単元名	授業時 数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4	第1編 原価計算の基礎 第1章 原価と原価計算 第2章 原価計算のあらまし 第3章 工業簿記-製造業に おける簿記-	16h	教科書 問題集	<ul style="list-style-type: none"> ・工業簿記は製造業に適用されるものであることを理解させる。 ・工業簿記と原価計算の関係を理解させる。 ・原価の意味（製造原価・総原価）を理解させる。 ・原価要素の性格とその分類について理解させる。 ・原価要素の集計のしかたと原価計算表の役割を理解させる。 ・原価計算の四つの目的について理解させる。 ・原価計算の手続きについて理解させる。 ・原価計算期間について理解させる。 ・原価計算の種類を理解させる。 ・工業簿記における勘定記入の特徴を理解させる。 ・工業簿記に特有な勘定科目とそれぞれの記帳方法を理解させる。 ・工業簿記の一連の記帳手続を学習させることにより、全体的な構造を理解させる。 	a b c	授業の取り組み 授業時の課題 課題の提出
5	第2編 原価の費目別計算 第4章 材料費の計算 第5章 労務費の計算 第6章 経費の計算	16h	教科書 問題集	<ul style="list-style-type: none"> ・材料費の分類とその内容を理解させる。 ・材料費の仕入れと記帳方法、元帳への転記を理解させる。 ・材料の保管について理解させる。 ・棚卸減耗の意味とその処理方法を理解させる。 ・材料の消費と記帳方法、原価元帳への記入方法について理解させる。 ・材料の消費単価と消費数量の計算方法について理解させる。 ・予定価格により、消費高を計算することの意味、予定価格を用いた二通りの記帳法を理解させる。 ・労務費の分類とその内容を理解させる。 ・賃金支払高の計算と記帳方法を理解させる。 ・賃金消費高の計算と記帳方法を理解させる。 ・予定賃率による消費賃金の計算と記帳方法を理解させる。 ・賃金以外の労務費の種類、その計算と記帳方法を理解させる。 ・経費の意味とその分類を理解させる。 ・経費の消費高の計算と記帳方法を理解させる。 	a b c	授業の取り組み 授業時の課題 課題の提出

8 9	第11章 総合原価計算における減損・仕損じなどの処理 第4編 製品の完成・販売と決算 第12章 製品の完成と販売	18h	教科書 問題集	<ul style="list-style-type: none"> ・減損の意味と、それが発生した場合の処理方法を理解させる。 ・副産物・作業くず・仕損品の意味と、それぞれが発生した場合の記帳方法について理解させる。 ・製品の完成と販売に伴う手続きと記帳方法を理解させる。 ・販売費及び一般管理費の記帳方法を理解させる。 	a b c	授業の取り組み 授業時の課題 課題の提出 夏季休業課題 定期考査
10 11	第13章 決算と本社・工場間の取引 第5編 標準原価計算の基礎 第14章 標準原価計算（その1） 第15章 標準原価計算（その2）	32h	教科書 問題集	<ul style="list-style-type: none"> ・月次決算の意味と年次決算との関連について理解させる。 ・財務諸表の特色を理解させ、製造原価報告書の作成に習熟させる。 ・工場会計の独立と、その記帳方法について理解させる。 ・標準原価計算が原価管理に役立つ理由を知らせる。 ・標準原価計算の意義と特色、全体的な流れを理解させる。 ・完成品と仕掛品の標準原価による計算方法を理解させる。 ・原価差異の計算とその分析方法を理解させる。 ・標準原価計算の記帳方法を理解させる。 ・標準原価計算による損益計算書の作成方法を理解させる。 	a b c	授業の取り組み 授業時の課題 課題の提出 定期考査
12 1	第6編 直接原価計算の基礎 第16章 直接原価計算（その1） 第17章 直接原価計算（その2）	26h	教科書 問題集	<ul style="list-style-type: none"> ・直接原価計算が利益計画に適している理由を知らせる。 ・直接原価計算表の意義と特色を理解させる。 ・直接原価計算による損益計算書の組み立て方を理解させる。 ・CVP分析や損益分岐図表により、売上高・原価・利益の関係を理解させる。 ・高低点法を用いた原価予測の方法を理解させる。 	a b c	授業の取り組み 授業時の課題 課題の提出 定期考査

計 140 時間（50 分授業）

6 課題・提出物等

單元ごとに、課題やレポートの提出があります。

随時小テストなどを実施します。

長期休業中の課題は別途指示します。

5 備考

簿記や原価計算同様、分からないところをそのままにしておくと、全てが分からなくなるので、必ず毎時間復習をしてください。

教科 (科目)	情報処理	単位数	4単位	学年(系列)	2年次 (ビジネス・情報系列)
教科書	情報処理 (実教出版株式会社)				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

3 指導の重点

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ビジネスにおいて役立てることができる、情報を収集・処理・分析・表現するための知識や技術を身に付けている。	情報を扱うための知識や技術を活用して、情報に関する課題を発見し、解決するための思考力・判断力・表現力を身に付けている。	組織の一員として自己の役割を認識し、情報に関する知識や技術を活用して、協働して課題を解決していかうとする態度を身に付けている。

5 評価方法

評価は次の観点から行います。		
知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・観察、実習、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表やディスカッションへの取り組みの観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表やディスカッションへの取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動(指導内容)	評価方法
---	-----	------	-----	------------	------

		と領域			
4	1章 企業活動と情報処理 1節 情報処理の重要性	8 h	教科書 副教材	<p>身近な事例を基に情報とは何かを考える学習活動により、情報の意義と役割を理解する。</p> <p>社会で利用されている情報システムの例や、ビジネスにおける情報活用の実践を学ぶことにより、コンピュータを利用した情報の処理や活用の重要性を理解する。</p> <p>情報処理に関わる職業や仕事を学ぶことにより、ICT人材に求められる役割と身につけるべき能力の概要を理解する。</p>	ワークシート（記述の点検）
5	2節 情報モラルと法規	14 h	教科書 副教材	<p>身近な事例から情報の価値を考える学習活動により、情報を正しく取り扱うことの大切さに気づき、そのために必要な情報モラルの基本的な考え方や態度について理解する。</p> <p>情報を取り扱う上で守るべき法規の必要性と、その概要を理解する。</p>	ワークシート（記述の点検）
	3節 コミュニケーションと情報デザイン	7 h		<p>企業における適切な情報処理について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。</p>	
6	2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 1節 コンピュータシステムの概要	10 h	教科書 副教材	<p>コンピュータの基本的な機能と構成を理解し、ハードウェアとソフトウェアの種類と機能について理解するとともに、それを活用する基本的な技術を身に付ける。</p>	ノート（記述の点検）
	2節 情報通信ネットワークのしくみと構成	6 h	教科書 副教材	<p>情報通信ネットワークを利用したビジネス情報の検索と活用方法について理解する。</p>	ワークシート（記述の点検）
	3節 インターネットの活用			<p>電子メールの利用方法について理解する。</p>	定期テスト
7	4節 情報セキュリティの確保			<p>情報化社会に参画するために個人が身につけるべきセキュリティ管理の方法について理解する。</p>	
9	3章 情報の集計と分析 1節 ビジネスと統計	16 h	教科書 副教材	<p>情報の重要性を理解し、情報を分析して、傾向を把握する能力を身に付ける。</p>	ワークシート（記述の点検）
	2節 関数を利用した表の作成			<p>基本的な操作や計算式及び関数について理解し、目的に応じて適切な表の作成する技術を身に付ける。</p>	定期テスト
	3節 グラフの作成	2 h		<p>グラフの種類や構成要素、特色を理解し、表計算ソフトウェアを利用して目的に合ったグラフ作成方法について理解する。</p>	
10	4節 情報の整理・検索・抽出	8 h	教科書 副教材	<p>大量のデータを目的に応じた利用しやすい形で活用するために、表計算ソフトの</p>	ワークシート（記述の点検）

	5 節 問題の発見と解決の方法	18 h		データベース機能を利用して、整列や検索、抽出の技法について理解する。 事象をモデル化し、シミュレーションを行う基礎的な技法及びアルゴリズムを考案し、プログラムとして表現する基礎的な技法を用いた問題の発見と解決について考察する。また、ロジックツリー、PPM分析などを活用した情報の整理及びPDCA サイクルによる企業活動の改善について理解する。	ノート（記述の点検）
11	4 章 ビジネス文書の作成 1 節 ビジネス文書と表現	16 h	教科書 副教材	文書情報がコミュニケーションの重要な手段として、ビジネスの諸活動の中で果たしている役割や種類について理解する。 基本的な社内文書や社外文書を取り上げて、作成に関する知識と技術について理解する。	ワークシート（記述の点検）
12	2 節 基本文書の作成 1. ワープロの操作と入力方法	18 h			定期テスト
1	3 節 応用文書の作成	2 h		ワープロの多様な機能を利用して、表やグラフなどを含む応用的な文書の作成に関する知識と技術について理解する。	
2	5 章 プレゼンテーション 1 節 プレゼンテーションの技法	10 h	教科書 副教材	ビジネス活動におけるプレゼンテーションの意義を理解するとともに、基礎的な技法を身に付ける。	ワークシート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認）
3	2 節 ビジネスにおけるプレゼンテーション	2 h		目的や形態によるプレゼンテーション方法の違いについて理解するとともに、プレゼンテーションソフトウェアを活用した実習を通して、資料の作成などの発表準備から発表までの一連の活動について理解を深める。	定期テスト
	総合演習	3 h	教科書 副教材	各種ソフトウェアを適切に活用し、様々な報告書や文書を作成、または発表する。	ノート（記述の点検）

計 140 時間（50 分授業）

7 課題・提出物等

- ・ 課題やレポートの提出があります。
- ・ 单元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

- ・ ビジネス社会の中で働く意義を理解し、それに向けて取り組む真面目な姿勢を身につける努力をしましょう。
- ・ 探究心を持って取り組みましょう。また検定試験もありますので、資格取得に向けて家庭学習も充実させていきましょう。

教科(科目)	商業（ソフトウェア活用）	単位数	4単位	学年 (系列)	3学年(ビジネス・情報系列)
教科書	ソフトウェア活用（実教出版）	副教材	全商情報処理検定模擬試験問題集 ビジネス情報1級（実教出版）		

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェア活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの場面において、適切なソフトウェアを選択し、活用できることを目指します。 ・ビジネスの場面を想定し、企業活動におけるソフトウェア活用について、組織の一員としての役割を果たすことができる態度を育てます。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技術 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<p>企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにしている。</p>	<p>企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。</p>	<p>企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p>

5 評価規準と評価方法

	知識・技術 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにしている。	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、確認テスト、提出物の内容などから評価します。	以上の観点を踏まえ、定期考査の結果、授業の取り組みの観察、提出物の内容などから評価します。	以上の観点を踏まえ、学習の取り組みの観察、提出物の内容、定期考査や検定試験の振り返りなどから、評価します。

6 指導計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	1章 企業活動とソフトウェア	12h	教科書 問題集	身近な事例を基に、ビジネスにおけるソフトウェアを活用する活動により、ソフトウェアの意義と重要性を理解する。 ソフトウェアの進化が、社会に与える影響を考え、関連する知識を身に付ける。	a b c	授業の取り組み 授業時の課題 課題の提出
5	2章 情報通信ネットワークの活用	16h	教科書 問題集	ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解する。 情報通信ネットワークのシステム障害に対処するための基本的な技術を身に付ける。 情報資産を保護するため、リスク管理の方法を理解するとともに、データバックアップの技術を身に付ける。	a b c	授業の取り組み 授業時の課題 定期考査 課題の提出
6 7	5章 業務処理用ソフトウェアの活用	32h	教科書 問題集	グループウェアを活用する利点と、効率的に業務を行う方法について理解する。 販売管理及び給与計算ソフトウェアを活用する利点と、効率的に業務を行う方法について理解する。	a b c	授業の取り組み 授業時の課題 課題の提出
8 9	3章 表計算ソフトウェアの活用	20h	教科書 問題集	表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、分析結果を表現する能力を身に付ける。 マクロ機能を用いて、手続きの自動化の考えを理解する。	a b c	授業の取り組み 授業時の課題 定期考査
10 11	4章 データベースソフトウェアの活用	28h	教科書 問題集	データベースの構造を理解する。 また、表を正規化するための手順を理解する。 SQLを用いた汎用的なデータベースの操作方法について理解する。	a b c	授業の取り組み 授業時の課題 定期考査

12 1	6章 情報システムの開発	32h	教科書 問題集	<p>情報システムの開発に関する基礎的な知識、技術について理解する。</p> <p>コンピュータに指示を出すための手順であるアルゴリズムについて、基礎的な知識、技術を身に付ける。</p>	a b c	<p>冬期休業課題 授業の取り組み 授業時の課題 定期考査</p>
---------	--------------	-----	------------	---	-------------	---

計 140 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・授業時の課題
- ・夏季休業、冬季休業課題

5 備考

情報処理の内容を発展させ、ビジネスの場面に応じた適切なソフトウェアの選択やデータ処理、グラフなど図解の方法を学びます。

教科(科目)	家庭(消費生活)	単位数	2単位	学年(系列)	3学年(生活・福祉系列)
使用教科書	実教出版『消費生活』				
副教材等	なし				
履修条件	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>家庭の生活にかかわる産業社会の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、消費者の視点に基づく豊かな消費生活の実現の担い手として必要な資質・能力を次の通り育成することを目指します。</p> <p>(1)消費者の権利と責任、消費者と行政や企業とのかかわりおよび連携のあり方などについて理解するとともに関連する技術を身につけるようにする。</p> <p>(2)消費生活に関する課題を発見し、消費者の視点を持ち、合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3)より良い消費生活の実現を目指して、自ら学び消費者の支援や持続可能な社会の形成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>経済社会の変化を踏まえ、ますます複雑化・多様化している消費生活の現状と課題を理解し、より良い消費社会の実現のために主体的に行動する力を育てます。また将来の経済設計や金融、社会保障などについて学習し、生涯にわたり経済生活を自己管理するための力を身につけます。地球環境問題に関心を持ち、持続可能な社会の実現を目指して、より良いライフスタイルを創造する態度を育成します。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・実生活における経済計画や消費行動、様々な環境問題について理解し、適切な意思決定に基づいて、責任をもって行動できるための基礎的・基本的な知識と技術を身につけるようとしている。</p>	<p>・消費生活や持続可能な社会を目指したライフスタイルの確立について、課題を見出しその解決を目指して思考を深め、適切に判断・表現しようとしている。</p>	<p>・経済社会の変化と消費生活、消費者の権利と責任、持続可能な社会を目指したライフスタイルの確立などに関心を持ち、主体的・意欲的に取り組もうとしている。</p>

5 評価基準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシート、提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物の内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、課題、提出物の内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月/学期	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前期	・消費者と消費生活 ・消費者被害と消費者の権利・責任 ・消費生活と安全 ・定期考査	教科書 タブレット ワークシート DVD	・経済社会と消費生活の関連性について考えさせ、消費者の権利と消費者が経済社会を動かしているという責任を理解させる。	10	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
			・消費者問題の発生と消費者行政の推移について、理解させる。	15	
			・消費者が受けている被害の現状と、安全な消費生活を確保し、危害の発生を未然に防止するための施策について理解させる。	8	
				2	
後期	・消費生活と情報(契約と消費生活) ・環境と消費者 ・定期考査	教科書 タブレット ワークシート DVD	・高度経済成長期を経て、多くの消費者問題が発生する中で、消費者保護政策について理解させる。	20	ワークシート (記述の確認) 発表の様子 (行動の確認)
			・消費者が自己の責任で充実した消費生活を送る上で必要な知識、技術、実践的な態度を身につける。 ・消費者の意思決定が地球環境に大きな影響を及ぼすことを理解させる。また自身のライフスタイルを振り返り、持続可能な社会の実現を目指して意欲的に取り組む態度を身につける。	13	
				2	

計70時間(50分授業)

7 課題・提出物等

- ・单元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

多様化する消費生活の中で、安心・安全に暮らすために必要な知識や技術を身につけましょう。また生涯設計に基づいた経済計画や金融の知識を身につけ、社会人としての責任を果たしながら豊かな人生を実現する力を育てていきます。地球規模での環境破壊が叫ばれる中、持続可能な社会の実現のために一人一人が消費行動を見直し、グローバルな視点からより望ましいライフスタイルを確立していく態度を養ってほしいと願っています。

教科(科目)	家庭 (保育基礎)	単位数	4単位	学年(系列)	3学年(生活・福祉系列)
使用教科書	教育図書『保育基礎 ようこそ、ともに育ち合う保育の世界へ』				
副教材等	なし				
履修条件	「ファッション造形基礎」「フードデザイン」を履修していること。保育技術検定を受検すること				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必履修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>①保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子どもの福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>②子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>③子どもの健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。育てる。</p>
--

3 指導の重点

<p>資質・能力を身に付けることができるよう、次の〔指導項目〕を指導する。</p> <p>① 子どもの保育 ②子どもの発達 ③子どもの生活と養護 ④子どもの福祉 ⑤子どもの文化</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>子どもの発達の特長や発達過程、保育などに関する知識を身につけようとしている。</p> <p>子どもと触れ合ったり、子育て支援を行っている人々と交流を図ったりする学習を通して、子どもの発達の特長や発達過程に対応した技術を身につけようとしている。</p>	<p>子どもを生み育てることや、家族の役割や地域の子育て支援などについて課題を見だし、思考を深め、適切に判断し、創意工夫し表現する能力を身につけようとしている。</p>	<p>子どもの発達や子育て支援について関心を持ち、実際に子どもと関わろうとする意欲と態度を身につけようとしている。</p>

5 評価基準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	<p>以上の観点をふまえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の取り組み (授業態度、実習の様子、学習活動への参加状況) ・提出物 (ワークシート、課題の提出) ・定期テスト などから総合的に判断する。 	<p>以上の観点をふまえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の取り組み (授業態度、実習の様子、学習活動への参加状況) ・提出物 (ワークシート、課題の提出) ・定期テスト などから総合的に判断する 	<p>以上の観点をふまえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の取り組み (授業態度、実習の様子、学習活動への参加状況) ・提出物 (ワークシート、課題の提出) ・定期テスト などから総合的に判断する
	<p>内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。</p>		

6 学習計画

月/ 学期	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	1章・子どもの 発達の特徴	・実習教材 ・保育人形 ・絵本 ・画用紙	1 生涯発達における乳幼児期の重要性 2 発達と環境 3 発達観・児童観とは	14	・授業態度 ・定期考査 ・作品 ・提出物
5	2章・子どもの 発達過程	・折り紙 ・童謡CD ・授業ワーク	1 身体発育と運動機能の発達 2 乳幼児のからだの発育 3 乳幼児期の発達の特徴 4 人間関係の発達 5 心の発達	20	・検定
6					
7	3章・子どもの 生活	・検定テキスト ・検定DVD ・検定ワーク	1 子どもの健康と生活 2 子どもの食事 3 子どもの衣服	18	・授業態度 ・定期考査 ・作品 ・提出物 ・検定
8	家庭科保育技術 検定 定期考査		保育検定 (造形表現技術3・4級)	16	
9				2	
10	3章・子どもの 生活	・実習教材 ・保育人形 ・絵本・紙芝居	4 子どもの遊びと生活 5 子どもの健康管理	16	・授業態度 ・定期考査 ・作品 ・提出物 ・検定
11	4章・子どもの 保育	・画用紙 ・折り紙 ・授業ワーク	1 保育の意義と目標 2 保育の方法 3 保育の環境	16	
12	5章・子どもの 福祉と子育て支 援	・検定テキスト ・検定DVD ・検定ワーク	1 子どもの福祉 2 子育て支援 ・絵本の製作	20	
1					
2	家庭科保育技術 検定		保育検定 (家庭看護技術3・4級、言語 表現技術3・4級)	16	
3	定期考査			2	

計 140 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

授業ワークシート、検定ワーク、検定練習作品、絵本、視聴覚教材の感想など

8 担当者からの一言

子どもの保育の意義、発達の特徴などの知識を学び、子どもの生活の特徴と養護、児童福祉の理念と関係法規・制度、子どもの文化を通し、保育を担う養育者、職業人としての基礎的な知識と技術を身に付けていきましょう。

教科(科目)	家庭(住生活デザイン)	単位数	3単位	学年(系列)	2学年(生活・福祉系列)
使用教科書	実教出版『リビングデザイン』				
副教材等	なし				
履修条件	「フードデザイン」を同時選択すること。				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

家庭生活の視点に立ち、実践的・体験的な学習活動を行うことを通じて、住生活と文化、住空間の構成と計画、インテリアデザインなどに関する知識と技術を身に付けさせる。またより豊かな住生活の実現を旨とし、自ら課題を見つけ、主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。

3 指導の重点

できるだけ実習を多く取り入れ、自身の生活や将来の住まいをイメージしながら

①気候風土や生活様式と住居の係わり、住生活上のマナー ②住居の構造とゾーニング、動線 ③インテリア計画と表現技法

④住まいの安心安全(災害に強い住居、バリアフリー住宅) ⑤環境と住居 などについて学び、実生活の中で活かせる力を育成します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・豊かで安心、安全な住生活を実現するために必要な知識や技能を身につけようとしている。	・快適な住空間の計画やインテリアデザインに関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決している。	・住生活や住環境の向上を旨とし、自ら学びその課題を解決しようとしている。

5 評価基準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・豊かで安心、安全な住生活を実現するために必要な知識や技能を身につけようとしている。	・快適な住空間の計画やインテリアデザインに関する課題について、合理的かつ創造的に解決している。	・住生活や住環境の向上を旨とし、自ら学びその課題を発見し、解決しようとしている。

評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシート、提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、設計図、提出物の内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、課題、提出物の内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価方法
4	住生活と住居の変遷	10	教科書 タブレット 住居模型	・住居の変遷と住意識 ・気候風土と住居 ・学校近辺住居調べ	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
5	住生活と環境	10	教科書 騒音計 照度計	・生活様式と住居 ・自然環境と社会環境 ・健康的で快適な住環境	ワークシート (記述の点検)
6	インテリア	10	教科書 カラーチャート 色鉛筆	・インテリアの基本	ワークシート (記述の確認) 発表の様子 (行動の確認)
	定期考査	1			
7	インテリア	12	インテリアブック 色鉛筆	・各室のインテリア計画	ワークシート (記述の確認) 発表の様子 (行動の確認)
9	住居の選択と管理	9	教科書	・家族周期と住居 ・住居の管理	ワークシート (記述の点検)
	定期考査	1			
10	住居の選択と管理	11	教科書 タブレット	・住居の選択と住情報	ワークシート (記述の確認) 発表の様子 (行動の確認)
11	住居の設計	9	教科書	・設計 ・住居の計画 ・図面を読む	ワークシート (記述の確認)
12	住居の設計	9	教科書 タブレット	・図面をかく	ワークシート (記述の確認) 発表の様子 (行動の確認)
	定期考査	1			
1	住生活の向上	7	教科書	・住生活の現状 (空き家問題等)	ワークシート (記述の確認)

2		8	教科書	・これからの住まいと生活	ワークシート (記述の確認)
	定期考査	1			
3	住生活の向上	6	DVD 資料	・住生活と防災	ワークシート (記述の確認) 発表の様子 (行動の確認)

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・单元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・インテリアデザイン計画、世界の面白住居調べ等のレポート、防災ポスターなどの作品提出も多数あります。

8 担当者からの一言

「住生活デザイン」では、自身の住環境を確認し改善したり、将来の自分の住まいをイメージしてデザインしたりなど、実際の生活に即した内容について、深く考え学んでいきましょう。また、地震などの自然災害と住まいや、環境との共生、新しいライフスタイルに対応する住居など、社会の変化を捉えながら、人生をより豊かに過ごすための土台となる住まいについて、総合的、発展的に学んでいきます。授業では多くの実習を取り入れ、より体験的な学習をしていきますので、欠席をしないように頑張りましょう。

教科(科目)	家庭 (ファッション造形基礎)	単位数	4単位	学年(系列)	2学年(生活・福祉系列)
使用教科書	実教出版『ファッション造形基礎』				
副教材等	なし				
履修条件	「フードデザイン」を同時選択すること。3年次「ファッション造形」選択希望者は選択必須。被服製作技術検定を受検すること。				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

被服構成の基礎、技法、被服材料など被服製作に関する基礎的、基本的な知識と技術を学び主体的に被服を製作する力を身につける。
--

3 指導の重点

<p>① 被服製作に必要な基礎的な知識、技術を習得させる。</p> <p>② 立体構成、平面構成の特徴を理解し、簡単な日常着の製作が出来るようにするとともに、被服製作技術検定4、3級の合格を目標とさせる。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
衣服の構成・材料、製作の理論・技術について理解し、衣服を創造的に製作するために必要な知識を身につけている。	衣服製作について、目的に応じてどのような材料・デザインが適当かを思考、判断し、自身の衣生活において表現する力を身につけている。	衣服の構成・材料・製作について関心をもち、衣生活の充実・向上をめざして意欲的にとりくむとともに、衣服を創造的に製作する態度を身につけようとしている。

5 評価基準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取組(授業態度、実習の様子、学習活動への参加状況など) ・提出物(ワークシート、課題) ・定期テスト ・各級検定 などから総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取組(授業態度、実習の様子、学習活動への参加状況など) ・提出物(ワークシート、課題) ・定期テスト ・各級検定 などから総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取組(授業態度、実習の様子、学習活動への参加状況など) ・提出物(ワークシート、課題) ・定期テスト ・各級検定 などから総合的に評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月/ 学期	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法	
前期	被服の構成 基礎縫い	4級検定テキスト 基礎縫いセット 練習用布セット	人体と被服 立体構成と平面構成 被服材料の特徴と性能	4	定期テスト 授業の取組 作品	
	被服材料	ワークシート 検定用型紙	用途に応じた被服材料の選択・購入 布地の扱い方、各種ミシンの操作	4		
	基礎縫い	3級検定テキスト 3級検定練習用布	手縫い、ミシン縫いの基礎 家庭科被服製作技術検定 4級受験	2 2		
	洋服製作の基礎 立体構成の基礎 的知識、技術	3級検定布	採寸・型紙の基本 デザインと材料の選択・裁断・しるしつけ 簡単な日常着の製作……アウターパンツ	14 24		
	定期考査			2		
後期	立体構成の基礎 的知識、技術	検定用型紙 検定問題集	簡単な日常着の製作……アウターパンツ 家庭科被服製作技術検定 3級受験	8 8	定期テスト 授業の取組 作品	
	和服製作の基礎	2級検定テキスト 2級検定練習用布 2級検定布 2級検定問題集	和服の構成と名称 材料の選択 簡単な日常着の製作……じんべい 和服に必要な基礎縫い 裁断・しるしつけ・縫製・右身頃仕上げ 裁断・しるしつけ・右身頃縫製	4 8 2 2 1 8		
	定期考査			2		

計 140 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・ 放課後や長期休業中に補習を行う場合もあります。

8 担当者からの一言

「ファッション造形基礎」は、製作実習中心の科目なので、衣服の構成、衣服の素材、種類等を学び、手縫い、ミシン縫いの基礎をしっかり身に付け、簡単な日常着のアウトターパンツ、和裁のじんべいの製作に取り組んでいきます。1年間で、家庭科被服技術検定4級（基礎縫い）と3級（アウトターパンツ）を受験します。全員が合格できるよう知識・技術を伸ばしていきましょう。

教科(科目)	家庭(ファッション造形)	単位数	4単位	学年(系列)	3学年(生活・福祉系列)
使用教科書	実教出版『ファッション造形』				
副教材等	なし				
履修条件	2年次「ファッション造形基礎」を履修していること。				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>家庭の生活にかかわる産業の見方、考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ファッション製品を創造的に製作するための知識や技術を身につける。</p>

3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> デザインや着用目的に応じたより高度なファッション造形について体系的に理解するとともに、政策に必要な知識や技術を身につける。 衣生活の充実向上と創造性豊かな作品の製作を目指して自ら学び、ファッション造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・高度なファッション造形について体系的に理解するとともに、必要な知識や技術を身につけようとしている。</p>	<p>・学習した知識や技術を、衣生活の向上と創造性豊かな作品制作に活かすことができる。</p>	<p>・ファッション作品の製作に、計画的かつ主体的に取り組もうとしている。</p>

5 評価基準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	<p>・高度なファッション造形について体系的に理解するとともに、必要な知識や技術を身につけようとしている。</p>	<p>・学習した知識や技術を、衣生活の向上と創造性豊かな作品制作に活かすことができる。</p>	<p>・ファッション作品の製作に、計画的かつ主体的に取り組もうとしている。</p>

評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・実習への取組の観察 ・ワークシート、作品、提出物、 振り返りシートの記述の分析 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、実習への取組の観察 ・レポートやワークシート、作品、提出物、振り返りシートの記述の分析 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、実習への取組の観察 ・提出物、作品、振り返りシートの記述の分析などから評価します。

6 学習計画

月/ 学期	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価方法
前 期	・じんべいの製作	60	・じんべい用布 ・ワークシート ・検定テキスト ・検定問題集 ・練習布	・じんべいの構成 ・基礎縫い ・和服の製作ーじんべい	ワークシート(記述の 点検) 発表の様子 (行動の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	・和服の種類と和 服地	8	・教科書 ・ワークシート	・和服の種類と用途 ・和服地	
	・定期考査	2			
後 期	・ひとえ長着の製 作(浴衣)	60	・浴衣反物 ・検定テキスト ・検定問題集 ・ワークシート ・練習布	・浴衣の構成(男物、女物) ・基礎縫い ・和服の製作ー浴衣	ワークシート(記述の 点検) 発表の様子 (行動の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	・日本の民族服	8	・和装小物 ・ワークシート ・DVD	・着物と文化 ・浴衣の着装	
	・定期考査	2			

計 140 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・製作の途中で、確認のための実技テストを行います。
- ・知識や技術の定着をめざし、様々な課題や提出物があります。期限を守り確実に取り組みましょう。

8 担当者からの一言

我が国の民族服である浴衣の製作を通して、伝統的な技法や独自の衣文化について理解を深めましょう。和服の種類やたたみ方など管理方法についても学習します。また自分で製作した浴衣の着装も行います。授業ではコツコツと地道な作業が続きますが、高度な作品を完成する達成感を感じられることと思います。

教科(科目)	家庭(服飾手芸)	単位数	4単位	学年(系列)	3学年(生活・福祉系列)
使用教科書	主婦の友社『一生使えるおさいほうの基本』				
副教材等	なし				
履修条件	2年次「ファッション造形基礎」履修していること。				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>家庭の生活にかかわる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動などを行うことを通して、創造的な手芸品の製作と服飾への活用のために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指します。</p> <p>(1)手芸の種類と特徴および変遷、各種手芸の技法などについて理解し、技術を身につけます。</p> <p>(2)手芸の美的価値および製作工程に関する課題を発見し、自ら学び解決していく力を養います。</p> <p>(3)手芸品の製作と服飾への活用に、主体的かつ協働的に取り組む態度を養います。</p>
--

3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・各種手芸に関する基礎的な技術を取得し、それぞれのセンスを生かしながら作品を制作することが出来るようにします。 ・各種手芸の種類と特徴、技法について学び、生活の様々な場面や服飾の中で手芸が生活をより楽しく豊かにしていることを理解します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・各種手芸技法に必要な基礎的、基本的な知識と技術を理解し、技術を身につける。	・学習した知識や技術を生かし、創意工夫しながら服飾手芸に活用できる。	・手芸の種類や特徴および技法について関心を持ち、意欲的に取り組むことが出来る。

5 評価基準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・各手芸技法に必要な基礎的、基本的な知識を理解し服飾手芸に活用できる。	・学習した知識や技術を生かし、創意工夫しながら服飾手芸に活用できる。	・手芸の種類や特徴および技法について関心を持ち、意欲的に取り組むことが出来る。

評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、実習への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物、 振り返りシートの記述の分析 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、実習への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物、 振り返りシートの記述の分析 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、実習への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物、 振り返りシートの記述の分析 などから評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価方法
4	・手芸の種類と特徴 ・各種手芸の技法と手芸品の製作 ・定期考査	4	ワークシート	各種手芸の種類と特徴、その変遷	ワークシート (記述の点検) 発表の様子(行動の確認) 実習の様子(行動の確認)
5		4	裁縫道具 アップリケ 材料	アップリケ ・アップリケの方法 実習: アップリケの小物	
6		1 6			
6		1 2	編み物道具、毛糸	編み物 ・編み物の特徴、材料と用具、編み図の見方 ・かぎ針(作り目、糸の持ち方) 実習: かぎ針で作る小物	
7		1 6	フランス刺繍材料	刺しゅう ・フランス刺しゅうの特徴、基本のステッチ 実習: 刺しゅうの壁掛け	
8		4			
9		1 2			
10		2 0	・パッチワーク材料	パッチワークキルト ・パッチワークの特徴、材料と用具、伝統的なパターンの名称、配色の基本、仕上げの技術 実習: 小物の製作	
11		2 0	・刺し子の材料	刺し子 ・刺し子の特徴、伝統的な図案の種類と名称、基本的な刺し方、仕上げの技術 実習: 刺し子のコースター、袋物	
12	1 6	・編み物の道具、毛糸	編み物 ・編み物の特徴、材料と用具、編み図の見方 ・棒針(作り目、糸の持ち方、メリヤス編み) 実習: マフラー製作		
1	1 2				
2	2				

計 140 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに、様々な提出物があります。期限を守り確実に提出してください。 ・長期休業中の課題は別途指示します。・単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。

8 担当者からの一言

<p>服飾手芸の基本的な技術を身につけ、自分のアイデアやセンスを生かしながら楽しく作品を制作しましょう。</p>
--

教科（科目）	家庭（フードデザイン）	単位数	4単位	学年（系列）	2学年（生活福祉系列）
教科書	フードデザイン Food Changes Life（教育図書）				
副教材	なし				
履修条件	「ファッション造形基礎」を同時選択すること。3年次「調理」選択希望者は選択必須。 食物調理技術検定を受検すること。				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

3 指導の重点

- ・栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的、系統的に理解するとともに関連する技術を身につけるようにする。
- ・食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- ・食生活の充実向上を目指して、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を身につけるとともに、それらに係る技能を身につけている。	食生活を総合的に捉え、計画・実践するための課題を見だし、思考を深め、食育の推進に寄与するために創意工夫し表現する能力を身につけている。	食生活に関する諸問題に関心をもち、食育の推進に向けて、積極的に取り組もうとする意欲と態度を身につけている。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識や技能を身につけている。	食生活を総合的に捉え、計画・実践するための課題を見だし、思考を深め、食育の推進に寄与するために、創意工夫し表現する能力を身につけている。	食生活に関する諸問題に関心を持ち、食育の推進に向けて、積極的に取り組もうとする意欲と態度を身につけている。
評価方法	・テストの分析 ・実技試験 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから評価します。	・テストの分析 ・授業中の発言、発表や実習への取り組みの観察 などから評価します。	・授業中の発言、発表や実習への取り組みの観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから評価します。

6 学習計画

学期	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	1 健康と食生活	ワークシート	ア食事の意義と役割 イ食生活の現状と課題	5	・授業態度 ・ワークシートやレポート ・実習や検定への取り組み ・実習の記録 ・定期考査
5	2 フードデザインの構成要素	DVD 食品模型	ア栄養 イ食品 ウ料理様式と献立 エ調理 オテーブルコーディネート	35	
6 7 8	3 フードデザイン実習		食物調理技術検定4級受検	28	
9	定期考査		ア食事テーマの設定と献立作成	2	
10 11 12	3 フードデザイン実習	ワークシート DVD	イ食品の選択と調理 ウテーブルコーディネートとサービスの実習 食物調理技術検定3級受検	45	・授業態度 ・実習や検定への取り組み ・実習の記録 ・ワークシート ・定期考査
1 2	4 食育と食育推進活動		ア食育の意義 イ家庭や地域における食育推進活動	23	
3	定期考査			2	

※学習活動の順番は入れ替わることがあります。

計140時間(50分授業)

7 課題・提出物等

- ・実習の記録の提出や課題の提出があります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

実践的・体験的な学習活動の多い科目です。安全・衛生に留意し、食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインに主体的かつ協働的に取り組んでいきましょう。

教科(科目)	家庭(調理)	単位数	4単位	学年(系列)	3学年(生活・福祉系列)
教科書	調理I(実教出版)				
副教材	なし				
履修条件	2年次「フードデザイン」を履修していること。「ファッション造形」を同時選択すること。 食物調理技術検定を受検すること。				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。 ②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。 ③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。 ④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。 ⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。 ②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。 ③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。 ④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。 ⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。

2 学習目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して創造的に調理し、健康の保持増進に寄与する食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

3 指導の重点

- ・調理の基礎、献立作成及び様式別調理などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける。
- ・食生活の現状から調理に関する課題を発見し、調理を通して食生活の充実向上を担う職業人として合理的、創造的に解決する力を養う。
- ・調理の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、創造的な調理に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
調理の目的、食品の調理上の性質、加熱操作、非加熱操作及び調味の方法と特徴などに関する知識を身につけるとともに、それらに係る技能を身につけようとしている。	食生活を総合的に捉え、計画・実践するための課題を見だし、思考を深め、食育の推進に寄与するために、創意工夫し表現する能力を身につけようとしている。	調理の基礎、様式別調理と目的別・対象別の調理について関心を持ち、積極的に取り組む意欲と態度を身につけようとしている。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・テストの分析 ・実技試験 ・レポートやワークシート、提出物の内容の確認 などから評価します。	<ul style="list-style-type: none"> ・テストの分析 ・授業中の発言、発表や実習への取り組みの観察 などから評価します。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言、発表や実習への取り組みの観察 ・レポートやワークシート、提出物の内容の確認 などから評価します。
内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。			

6 学習計画

学期	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前期	1 調理の基礎	ワークシート DVD 食品模型	ア調理の目的 イ熱源及び調理機器 ウ調理の種類と基本操作 エ食品の性質	48	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・ワークシートやレポート ・実習、検定の取り組み ・実習の記録 ・定期考査
	2 献立作成		ア献立作成の意義 イ栄養計算 ※食物調理技術検定2級受検	20	
	定期考査			2	
後期	3 様式別の献立と調理	ワークシート DVD	ア日本料理 イ西洋料理 ウ中国料理 エその他の料理	20	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・実習の取り組み ・実習の記録 ・ワークシート ・定期考査
	4 目的別・対象別の献立と料理		ア日常食 イ行事食・供応食 ウ病気時の食事 エ幼児と高齢者の食事 ※「佐渡の海藻」に関する探究学習	48	
	定期考査			2	

計140時間(50分授業)

7 課題・提出物等

・実習の記録の提出や課題の提出があります。

8 担当者からの一言

実践的・体験的な学習活動の多い科目です。安全・衛生に留意し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質や能力を身につけていきましょう。

教科(科目)	福祉 (社会福祉基礎)	単位数	2単位	学年(系列)	2学年(生活福祉系列)
使用教科書	実教出版『社会福祉基礎』				
副教材等	なし				
履修条件	生活福祉系列の生徒は履修が望ましい。				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、社会福祉の向上に必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>①社会福祉について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>②社会福祉の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的に根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>③健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>資質・能力を身に付けることができるよう、指導する。</p> <p>①社会福祉の理念と意義……働くことの社会的意義や役割、職業人に求められる倫理観</p> <p>②人間関係とコミュニケーション</p> <p>③社会福祉思想の流れと福祉社会への展望</p> <p>④生活を支える社会保障制度</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技能を身に付けることができる。	福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養うことができる。	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができる。

5 評価基準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技能を身に付けることができる。	福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養うことができる。	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができる。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取組(授業態度、実習の様子、学習活動への参加状況など) ・提出物(ワークシート、課題) ・定期テスト などから総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取組(授業態度、実習の様子、学習活動への参加状況など) ・提出物(ワークシート、課題) ・定期テスト などから総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取組(授業態度、実習の様子、学習活動への参加状況など) ・提出物(ワークシート、課題) ・定期テスト などから総合的に評価します。

6 学習計画

月/ 学期	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価方法
前 期	第1編 社会福祉の理念 と意義	13	ワークシート テスト対策プリント 視聴覚教材	①生活と福祉 ②社会福祉の理念 ③人間の尊厳と福祉社会の創造	定期考査 授業の取組 ファイルの提出
	第2編 社会福祉の歴史 と福祉社会の課題	14		①諸外国における社会福祉 ②日本における社会福祉	
	第3編 生活を支える社会福祉・社会保障制度	6		①社会福祉・社会保障制度の意義と役割 ②子ども家庭福祉 ③障害者福祉	
	定期考査	2			
	第3編 生活を支える社会福祉・社会保障制度	19	ワークシート テスト対策プリント 視聴覚教材	④高齢者福祉 ⑤生活支援のための公的扶助 ⑥国民生活を支える社会保障制度	定期考査 授業の取組 ファイルの提出
	第4編 人間関係とコミュニケーション	8		①コミュニケーションの基礎 ②援助における人間関係の形成 ③社会福祉援助活動の概要	
	第5編 地域福祉の進展と多様な社会的支援制度	6		①地域福祉の進展と地域の将来 ②多様な社会的支援制度 ③社会福祉の将来と福祉の担い手	

	定期考査	2			
--	------	---	--	--	--

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

単元ごとにワークシートを記入し、提出。視聴覚教材の感想等の提出。学習活動での作品の提出等

8 担当者からの一言

「社会福祉基礎」は、欧米や日本において社会福祉思想が発展してきた過程を理解し、社会福祉に関する基礎的な知識と技術を習得し、現代社会における社会福祉の意義や役割などについて理解し、社会福祉の基本的な見方や考え方を身に付けていきましょう。

教科(科目)	福祉 (生活支援技術)	単位数	4単位	学年(系列)	3学年(生活福祉系列)
使用教科書	『生活支援技術』 (実教出版)				
副教材等	なし				
履修条件	2年次「ファッション造形基礎」「フードデザイン」を履修していること				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必履修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、適切で安全・安楽な生活支援技術を提供するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 自立生活支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。</p> <p>(2) 自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>自立に向けた生活支援、緊急時・災害時の支援、終末期の支援、医療的ケアなどについて、実践的・体験的な学習活動を行います。またサービス利用者主体の生活支援の在り方を理解するとともに関連する技術を身につけ、尊厳の保持や自立支援に根ざした豊かな生活の支援に必要な資質・能力を育てます。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>基礎的な介護の在り方、介護実践の根拠となる人体の構造や機能について理解し、知識として身につけている。基礎的な介護の知識のもと、利用者の生活状況を的確に把握し、自立と安全を重視した活動を実践していく能力を身につけている。</p>	<p>介護を実践していくうえで、その望ましい方法を利用者の視点で考え、表現する能力を身につけようとしている。</p>	<p>自立を支援する介護のあり方に関心、意欲をもって学び、加えて知識の定着と技術の向上を目指す態度を身につけようとしている。</p>

5 評価基準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	基礎的な介護の在り方、介護実践の根拠となる人体の構造や機能について理解し、知識として身につけている。基礎的な介護の知識のもと、利用者の生活状況を的確に把握し、自立と安全を重視した活動を実践していく能力を身につけている。	介護を実践していくうえで、その望ましい方法を利用者の視点で考え、表現する能力を身につけようとしている。	自立を支援する介護のあり方に関心、意欲をもって学び、加えて知識の定着と技術の向上を目指す態度を身につけようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、実習への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物、振り返りシートの記述の分析 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、実習への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物、振り返りシートの記述の分析 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、実習への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物、振り返りシートの記述の分析 などから評価します。

6 学習計画

月/学期	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価方法
前 期	1. 私たちの暮らしと生活支援	20	・ワークシート ・校外実習 ・ビデオ	(1)生活支援の理解 (2)生活支援に向けたアセスメント ・校外実習	・授業態度 ・実技試験 ・定期考査
	2. 自立に向けた生活支援技術	48	・実技材料 ・調理材料	(1)居住環境の整備 (2)家事の介護 (3)身じたくの介護 (4)移動の介護 (5)食事の介護 ・校外実習 ・実技・調理実習	・ワークシート ・レポート
	定期考査	2			
後 期	2. 自立に向けた生活支援技術	50	・ワークシート ・校外実習 ・ビデオ ・実技材料 ・調理材料	(6)入浴・清潔保持の介護 (7)排泄の介護 (8)睡眠の介護 (9)レクリエーションにおける介護技術 ・校外実習 ・実技・調理実習	・授業態度 ・実技試験 ・定期考査 ・ワークシート ・レポート
	3. 終末期・緊急時の介護	18		(1)終末期の介護 (2)緊急時の介護 ・普通救命講習会	
	定期考査	2			

計 140 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・单元ごとに、様々な提出物があります。期限を守り確実に提出してください。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

自立を尊重した生活支援の知識や技術を身に付けることは、福祉実践の場だけでなく、実際の日常生活においても役立つことがたくさんあります。誰もが気持ちよくそしてお互いに寄り添い協働できる社会を実現する担い手となれるよう、積極的に学習していきましょう。

教科（科目）	地域学（地域学A）	単位数	2単位	学年(系列)	2年次(自由選択系列)
使用教科書	日本文教出版 工芸 I				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活で必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

陶芸（無名異焼）や竹細工の幅広い創作活動を通して、美的体験を豊かにし、陶芸や竹細工を愛好する心情や態度を育てるとともに、伝統文化への興味・関心を高め、地域の発展に貢献できる資質・能力を養う。

3 指導の重点

陶芸や竹細工の易しい制作学習をとおして、地域文化の理解と継承する態度を育む。

- 佐渡文化の対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。
- 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- 主体的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技術 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<p>陶芸、竹細工作品の制作に必要な材料、道具について選択し、作品制作する技術を身に付けようとしている。</p> <p>対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めようとしている。</p> <p>陶芸、竹細工作品制作をとおして日本や地域文化について理解している。</p>	<p>造形的なよさ美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統文化に対する見方や考え方を深めようとしている。</p>	<p>授業に対する取り組み方や地域の地域に引き継がれている伝統文化（陶芸・竹細工）について興味・関心を持って主体的に取り組もうとしている。</p>
評価方法	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <p>・授業態度、作品・プレゼンテーション・課題の内容や提出状況などから、総合的に評価します。</p>		

5 学習計画

学期	単元名	授業時数	教材名	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
前期	ガイダンス	2	教科書・ガイド用の説明・補足プリント	・年間計画を説明する。	a b c	授業態度 感想文 作品提出授業の取組状況、ワークシートの内容と提出状況、完成した作品の内容や提出状況
	佐渡の陶芸の歴史と釜の分布	2	教科書・ワークシート（制作工程の作成）	・陶芸の歴史を学びながら、地域への興味・関心を持たせる。	a b c	
	土練りから器の完成まで（工程説明）	5	ワークシート（制作工程の作成）	・器が完成するまでのそれぞれの工程の意味を理解させる。	a b c	
	実習（作品の制作）	26	粘土、ロクロ、ヘラ、コテ、カンナ、切り糸、セーム皮、かめ板等	・ろくろによる湯呑み・茶碗・大皿等の制作を通して伝統工芸を理解させる。 ・陶芸に対する知識や技術を習得させる。	a b c	
後期	佐渡の竹細工の歴史	4	佐渡の竹細工の歴史の説明プリント	・竹細工の歴史を学びながら、地域への関わりを学ばせる。 ・佐渡に生育する竹の種類と、その特性を理解させる。	a b c	授業の取組状況、ワークシートの内容と提出状況、完成した作品の内容や提出状況
	佐渡の竹とその特性 材料づくりとその道具	5	ワークシート（制作工程の作成）	・実習に必要な材料づくりと、それに必要な道具を理解させる。	a b c	
	実習（作品の制作）	26	鉋、鋸、小刀、木槌、定規、紙やすり等	・立体的な制作を通して伝統工芸を理解し、その知識や技術を習得させる。	a b c	

計70時間（50分授業）

5 課題・提出物等

ワークシート・感想文・作品などの課題を単元ごとに提出する。

6 担当者からの一言

地域文化に親しみ、地域や地域文化を継承し発展させる態度の育成を支援します。

（担当：今井・葛原）

教科（科目）	地域学（地域学B）	単位数	2単位	学年(系列)	3年次(自由選択系列)
使用教科書	日本文教出版 工芸 I				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

<p>陶芸（無名異焼）や竹細工・土人形等の民芸・工芸について、幅広い創作活動を実施することで、佐渡の伝統文化や工芸への理解を深め、継承について学び、地域の発展に貢献できる資質・能力を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>陶芸（無名異焼）や竹細工・土人形等の民芸品について、幅広い創作活動を実施することで、佐渡の伝統文化や工芸への理解を深め、継承について学び、地域の発展に貢献できる資質・能力を育てる。</p> <p>(1) 佐渡文化の対象や事象を捉える造形的な視点についての理解を深めるとともに、制作方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 佐渡の伝統文化への理解と継承の視点から、表現の意図と創造的な工夫、工芸・民芸の価値や働きなどについて考え、個性豊かに発想し、造形的な構想を練ったり、自己の価値観を高めて工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。</p>

4 評価の観点の趣旨

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技術 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 陶芸、竹細工、土人形等の作品の制作に必要な材料、道具について選択し、作品制作する技術を身に付けようとしている。 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めようとしている。 陶芸、竹細工、土人形等の工芸・民芸作品の制作をとおして佐渡地域の文化について理解している。 	<p>創造的・造形的なよさ美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸・民芸の要素などについて考え、主題を生成し創造的に発想し、造形的な構想を練ったり、価値意識をもって工芸・民芸の伝統文化に対する見方や継承への考え方を深めようとしている。</p>	<p>授業に対する取り組み方や佐渡地域に引き継がれている伝統文化（陶芸・竹細工・土人形等）について興味・関心を持って主体的に取り組もうとしている。</p>

5 評価規準と評価方法

	評価の観点の趣旨を踏まえ、以下の方法で評価します。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・各制作工程を進める上での材料や用具に対する知識を身に付け、制作への活用に生かしているか。 ・工芸、民芸に関する技能が身に付き、より独創性、創造性に富んだ作品を制作することができるか。各工程に求められる技能を的確に行うことができるか。 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・工芸、民芸に関する応用的な技術や知識を活用し、創造的な作品作りへの応用力を身に付けているか。 ・使用する用具や素材に関する知識を理解し適切に扱う能力を身に付けているか。 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・工芸、民芸作品の制作に興味・関心を持ち、主体的に取り組む態度を身に付けているか。 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

学期	単元名	授業時数	教材名	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
前期	ガイダンス	2	教科書・ガイダンス用の説明・補足プリント	・年間計画を説明する。	a b c	授業態度 感想文・口頭発表 作品提出授業の取組状況、ワークシートの内容と提出状況、完成した作品の内容や提出状況
	佐渡陶芸（無名異焼）の歴史と製造工程の特徴	2	教科書・ワークシート（制作工程の作成）	・佐渡陶芸の歴史を学びながら、製造工程の特徴への興味・関心を持たせる。 ・ろくろによる湯呑み・茶碗・大皿等の制作を通して伝統工芸を理解させる。 ・陶芸に対する知識や技術を習得させる。	a b c	
	生磨きや焼成後の砂研磨という特殊な作業土練り（工程説明）	5	ワークシート（制作工程の作成）	・陶器が完成するまでのそれぞれの工程の意味を理解させる。	a b c	
	創作実習（作品制作）	26	粘土、ロクロ、ヘラ、コテ、カンナ、切り糸、セーム皮、かめ板等	・無名異焼による茶碗類等の制作を通して伝統工芸を理解させる。 ・陶芸（無名異焼）に対する知識や技術を習得させる。	a b c	
後期	佐渡竹の歴史・特性	4	佐渡竹の特性竹細工の歴史の説明プリント	・佐渡竹の特性と竹細工の歴史を学び、地域への関わりを深める。 ・佐渡に生育する竹の種類と、その特性を理解させる。	a b c	授業態度 感想文・口頭発表 授業の取組状況、ワークシートの内容と提出状況、完成した作品の内容や提出状況
	佐渡土人形（八幡人形）の歴史と制作方法	5	教科書・ワークシート（制作工程の作成）	・実習に必要な材料づくりと、それに必要な道具を理解させる。	a b c	
	佐渡竹細工・土人形の素材選定・材料づくり実習（作品の制作）	26	鉋、鋸、小刀、木槌、定規、紙やすり等	・創造的、独走的な制作を通して伝統工芸・民芸の価値と継承の重要性を理解し、その知識や技術を習得させる。	a b c	

計 70 時間（50 分授業）

7 課題・提出物等

作品ワークシート・感想文・作品などの課題を単元ごとに提出する。

8 担当者からの一言

佐渡の地域文化に親しみ、地域の伝統文化・芸能を継承し、発展させる態度の育成を支援します。

（担当：伊藤・葛原）

教科（科目）	地域学（音楽総合A）	単位数	2単位		学年（系列）	2学年（自由選択系列）
使用教科書	能・狂言を楽しむ本（株式会社主婦と生活社）					
副教材等						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活で必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切にした指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

「生きる力」を育み、音楽の諸活動の中で、基礎的、基本的な知識および技能を確実に習得させ、美しいものや自然に感動する柔らかな感性の育成を目指す。

3 指導の重点

課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす指導の充実を図る。

- (1) 音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・狂言の歴史、表現方法、楽譜の読み方や生徒個々、グループでの演奏方法・歌唱方法を小テスト・演奏の実技テスト（グループ・個人）とおして理解している。 ・生徒個々やグループでの役割を理解して各種楽器の演奏方法や歌唱方法が身に付いている。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々やグループが発表内容を検討し合い、演奏や歌唱をしている。 ・発表方法を工夫してグループメンバーが協働した発表をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 ・生徒個々やグループにおいて、音楽活動や地域の伝統文化である能・狂言について興味・関心を持って主体的に取り組もうとしている
評価方法	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の取り組み（授業態度、楽曲に対する姿勢、他者との協働性など） ・実技テスト（グループ・個人） ・単元確認テスト ・振り替えシートなど提出物から、総合的に評価します。 		

5 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
4 5	楽典	3 楽典	ビデオ DVD・楽典基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・音符・音楽用語等の楽譜に関する復習をさせる。 ・音楽基本をビデオ DVD 鑑賞で学習する。 	a b c	授業の取り組み 実技（独唱） 振り返りシート
	歌唱	6 歌唱	補足資料	<ul style="list-style-type: none"> ・視唱練習 課題曲独唱 ・楽譜の読み方、リズム、技能面ともに応用力を学ばせる。 	a b c	単元確認テスト 振り返りシート
	楽器	22 楽器	各種楽器	<ul style="list-style-type: none"> ・ギター・リコーダー・ピアノ等楽器の基本演奏方法を学ばせる。 	a b c	課題提出 振り返りシート 実技テスト
6	狂言鑑賞	4 狂言	狂言の DVD	<ul style="list-style-type: none"> ・狂言について学び DVD 鑑賞させる。 ・能舞台・衣装・所作等を理解させる。 	a b c	狂言の DVD を鑑賞後の感想文の内容と提出状況 振り返りシート
7 8 9 10	自由課題 (生徒個々)	14 課題 (個人)	ワークシート 課題や学習計画・ 各種器楽・楽譜	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々が、器楽・歌唱について自由課題を決めて、発表する。 ・前期に学習した器楽・歌唱の中から興味・関心のあったものを選択し、学習計画を立てて練習させる。 	a b c	授業の取り組み ワークシート・課題や 学習計画の記載 振り返りシート

11	創作	6 創作	ワークシート	・替え歌、好きな曲の和声、旋律作りを少	a b c	授業の取り組み
12			課題や学習計画 曲を創り	人数で取り組み練習させる。		実技（器楽） 振り返りシート ワークシート・課題や 学習計画提出状
1	自由課題	10 課題	ワークシート	・4～6人のグループで課題を決めて楽譜	a b c	授業の取り組み
2	(グループ)	(グループ)	課題や学習計画・ 各種器楽・楽譜	選曲、演奏形態等の練習計画を立て発表 に向け練習。		実技（器楽） 振り返りシート
3	発表	5 発表		・生徒個々、グループの実技や創造力を十 分に発揮させ、グループでの音楽活動を 通じて互いを思いやり、尊重させる。 ・他者の演奏を鑑賞し評価する。	a b c	グループの演奏発表 内容自己・他者への 評価

計 70 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・ 単元ごとに確認テストを実施（授業の中で行う）
- ・ 課題提出をさせる。（ワークシート・プリント課題・課題提出等）

7 担当者からの一言

佐渡の伝統芸能である、楽典・歌唱・器楽・狂言・能の基本的な技能・知識の向上を図るとともに、思考力・想像力を養う。
実技活動は、身体が覚えるまで学習に取り組む姿勢が望ましい。

(担当：青木)

教科（科目）	地域学（音楽総合B）	単位数	2単位	学年(系列)	3年次(自由選択系列)
使用教科書	能・狂言を楽しむ本（株式会社主婦と生活社）				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切に指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

佐渡の民謡音楽（佐渡おけさ）など郷土音楽の諸活動をとおして、郷土音楽の見方・考え方を働かせ、生活や地域社会の中の音や音楽、文化と深く関わる資質・能力を育成する。

3 指導の重点

佐渡の民謡音楽（佐渡おけさ）など郷土音楽の諸活動をとおして、郷土音楽の見方・考え方を働かせ、生活や地域社会の中の音や音楽、文化と深く関わる資質・能力の育成を目指す。

(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 郷土音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫したり音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりすることができるようにする。

(3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、音楽文化を尊重し、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技術 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 民謡音楽、郷土音楽の歴史、伝統楽器の演奏・表現方法、楽譜の読み方を理解している。 生徒個々やグループでの役割を理解して各種楽器の演奏方法や歌唱方法が身に付いている。 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽を創作で表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々やグループで役割を理解し、発表内容を検討し合い、演奏や歌唱を協働し表現している。 創意工夫をした音楽表現をするための技能を身に付け、郷土音楽の視点から創造的に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業に対する取り組み方や佐渡地域に引き継がれている伝統文化（陶芸・竹細工・土人形等）について興味・関心を持って主体的に取り組もうとしている。 郷土音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に取り組んでいる。

5 評価規準と評価方法

	評価の観点の趣旨を踏まえ、以下の方法で評価します。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・郷土音楽の歴史、表現方法、楽譜の読み方や伴奏方法、歌唱方法の小テストや演奏等の実技テストをとおして理解しているか。 ・伝統楽器の扱い、演奏方法や民謡の歌唱方法において技能が身に付いているか。 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・民謡の発表や演奏方法を工夫し表現を豊かに発表ができていないか。 ・伝統楽器の基本的な扱い及び演奏ができ、加えて、郷土音楽を意識して表現しているか。 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・音楽活動に対する取り組み方や地域の伝統文化である郷土音楽について興味・関心を持って主体的・創造的に取り組んでいるか。 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

学期	単元名	授業時数	教材名	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
前期	楽典 歌唱	8	郷土音楽の歴史を学習・楽典、楽譜	・音符・音楽用語等の楽譜に関する復習 ・楽典、楽譜の読み方・書き方（音楽記号について学び、楽譜に慣れる） ・民謡、郷土音楽の歌唱方法について学ぶ ・日本歌曲・郷土音楽・民俗芸能・諸外国の歌曲を知る	a b c	・授業態度 ・感想文・口頭発表 ・授業の取組状況及びワークシートの内容と提出状況 ・自由課題（創作音楽）の発表内容や取り組み状況等
	楽器	12	各種楽器①（伝統楽器）	・器楽演習①（三味線・締太鼓等、楽器の奏法を習得し、弾き歌いを楽しむ）	a b c	
	佐渡学①	8	狂言・民謡①	・能舞台・衣装・所作等を学ぶ。 ・民謡、佐渡おけさを学習させる。（三味線・締太鼓・踊り・歴史等）	a b c	
	自由課題（創作）	12	ワークシート 課題や学習計画・各種器楽・楽譜	・生徒個人及びグループで、器楽・歌唱について自由課題を決めて発表する。 ・学習した器楽・歌唱の中から興味・関心のあったものを選択し、学習計画を立てて練習させる。	a b c	
後期	楽器	8	各種楽器②（伝統楽器）	・器楽演習②（胡弓・能管・尺八等、楽器の奏法を習得し、弾き歌いを楽しむ）	a b c	・授業態度 ・感想文・口頭発表 ・授業の取組状況及びワークシートの内容と提出状況 ・自由課題（創作音楽）の発表内容や取り組み状況等
	佐渡学②	8	狂言・民謡②	・能舞台・衣装・所作等を学ぶ。 ・民謡、佐渡おけさ発表。（胡弓・能管・尺八・踊り）	a b c	
	自由課題（創作）	14	ワークシート 課題や学習計画・各種器楽・楽譜	・生徒個人及びグループで、器楽・歌唱について自由課題を決めて発表する。 ・学習した器楽・歌唱の中から興味・関心のあったものを選択し、学習計画を立てて練習させる。	a b c	

計 70 時間（50 分授業）

7 課題・提出物等

・単元ごとに理解度・到達度、実技テスト等を実施（授業の中で行う）・課題提出（ワークシート・プリント課題 等）

8 担当者からの一言

・佐渡の郷土音楽を体感して楽典・歌唱・器楽・狂言・能の基本的な知識・技能の向上を図り、郷土音楽の価値や創造力を養います。

（担当：高野 静香）

教科（科目）	地域学（書道講座）	単位数	2単位	学年(系列)	2学年(自由選択系列)
使用教科書	実用書道楽しい暮らしの書（日本放送出版協会）				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切に指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

書の幅広い創作活動を通して美的体験を豊かにし、書を愛好する心情や態度を育てるとともに、書文化についての理解を深め、感性や個性豊かな書の能力を高め、生涯にわたって書と関わっていく資質を養う。

3 指導の重点

書の幅広い創作活動を通して美的体験を豊かにし、書を愛好する心情や態度を育てるとともに、書文化についての理解を深め、感性や個性豊かな書の能力を高め、生涯にわたって書と関わっていく資質を養う。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に俳句・短歌・詩歌の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 書の実現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。 書道をとおして日本や地域文化を理解し、作品制作方法や鑑賞を能力が身に付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。 それぞれの作品内容に合った書き方を選択し必要な材料、道具を理解して、創造的な作品にしている。 	<p>書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。</p>
評価方法	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業態度、作品、課題の内容や提出状況すべての学習活動などから、総合的に評価します。 		

5 学習計画

学期	単元名	授業時数	教材名	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
前期	<ul style="list-style-type: none"> ガイダンス 生活の中の実について筆で年賀状や手紙を書く 	2	ガイダンス用資料 便箋・巻紙・ハガキ	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画を説明する。 日常生活の中にある書について説明する。 手紙やはがきの様式とマナーについて学ばせる。年賀状、はがき、手紙を書かせる。 書における表現の工夫について学ばせる。（運筆のリズムと墨の美しさ、用具用材の工夫、構成と作品イメージさせる。） 作品制作をする。（俳句、短歌、詩歌や好きな言葉を書かせる。） 	a b c	授業態度 課題提出状況 授業の取組状況 完成した作品の内容
		3				
後期	<ul style="list-style-type: none"> 俳句、短歌、詩歌を書く 	12	見本の俳句、短歌、詩歌の書			
		15				

後 期	・表具について	18	刷毛、裏打ちがみ、ベニヤ板、布	<ul style="list-style-type: none"> ・表具の制作方法、俳句、詩歌作品等の裏打ちを理解する。 ・パネル、色紙掛け等の制作をする。 ・パネルや色紙掛け等への貼り込みを学ばせる。 	a b c	授業態度 課題提出
	・いろいろな素材に書く	13	CDカセットケース、うちわ、ランチョンマット、Tシャツ	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルCDカセット、うちわ、ランチョンマットに書く方法を学ばせる。 ・Tシャツを染める方法を学ばせる。 		
	・地域に残る書道作品の鑑賞	4	地域に残る書道作品	<ul style="list-style-type: none"> ・書道作品を鑑賞させ、感想を報告書（レポート）まとめさせる。 		

計 70 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

課題、提出物は授業の中で実施します。

7 担当者からの一言

学習目標を明確にし、「学ぶ楽しさと理解する喜び」を知ってください。

(担当：高野悦子)

教科（科目）	地域学（書道探究）	単位数	2単位	学年(系列)	3年次(自由選択系列)
使用教科書	実用書道楽しい暮らしの書（日本放送出版協会）				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①自己管理能力を身に付けさせるため、挨拶励行など基本的な生活習慣を確立し、規律向上精神を育成します。</p> <p>②社会生活に必要な基礎知識と、変化に応じて主体的に活用できる技能を育成します。</p> <p>③自らのキャリアを常に意識し、「なりたい自分」の実現に向けたアクションを起こす力を育成します。</p> <p>④主体的に学習に取り組み、生涯に渡って学び続ける態度を育成します。</p> <p>⑤多角的に物事を考え、他者と協働しながら問題発見・解決を行うとともに、自身の意見をまとめ、表現・発信する力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の実態を把握して、基礎的・基盤的知識を大切に指導の充実・向上を図り、実践的な専門科目を体系的に学び、能力・適性・進路の希望に応じた編成とします。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を育むとともに、「課題研究」等の探究的な学習活動を通して生涯に渡り学び続ける態度を身に付けます。</p> <p>③教科・科目を5つの系列に分類し、系列に対応した必修科目、総合選択科目、自由選択科目を体系的に編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた学習活動を実践します。</p> <p>④授業や実習で課題解決のためICTを活用して、発展的な学習活動を行います。</p> <p>⑤地域の行政や企業と連携しながら、教科横断的な学習や実習・課題研究を行います。</p>

2 学習目標

佐渡地域の書文化と書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、地域の多様な文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を育成する。

3 指導の重点

佐渡地域の書文化と書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、地域の多様な文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を育成することを養う。

- 書の実現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、創造的に表現するための技能を身に付けるようにする。
- 書よさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に深く構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。
- 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技術 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 書の実現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 地域の書文化等の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。 書道をとおして日本や佐渡の地域文化を理解し、作品制作方法や鑑賞を能力が身に付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 書よさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫し、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書美を味わい深く捉えている。 それぞれの作品内容に合った書き方を選択し必要な材料、道具を理解して、創造的な作品にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 佐渡地域の書の伝統・文化に豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。

5 評価規準と評価方法

	評価の観点の趣旨を踏まえ、以下の方法で評価します。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書の高さや美しさ、書の表現意図を、創造的に鑑賞しているか。 ・創造的かつ効果的な書表現をするために、使用する筆記具の特性を理解し、構想に基づいた表現の技能が身についているか。 □などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫しているか。 □などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組んでいるか。 □などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

学期	単元名	授業時数	教材名	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
前期	・篆書、隸書、草書、行書、楷書の各書体と字形	14	実用書道楽しい暮らしの書 P12～P30	・篆書、隸書、草書、行書、楷書の学習を踏まえて古典を鑑賞し、字形や線質、構成などの表現性や、篆書の美の多様性について理解を深める。	a b c	<ul style="list-style-type: none"> 提出作品 活動の様子 作品ファイル ワークシート 「学習のまとめ」の内容 定期考査
	・鑑賞一書の美や風趣	6	鑑賞教材 越佐文人研究会の掛軸や扁額、色紙、短冊、手紙類	・篆書、隸書、草書、行書、楷書の古典の概要について理解して臨書し、篆書の美を創造的に表現するための技能を身に付ける。		
	・地域に残る書道①	4	地域に残る書道作品① 佐渡書道家 佐山大業	・篆書、隸書、草書、行書、楷書の古典の表現を自らの書風として昇華させた作品を鑑賞し、古典を生かした創造的な表現について話し合う。		
	・佐渡文化の俳句、短歌、詩歌を書く①	16	見本の俳句、短歌、詩歌の書	・書における表現の工夫について学ばせる。(俳句、短歌、詩歌や好きな言葉を書かせる)。		
後期	・地域に残る書道②	4	地域に残る書道作品② 佐渡書道家 佐山香代子	・篆書、隸書、草書、行書、楷書の古典の表現を自らの書風として昇華させた作品を鑑賞し、古典を生かした創造的な表現について話し合う。	a b c	<ul style="list-style-type: none"> 提出作品 活動の様子 作品ファイル ワークシート 「学習のまとめ」の内容 定期考査
	・佐渡文化の俳句、短歌、詩歌を書く②	12	見本の俳句、短歌、詩歌の書	・書における表現の工夫について学ばせる。(俳句、短歌、詩歌や好きな言葉を書かせる)。		
	・創作一言・名句を書く	10	実用書道楽しい暮らしの書 全項	・書で学んだ古典の特徴や技法を生かして、主体的な構想に基づいて創作し、相互評価をする。		
	・書を飾る	4	実用書道楽しい暮らしの書 P92～P120	・短冊、扇面、様々な紙 等		

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

・単元ごとに理解度・習熟度・課題提出（ワークシート・プリント課題 等）

8 担当者からの一言

・「書道探究」の学習をとおして、生涯にわたり書を身近な存在として感じられるようになってほしいです。

(担当：高野 悦子)

